

公益財団法人 MSD 生命科学財団

活動記録

公益財団法人 MSD 生命科学財団

活動記録

目次

ごあいさつ	4～6
沿革	7
設立趣意	7

財団概要

歴代／理事長・代表理事・理事	10
歴代／監事・評議員・顧問	12
事業概要(年表)	14

事業概要 医学分野

海外留学助成	18
研究助成	28

事業概要 有機化学分野

札幌シンポジウム	64
仙台シンポジウム	72
福岡シンポジウム	80
名古屋メダルセミナー	88
Chemist Award BCA & Lectureship Award MBLA	92
大津会議	98
KYOTO Rising-Star Lectureship Award	100
特別シンポジウム	101

事業概要 その他の事業

薬理・生命科学セミナー	106
製剤研究フォーラム	106
創薬工学シンポジウム	106
環太平洋学生キャンプ	106

代表理事

代表理事 界外 哲二

公益財団法人 MSD生命科学財団



2002年に旧万有製薬株式会社（現 MSD 株式会社）の支援により財団法人万有生命科学振興国際交流財団が設立されて以来、今日の公益財団法人 MSD 生命科学財団としての活動まで 25 年間、研究者の育成を通し生命科学の発展、ひいては人類の発展への寄与を目的として事業に取り組み、公益法人としての責務を遂行してまいりました。この活動の継続は、ひとえに弊財団の取り組みに深いご理解をいただいてまいりました歴代理事、監事、評議員、そして選考委員、組織委員の皆様、ならびに関係各位のご支援とご尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。

本誌は、これまでの支援活動を振り返り、その歴史を記録として残すために作成いたしました。財団設立以降、社会環境が様々に変化する中においても、弊財団理念の遂行と社会からの要請に応えるべく支援事業を実施してまいりました。事業活動を通して多くの若手研究者を支援してまいりましたが、その方々の中には、現在各専門分野の第一線でご活躍をされている方、あるいは教育者として後進の育成に取り組みまれている方が数多くおられます。継続してまいりました活動は、個人への支援から、やがて次の世代、またその次の世代へと繋がり、支援の成果がなお広がり続けていることを強く感じております。若い研究者の将来を見据えた選考にお力添えをいただき、若手研究者が飛躍する後押しをいただいていた選考委員の皆様、深く感謝を申し上げます。財団員一同、今後も研究者の皆様が益々ご活躍されることを期待し、将来への希望の意味も込めまして本誌をお届けさせていただきます。

四半世紀にわたり事業活動を実施してまいりましたが、大変残念ではございますが 2023 年をもって出捐会社である MSD 株式会社からの支援が終了となりました。これまで長きに渡り弊財団の活動を支えていただきました MSD 株式会社には深く御礼を申し上げます。

今後の財団の在り方につきましては、2024 年以降、役員・評議員・関係各位と様々な議論をおこなってまいりました。その結果といたしまして、東京大学 菅裕明先生が出捐されます一般財団法人 LeaP 科学財団と合併することいたしました。2026 年 7 月の合併以降は、弊財団が存続法人となり、「公益財団法人 LeaP 科学振興財団」として引き続き社会貢献活動を実施してまいります。改めまして、協議いただきました役員・評議員・関係各位に、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

合併後は、菅裕明先生と界外の 2 名が代表理事をつとめ、生命化学・生命科学分野への研究助成事業を実施してまいります。新しい出捐者、そして新しいガバナンスのもと、引き続き公益法人としての社会貢献の責務を果たしてまいります。

これまで弊財団の運営ならびに事業活動にお力添えをいただきました皆様に心より御礼を申し上げますとともに、今後とも「公益財団法人 LeaP 科学振興財団」をお見守りいただけましたら幸いです。これまでの活動の歴史・貢献に恥じない財団運営に努めてまいります。

前代表理事

前代表理事 諸岡 健雄

公益財団法人 MSD生命科学財団



弊財団は、設立以来、一貫して若手研究者に対する海外留学・研究の助成、シンポジウムの開催などを通して、支援事業の充実と研究者のニーズへの対応に取り組んでまいりました。財団の設立目的には、「人類の疾病の予防と治療に関する生命科学の研究の奨励及び助成とともに、国際交流を担うべき人材の育成に関する事業を行い、学術の振興及び人類の発展に寄与すること」を掲げ、その非常に重要な社会的使命に鑑み、着実に歩みを進めてまいりました。学術研究の将来の礎となる優れた若手研究者に焦点をあて、深い専門性と同時に幅広い視野を持った国際的なリーダーを育成するための多角的な支援を行うという点において、弊財団の活動は、他に例を見ない大変ユニークな特徴を有していたものと考えております。とりわけ、こうした活動の実施にあたっては、各分野における第一人者でいらっしゃる先生方をはじめとする関係各位より、次世代の育成及び学術振興の観点から継続的かつ多大なるご支援を賜りましたこと、改めて心より感謝を申し上げます。

歴史を振り返りますと、出捐会社であった旧万有製薬株式会社（現 MSD 株式会社）は、2004 年に Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA の完全子会社となり、その後 2010 年にシェリングプラウ社との統合により MSD 株式会社となりました。こうした状況を踏まえ弊財団においても、2016 年 10 月より、出捐会社である MSD 株式会社の社会貢献活動との連携の強化を視野に、名称を公益財団法人 MSD 生命科学財団と変更いたしました。

2019 年からは医学分野の研究助成支援領域を 4 領域（がん領域、生活習慣病領域、感染症領域、呼吸器・アレルギー領域）に拡大し、医学分野支援の充実を図ってまいりました。2020 年には COVID-19 により、これまでの価値観や常識が大きく転換される事態となりましたが、そのような状況下でも、財団として研究者の方々への支援活動を止めることなく継続してまいりました。また長い歴史を誇る有機化学分野への支援においても、Global で活躍できる人材育成を目的とし 2020 年から KYOTO Rising-Star Lectureship Award を開始し、新たな事業にも積極的に取り組んできたところです。

こうした取り組みの中、誠に残念ではございますが、2023 年をもって MSD 株式会社からの支援が終了することとなり、この状況を踏まえた活動の在り方について、関係各位と協議を重ねてまいりました。結果として、有機化学事業については 2026 年 3 月 1 日をもって公益社団法人日本化学会に譲渡し、今後は同法人の事業として活動が継続されることとなりました。また、財団自体は、これまで公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団、また公益財団法人 MSD 生命科学財団が培ってきた生命科学に対する貢献の精神と共に、公益財団法人 LeaP 科学振興財団へ継承されます。

これまで弊財団の運営ならびに事業にご支援をいただきました関係各位に心より御礼を申し上げますとともに、引き続き公益社団法人日本化学会への譲渡事業、並びに存続法人である「公益財団法人 LeaP 科学振興財団」へご支援を賜りますようお願い申し上げます。

元代表理事

元代表理事 小谷 秀仁

公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団



公益財団法人 MSD 生命科学財団の活動の歴史は、旧万有製薬株式会社（現 MSD 株式会社）が 1989 年より研究貢献の一環として実施していた有機合成化学分野での学術講演会「万有シンポジウム」の開催に端を発します。

その後、社会の要請に応える形で製剤・薬物動態分野での講演会、薬理学分野での講演会を加え、更には循環器領域における海外留学助成の支援が開始されました。これらの活動をさらに発展させることを目的として、2002 年に旧万有製薬株式会社の出捐により、財団法人万有生命科学振興国際交流財団として独立し、正式に財団としての活動を開始いたしました。設立当初より次世代を担っていただく研究者、医師、女性、そして国際的なリーダーの育成にフォーカスして支援し、国内の財団の中でも唯一無二の活動を展開させていただいていたと自負しております。

その後、2011 年 4 月より、公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団として新たなスタートをきりました。1 カ月前の 3 月 11 日には東北地方太平洋沖地震が発生し、未曾有の災害に混沌とする中で、公益財団法人として可能な支援を模索し、2012 年には東北地方の研究施設を対象とした震災研究支援として、地震国日本において東日本大震災の学術的な学びを将来に継承することを目的として疫学的研究の助成事業を立ち上げたことを思い出します。

現在の日本の社会情勢を鑑みますと経済的にも政治的にも新しい構造への変化への真ただ中です。そのような時代には日本国が内に留まることなく、更なる国際的な貢献を目指して国内外でリーダーシップを発揮することが必須です。天然資源も国土も、また言語の壁がある日本では人財が最も大切な財産です。その様な背景から財団運営に於いては、新しい時代の中で飛躍することができる人財を育成する事を重要課題と掲げ、最優先に支援を行ってまいりました。趣旨にご賛同を賜り、野依良治先生、矢崎義雄先生、寺本民生先生、永井良三先生、門脇孝先生、河野茂先生、故 秋山一男先生、福井次矢先生をはじめ多くの先生方のご協力で、生命科学・医学分野の人財育成、学術振興を一段と強化するために循環器、糖尿病、生活習慣病、感染症領域の研究助成、循環器、糖尿病、呼吸器・アレルギー領域疾患の留学助成を開始いたしました。特に弊財団は日本の将来を担うべき若手研究者、医学研究者、女性研究者、学生に特化した支援を行ってきたことが特筆すべき点でございます。また有機化学分野では日本を代表する賞である Nagoya Medal, Lectureship Award MBLA 等を通して国際的な人財育成にも貢献してまいりました。

これまでに弊財団が研究助成を支援させていただいた研究者の総数は 648 人、留学された研究者は 154 人、化学分野で受賞された方は 162 人、そして学術講演会にご参加いただいた方は約 5 万人に及びます。公益財団法人として、生命科学分野の発展に貢献する人財育成に取り組み、その一助を担えましたことは、ひとえに関係各位の皆様方からのご支援・ご協力の賜物であり、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

今後、弊財団は新しい体制で再始動いたします。この財団の趣旨を継承し、更に発展させ、引き続き生命科学分野での人財育成を通し社会に貢献していくことを大いに期待しております。

■ 沿革 2002年～2026年

- 2002年 旧万有製薬株式会社の社会貢献活動の一環として
財団法人万有生命科学振興国際交流財団を設立
- 2011年 公益財団法人に移行し、名称を**公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団**に変更
- 2016年 名称を**公益財団法人MSD生命科学財団**に変更
- 2026年 有機化学事業を公益社団法人日本化学会へ譲渡(3月1日)
一般財団法人LeaP科学財団との合併合意
名称を**公益財団法人LeaP科学振興財団**に変更(7月1日予定)

■ 設立趣意

財団設立の経緯ならびに趣意

近年、国内外を問わず生命科学の分野における進歩はめまぐるしいものがあります。

中でも医学・薬学分野の進歩は著しく、その研究成果により人類は大きな恩恵を受け、多くの疾患を克服し、平均寿命の延伸が出来るようになりました。最近では、ゲノム研究が大きな期待を集め、新たな革新的な医療の実現が期待されます。一方では、生活習慣に起因する疾病が増加傾向を示すなど、今また、大きな変革期を迎えようとしています。

このような中、生命科学の担う役割は益々重要となり、また、その研究は国境を越え、国際的な協力を必要とするものになってきております。

万有製薬株式会社では、1995年の創立80周年には、人類の健康・疾病に関する生命科学の向上を目的として米国のMerck Company Foundation内にBanyu Fellowship Awardsを設立して助成を開始し、生活習慣に起因する循環器、脂質代謝、動脈硬化の分野で、多くの国内の若手医学研究者の米国の研究機関への留学を助成してまいりました。また、薬学の分野においても、1989年から専門分野の学術振興と知識の普及啓発を目的として、合成、薬理、製剤の各領域でシンポジウムを開催し、これまでに、若手研究者を中心に延べ1万人にのぼる研究者の参加を得ています。さらに、外国の若手研究者を招聘し、国内研究者との共同研究を促進するとともに、国内のすぐれた研究に対して研究助成を行っています。

一方、万有製薬株式会社では、社会教育の観点から青少年の国際交流プログラムに助成をし、集団生活を通じた青少年の健全育成と国際交流の促進に貢献してまいりました。

万有製薬株式会社は、「患者さんのために」という企業理念を掲げ、より良い新薬を創出することで社会に貢献することをめざしております。この社会貢献の一環として、次世代の生命科学の発展をにんげん内外の若手研究者に各種助成等を行うとともに、青少年の健全育成と国際交流について助成を行ってまいりました。

この度、万有製薬株式会社は、これまで行ってきた数々の社会貢献を、より確固たる基盤のもとで継続して実施することを期して、本財団を設立するものであります。

2002年9月6日



財団概要

歴代/理事長・代表理事・理事／歴代/監事・評議員・顧問
事業概要(年表)

■ 歴代／理事長・代表理事・理事 2002(平成14)年～現在

役職	氏名	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	
理事長	長坂健二郎	2002/10～2002/12				2006/4～2009/5						
//	山本 慧	2003/1～2006/3										
代表理事	小谷 秀仁								2009/6～2015/8			
//	諸岡 健雄											
//	界外 哲二											
理事	島田 和幸	2002/10～2016/6										
//	高橋 一之	2002/10～2010/9										
//	※高橋 透	2002/10～2017/6										
//	長坂健二郎	2002/10～2009/5										
//	名取 俊二	2002/10～2017/6										
//	二木 鋭雄	2002/10～2019/6										
//	西村 暉	2002/10～2002/12										
//	橋本 徹	2002/10～2010/9										
//	山本 章	2002/10～2015/6										
//	山本 慧	2003/1～2006/3										
//	※馬場 彰							2008/10～2013/6				
//	小谷 秀仁								2009/6～2015/8			
//	佐久間國夫									2010/5～2019/6		
//	諸岡 健雄											
//	田嶋 尚子											
//	寺本 民生											
//	野崎 京子											
//	石井 文由											
//	佐々木 敬											
//	※界外 哲二											
//	※渋谷 正則									2010/5～2015/8		
//	大島 正伸											
//	亀井 克彦											
//	永次 史											
//	※原田 均											
	※ 専務理事/業務執行理事	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	

■ 歴代／監事・評議員・顧問 2002(平成14)年～現在

役職	氏名	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	
監事	河上 恭雄	2002/10～2017/6										
//	柴原 武次	2002/10～2006/9										
//	杉田 正博					2006/10～2017/6						
//	吉田与志也											
//	長岡 美奈											
//	新藤 隆志											
評議員	明樂 泰	2002/10～2005/5										
//	大谷 明	2002/10～2008/2										
//	島田 馨	2002/10～2019/6										
//	清水 孝雄	2002/10～2023/6										
//	武田 哲夫	2002/10～2015/6										
//	秦 順一	2002/10～2019/6										
//	山岡 義生	2002/10～2015/6										
//	山本 慧	2002/10～2002/12										
//	吉田 光昭	2002/10～2019/6										
//	西村 暹		2003/1～2019/6									
//	高橋 希人							2008/3～2009/5				
//	福井 次矢								2009/5～2023/6			
//	寺本 民生											
//	宮園 浩平											
//	岩田 敏											
//	門脇 孝											
//	小谷 秀仁											
//	齊藤 光江											
//	野崎 京子											
//	諸岡 健雄											
顧問	中村 治雄											
//	佐久間國夫											
//	西村 暹											
		平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	

■ 事業概要(年表)

※留学助成、研究助成の年表は募集年度で掲載

				2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	
				■10月設立							
事業内容		交付者/ 受賞者数	参加者数	■(※財団設立前は万有製薬株式会社実施事業)							
医学分野	留学助成	循環器領域／生活習慣病領域	107	—	●循環器分野で実施						
		臨床疫学・薬剤疫学・生物統計学	20	—							
		呼吸器・アレルギー領域	27	—							
	研究助成	生活習慣病領域	375	—							
		女性研究者支援（感染症領域）	41	—							
		がん領域	100	—							
		呼吸器・アレルギー領域	23	—							
		感染症領域	60	—							
		がん医療政策に関する研究	2	—							
		震災支援	47	—							
有機化学分野	講演会・表彰	万有札幌シンポジウム	—	約11,000人							
		万有仙台シンポジウム	—	約12,000人							
		万有福岡シンポジウム	—	約13,000人							
		名古屋メダルセミナー	Gold: 26 Silver: 23	約9,000人							
		Lectureship Award MBLA	22	—							
		Chemist Award BCA	87	—							
		大津会議	—	255							
		KYOTO Rising-Star Lectureship Award	9	—							
		特別シンポジウム	—	約1,500人							
その他	講演会	薬理・生命科学セミナー	—	約2,000人							
		製剤研究フォーラム	—	約1,500人							
		創薬工学シンポジウム	—	約1,000人							
	その他	環太平洋学生キャンプ	—	—							
				平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	



事業概要

医学分野

海外留学助成／研究助成

海外留学助成 (1998年～2018年)

循環器領域 (1998年～2013年) / 生活習慣病領域 (2014年～2018年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>生活様式の欧米化と人口の高齢化が進む中で、生活習慣病の増加は深刻な社会的問題である。重篤な疾病の重要な危険因子である高血圧症、糖尿病等の生活習慣病への対策は一層重要になり、多くの医療機関において生活習慣病の成因、治療あるいは予防の研究が実施されているが、これらの研究が継続され発展することは極めて重要である。</p> <p>本プログラムは、外国の大学あるいは研究施設に留学し、生活習慣病領域の研究を行う日本在住の研究者に対し奨学助成を行うものであり、優れた研究者が外国の研究機関で研究成果を挙げ、人々の健康の保持増進に大いに貢献することを期待。</p>			
歴代選考委員	相澤 義房	磯部 光章	◎ 稲垣 暢也	今泉 勉
	植木 浩二郎	小川 聡	島本 和明	下村 伊一郎
	寺内 康夫	永井 良三	藤原 久義	堀 正二
	松崎 益徳	室原 豊明	◎ 矢崎 義雄	
	◎選考委員長		終了プログラムにつき所属等の記載は省略	

循環器領域

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ	留学先
1998	赤尾 昌治	京都大学 医学研究科 循環病態学	心筋細胞ミトコンドリアKATPチャンネルの機能と構造に関する基礎的研究	Johns Hopkins University
	一色 政志	東京大学医学部附属病院 分院	1. 血管内皮細胞のCa ²⁺ シグナリングにおけるカペオラの機能の解明 2. 機械的重樹に対する内皮細胞にオベオラと空間的シグナル機構再編成の秩序の解明 3. 動脈硬化、高血圧における内皮細胞カペオラの分析、形態、機能の変化の検討	University of Texas
	大倉 裕二	新潟大学 医学部 内科学第一	1. リンパ球性心筋炎と巨細胞性心筋炎の患者血清中のサイトカイン及び炎症関連物質の検索と比較検討 2. 免疫組織染色法、in situ PCR法による巨細胞性心筋炎及び末期拡張型心筋症患者の心筋組織の検討 3. 移植時摘出心におけるリンパ球クローナリティの検討	Mayo Graduate School of Medicine
	尾山 純一	九州大学 医学部 循環器内科	心不全の成因やその憎悪における炎症性サイトカインの役割に関する分子生物学的研究	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	塩島 一郎	東京大学 医学部 循環器内科	心血管系の発生・分子を制御する転写調整因子の解明	Tufts University School of Medicine
1999	青山 琢磨	岐阜大学 医学部 第二内科	心臓におけるアポトーシスにLOX-1(lectin-like oxidized LDL receptor:新規のスカベンジャー受容体の一種)は関与するであろうか?	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	小室 竜太郎	大阪大学 大学院医学系研究科 分子制御内科学	Sterol regulatory element-binding proteins (SREBPs) インスリン作用機構の相互作用の解明-脂質代謝と糖代謝相互関係の分子機序の解明-	University of Texas Southwestern Medical Center
	柴田 克志	慶應義塾大学 医学部 呼吸循環器内科	不整脈発生機序の分子生物学的解析:心筋カリウムチャンネルの構造活性相関および生理機能の解明	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School

	安川 秀雄	久留米大学 分子生命科学研究所 遺伝子情報研究部門	心筋における JAK/STAT 経路の制御系と病態に関する研究	University of California San Diego
	渡辺 徳	信州大学 医学部 第一内科	血管発生及び傷害血管リモデリングに伴う血管平滑筋細胞の遺伝子発現レベルで明らかとし、血管病変の安定化を図る治療を開発する	University of Washington, School of Medicine
2000	井手 友美	九州大学医学部附属病院 冠動脈疾患治療部	酸化ラジカル産生による細胞分子メカニズムおよび生体内レドックス制御機構の解明および生体内レドックス制御機構の解明および心血管治療への応用に関する基礎研究	University of Pennsylvania Medical Center
	関口 賢一	群馬大学 医学部 第二内科	心不全において発現変化する遺伝子群の安定と機能解析 - TNF α トランスジェニックマウスを用いた検討 -	Baylor College of Medicine
	高橋 知三郎	神戸大学医学部附属病院 第一内科	心筋細胞のアポトーシスと機械的刺激	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	中神 啓徳	愛媛大学 医学部 医化学第一	血管における HMG-CoA 還元酵素阻害薬 (スタチン系薬剤) の抗炎症作用の解明 - 低分子量 G 蛋白 Rac-1 を介した活性酸素抑制作用について -	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	森田 啓行	東京大学 大学院医学系研究科 内科学専攻 循環器内科	治療感受性遺伝子変異の同定 - 脂質代謝関連遺伝子プロモーター領域の解析を中心に -	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
2001	朝倉 正紀	大阪大学 大学院医学系研究科 病態情報内科学	HB-EGF の心筋細胞における生存因子としての役割解明	Baylor College of Medicine
	川那辺 吉文	京都大学 大学院医学研究科 脳統御医科学系脳神経外科	(1)Ca ²⁺ 透過性を有する非選択的陽イオンチャンネルおよびストア作動性 Ca ²⁺ チャンネルの functional expression cloning (2)Ca ²⁺ transporter protein の機能解析	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical
	小林 茂樹	山口大学 医学部 器官制御医科学講座 循環病態内科学	心筋症発現機序の分子的解明	Boston Biomedical Research Institute
	新谷 理	久留米大学 医学部 第三内科	虚血性心疾患および末梢性血管疾患における遺伝子プラス細胞ハイブリッド療法 (Gene and cell therapy) : 基礎実験および臨床への応用	Tufts University School of Medicine
	藤田 英雄	北里大学 医学部 内科学第 II	Forkhead / Winged Helix (WH) 転写因子をめぐる心血管系発生学の新たな研究	Vanderbilt University Medical Center
2002	川崎 雅規	岐阜大学 医学部 第二内科	Optical coherent tomography (干渉光を利用した断層撮影法) による冠動脈プラークの組織性状診断とその臨床応用	Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School
	小和瀬 桂子	群馬大学 医学部 第二内科	血管平滑筋細胞の発生・分化のメカニズムを分子レベルで研究する	University of Virginia School of Medicine
	藤山 総一郎	関西医科大学 内科学第二講座	1. 心筋再生医療にむけての心筋前駆細胞の同定・大量培養法の開発と分化誘導因子の同定 2. 虚血・梗塞心筋に対する内皮・心筋前駆細胞同時移植による心機能回復の検討	Baylor College of Medicine
	向井 靖	九州大学 大学院医学研究院 循環器内科学	シエラストレスによる内皮型一酸化窒素合成酵素 (eNOS) の発現調節の分子機構の解明	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	山下 智也	神戸大学 大学院医学系研究科 循環動態学	動脈硬化形成を調節する液性・細胞性免疫機序の解明	University of California, San Diego
2003	池田 勸夫	科学技術振興事業団 創造科学技術推進事業 柳沢オーファン受容体プロジェクト	SCAP (SREBP cleavage activating protein) , Insig を中心とした SREBP pathway の解明	University of Texas Southwestern Medical Center
	岡崎 啓明	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科	高脂血症のメカニズムの解明とその動脈硬化における意義に関する研究	University of Texas Southwestern Medical Center
	高橋 寿由樹	慶應義塾大学 医学部 内科学教室 呼吸循環器内科	心筋特異的 VI 型アデニル酸シクラーゼ過剰発現マウスの解析による心筋リモデリングの病態解明と遺伝子治療の開発	University of California, San Diego
	松井 裕	北海道大学医学部附属病院 循環病態内科学	心肥大及び心筋アポトーシスの細胞情報伝達系の研究及び臨床への応用	University of Medicine and Dentistry of New Jersey

海外留学助成 (1998年～2018年)

2004	天野 克也	関西医科大学 内科学第二講座	心筋幹細胞を用いた心筋再生の研究	Department of Medicine, New York Medical College
	泉 康雄	大阪市立大学 大学院医学研究科 分子病態薬理学	心血管再生における分子機構の解明および治療応用に関する研究	Baylor College of Medicine
	江口 和男	自治医科大学 臨床医学部門内科学講座 循環器内科学部門	高血圧患者における臓器障害と心血管疾患発症リスクに関する研究 一特に血圧日内変動異常および糖代謝異常合併の見地から一	Columbia University Medical College
	得能 智武	松山赤十字病院 循環器科	胚性幹細胞の心筋細胞への分化誘導	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	山原 研一	京都大学 大学院医学研究科 内科系講座 内分泌代謝内科	ヒト ES 細胞由来各種前駆細胞を用いた新たな心不全治療法の開発	National Heart and Lung Institute, Imperial College
2005	家田 真樹	慶應義塾大学 医学部 内科学教室 循環器内科	心臓神経再生機構の解明および心不全治療への応用	University of California, San Francisco
	大河原 浩	福島県立医科大学 医学部 内科学第一講座	非ゲラニルゲラニル化低分子 GTP 結合蛋白質の動脈硬化における役割と動脈硬化予知に関する研究	The University of Illinois at Chicago, College of Medicine
	土居 正浩	山口大学 医学部 器官制御医学講座 循環病態内科学	新しい 3 次元電子顕微鏡解析手法を用いた心不全病態機序の解析	University of California, San Diego
	宮川 繁	大阪大学 大学院医学系研究科 外科系臨床医学専攻 外科学講座 心臓血管・呼吸器外科	自己組織再生能を有するインテリジェントスキャフォールドによる心筋再生治療法の確立	Tronto General Research Institute, Tronto General Hospital, University of Tronto
2006	浅海 泰栄	東北大学 大学院医学系研究科 循環器病態学分野	心肥大・心不全における血管新生の役割：新たな治療標的としての可能性の検討	Boston University School of Medicine
	小菅 寿徳	東京医科歯科大学 循環器内科	MRI を用いた動脈硬化進展機序の解析	Stanford University School of Medicine
	今野 哲雄	金沢大学 大学院医学系研究科 臓器機能制御学	REST 遺伝子 E116K 変異導入マウスを用いた新しい心不全発症機序に関する研究	Harvard Medical School
	田原 宣広	久留米大学 医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門	動脈硬化における炎症とアポトーシスの役割の解明	University of California, Irvine School of Medicine
2007	柴 祐司	信州大学 大学院医学系研究科 循環器病態学分野	バクテリア人工染色体を用いたヒト胚性幹細胞由来心臓ペースメーカー細胞の同定	University of Washington School of Medicine
	鈴木 達	熊本大学医学部附属病院 循環器内科	ミトコンドリア機能の変化による血管内皮細胞への影響について	University of Massachusetts Medical School
	高橋 大	山形県立日本海病院 循環器科	糖尿病患者における心筋梗塞後の心筋リモデリングに対する p90 ribosomal S6 kinase (p90RSK) の機能の解明	Division of Cardiology, University of Rochester
	前嶋 康浩	東京医科歯科大学医学部附属病院 循環器内科	心不全における心筋萎縮の機序と転写因子 Foxo1 における転写後調節との関わり	New Jersey Medical School, Cardiovascular Research Institute
	明石 雅史	国立循環器病センター研究所 循環器形態部	プロテインキナーゼ G による血管収縮、平滑筋収縮による病態の解明ー高血圧症および血管攣縮での検討ー	Tufts-New England Medical Center
2008	嶋野 祐之	名古屋大学 大学院医学研究科 循環器内科学	心不全における脂肪細胞由来因子アディポネクチンの役割	Boston University School of Medicine
	林田 健太郎	慶應義塾大学 医学部 循環器内科	"Gas Therapy" による虚血再還流障害に対する新たな治療戦略の開発とメカニズムの解明	Institut Cardiovascular Paris Sud
	原田 睦生	山形大学 医学部 器官病態制御学講座 循環・呼吸・腎臓内科学分野	心臓由来幹細胞の増殖・分化・遊走・定着に関する分子メカニズムの解明とその応用法の開発	Imperial College London, Faculty of Medicine
	星出 聡	自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門	ABPM および家庭血圧を用いた高血圧患者の管理と臓器障害、心血管発症リスクに関する研究	University of Milano-Bicocca
	八木 秀介	徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 循環器内科学	血管炎症抑制による動脈硬化病変の新規治療法の開発	University of Rochester Aab Cardiovascular Research Institute

2009	小田 哲郎	山口大学 大学院医学系研究科 器病態内科学	蛍光共鳴エネルギー移動 (FRET: Fluorescence resonance energy transfer) 法を用いた心不全・致死的不整脈におけるリアノジン受容体機能異常のメカニズムの解明	University of California, Davis School of Medicine
	佐原 真	東京大学医学部附属病院 循環器内科	成熟心筋細胞・血管内皮細胞に至る各発生段階における新たな心筋・血管内皮前駆細胞マーカーとそれぞれの段階における発現遺伝子プロファイリングの同定	Massachusetts General Hospital / Cardiovascular Research Center
	廣野 恵一	富山大学 医学部 小児科	川崎病急性期における micro RNA による炎症の制御機構の解明	Cincinnati Children's Hospital Medical Center
	堀口 真仁	京都大学 大学院医学研究科 循環器内科学講座	潜在性 TGF β 活性化による AT-1 受容体および MMP の制御がマルファン症候群において果たす役割の解明	New York University School of Medicine
	矢野 俊之	札幌医科大学 医学部 内科学 第 2 講座	リン酸化 GSK-3 β によるミトコンドリア透過性遷移孔開口抑制の分子機構の解明	Johns Hopkins University
2010	伊藤 薫	千葉大学 大学院医学研究院 循環病態医科学	肥大型心筋症患者における心房細動発症因子の遺伝学的検索とそれに係る新たな治療戦略の開発	Harvard Medical School
	片岡 雅晴	杏林大学 医学部 内科学 II	micro RNA による肺高血圧症の病態機構の解明と新規治療法の開発	Children's Hospital Boston, Harvard Medical School
	黒部 裕嗣	徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 心臓血管外科学分野	再生医療を応用した微小グラフトの開発とその評価	Yale University School of Medicine
	古賀 純一郎	松山赤十字病院 循環器センター	単球/マクロファージ Notch 経路活性化による動脈硬化促進機序の解明	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
	中野 敦	大阪大学 大学院医学系研究科 分子心血管医学講座	心筋細胞におけるエネルギー調節に関わる分子メカニズムの解明	University of California, San Francisco
2011	小林 徹	群馬大学 大学院医学系研究科 小児科学分野	小児におけるワルファリン至適投与量と遺伝子多型との関連	Division of Clinical Pharmacology and Toxicology, The Hospital for Sick Children, University of Toronto
	坂倉 建一	自治医科大学附属さいたま医療センター 総合医学 I 循環器科	冠動脈薬物溶出ステント留置後の問題点を病理学的アプローチから解明すること	Experimental Cardiovascular Pathology, CVPath Institute, Inc.
	高濱 博幸	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 心不全部	収縮性の保持された心不全における新たな病態メカニズムの検討と治療戦略の開発 ー心脳連関の提案と解明ー	Division of Cardiovascular Diseases, Department of Medicine, Mayo Clinic
	太良 修平	日本医科大学 内科学(循環器、肝臓、老年、総合病態部門)	ゼラチン粒子を用いた幹細胞凝集による血管新生増強効果の検討	Division of Surgery (Section of Cardiac Surgery) and of Pediatrics, Yale University School of Medicine
	土肥 智貴	順天堂大学 医学部 循環器内科学講座	動脈硬化イメージングを駆使した不安定動脈硬化症の診断法確立とその臨床応用	Intravascular & Physiology Core Laboratories, Columbia University Medical Center, Cardiovascular Research Foundation
2012	青木 竜男	東北大学病院 循環器内科	血管内皮機能が心血管病発症に及ぼす影響ー特に精神的ストレスと関連についてー	Division of Cardiovascular Disease, Mayo Clinic
	門田 真	京都大学 大学院医学研究科 再生医学研究所 発生分化研究	ヒト多能性幹細胞由来心筋細胞の大動物への移植実験および心機能改善の検討	Department of Pathology, Center for Cardiovascular Biology, Institute for Stem Cell and Regenerative Medicine, University of Washington
	杜 徳尚	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 生体制御学講座 循環器内科学	成人先天性心疾患での肺高血圧症の治療法および予後の解明	Congenital Cardiac Centre for Adults, Toronto General Hospital
	松澤 泰志	横浜市立大学附属市民総合医療センター 心臓血管センター	非侵襲的血管内皮機能を用いた動脈硬化性疾患の新しい治療法の確立とその臨床応用	Cardiovascular Diseases and Internal Medicine, Mayo Clinic

海外留学助成 (1998年～2018年)

	吉田 直樹	名古屋大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	致死的心室性不整脈の発生・維持機構の解明と新たな治療戦略の開発	Division of Cardiovascular Diseases, Cardiac Rhythm Management Laboratory, University of Alabama at Birmingham
2013	安西 淳	慶應義塾大学 医学部 循環器内科	新しいB細胞サブセットを標的とした動脈硬化に対する新規治療法の開発	Center for Systems Biology Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School
	宇都宮 裕人	広島大学病院 循環器診療群 循環器内科	大動脈弁石灰化は心不全治療のターゲットとなるか?—弁石灰化と拡張機能障害の関連—	Cedars-Sinai Medical Center
	加藤 真吾	神奈川県立循環器呼吸器病センター 循環器内科	心臓MRIを用いた心血管疾患の新しい非侵襲的診断法の確立とその臨床応用	Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School
	清水 優樹	名古屋大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	心臓病におけるリンパ管再生機序の解明	Emory University School of Medicine
	外山 研介	熊本大学 大学院生命科学系研究部 循環器内科学	microRNAに着目した血管性認知機能障害の病態解明	Stanford University School of Medicine

生活習慣病領域

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ	留学先
2014	有田 陽	大阪大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	心筋梗塞後の線維化におけるケモカインの役割	University of California, San Diego
	大島 弘世	愛媛県立新居浜病院 循環器内科	動脈硬化形成・進展における非古典的 Wnt シグナル経路の役割と病態解明	Boston University School of Medicine
	香月 俊輔	九州大学 大学院医学研究院 循環器内科学	非虚血心筋における炎症性単球 / マクロファージを標的としたナノ粒子を用いたドラッグデリバリーシステムによる心筋梗塞に対する革新的治療法の開発	Harvard Medical School, Brigham and Women's Hospital
	住田 智一	東京大学医学部附属病院 循環器内科学 健康医科学創造講座	環境因子としての高食塩による慢性炎症制御機構の解明	Yale School of Medicine
	田中 賢一郎	島根大学 医学部 内科学第一	骨、筋組織における C18orf19 (chromosome 18 open reading frame 19) の役割の解明	McGill University
	安田 真子	滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病内分泌腎臓神経	糸球体上皮細胞のリソソームを標的とした糖尿病性腎症の病態解明	University of Freiburg
2015	赤木 達	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学講座	肺動脈性肺高血圧症の新規治療法の開発	South Paris University
	小保方 優	群馬大学 大学院医学系研究科 臓器病態内科学	駆出率の保たれた心不全患者と駆出率の低下した心不全患者における右室機能と肺高血圧症の関連の比較	Mayo Clinic
	渋谷 公尊	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	瞬β細胞増生経路に着目した新たな糖尿病治療標的の探索	Joslin Diabetes Center
	西宮 健介	東北大学 大学院医学系研究科 循環器内科学分野	超高解像度光干渉断層像を用いたヒト冠動脈壁内微細構造の探索	Harvard Medical School
	馬場 理	京都大学 大学院医学研究科 循環器内科学講座	動脈壁における単核食細胞分画の取り込みと増殖の比較およびその動脈硬化に対する影響の検討	Washington University in St. Louis, School of Medicine
	宮本 康二	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 不整脈科	MRIでの不整脈基質(造影遅延部位)とカテーテルアブレーション中の三次元マッピングシステムでの不整脈基質(異常電位部位)の関連に関する検討	Mayo Clinic
2016	小野寺 俊晴	大阪大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	アディポネクチンとアディポネクチン心臓関連の解明	University of Texas Southwestern Medical Center
	加藤 賢	千葉大学 大学院医学研究院 循環器内科学	多施設レジストリーを用いたたこつぼ心筋症の病態解明	University Hospital Zurich

	桑原 康秀	京都大学 大学院医学研究科 地域医療システム学講座 / 循環器内科学	GWAS により同定した遺伝子多型の機能解析による心不全感受性の解明と新規治療標的の同定	Cincinnati Children's Hospital Medical Center
	内藤 亮	順天堂大学 大学院医学研究科 循環器内科学	心血管疾患による世界的な疾病負荷の軽減を目的とした取り組み	McMaster University
	野本 博司	北海道大学 大学院医学研究科 内科学講座 免疫・代謝内科学分野	2型糖尿病における β 細胞機能不全の解明および膵島由来多能性幹細胞を用いた治療応用について	Larry L. Hillblom Islet Research Center
	矢尾板 信裕	東北大学 医学部 循環器内科	肺高血圧症の進展に関わる血栓、血管内皮機能の in vivo imaging を用いた検討	Charit-Universitaetsmedizin Berlin
2017	磯部 更紗	慶應義塾大学 医学部 循環器内科	全エキソン塩基配列解析による肺高血圧症の疾患関連遺伝子の同定と治療標的の解明	Stanford University School of Medicine
	川野 義長	慶應義塾大学 医学部 腎臓内 分泌代謝内科	腸管マクロファージ - 腸内細菌連関を介した新規インスリン抵抗性制御機構の解明	Columbia University
	神戸 茂雄	東北大学 大学院医学系研究科 循環器内科学分野	冠動脈疾患の成因において血管内皮機能が果たす役割の解明	Mayo Clinic
	藤野 剛雄	九州大学 大学院医学研究院 重症心不全講座	植込型補助人工心臓を用いた重症心不全治療の最適化に向けた研究	The University of Chicago Medicine
	宮地 康高	東京医科歯科大学医学部附属 病院 糖尿病・内分泌・代謝内科	転写因子 FoxO1 の制御機構および血管内皮機能におけるその役割	Columbia University Medical Center
2018	後藤 慶大	群馬大学 大学院医学系研究科 内科学循環器内科分野	左室駆出率の保たれた心不全動物モデルとヒトとの組織学的比較・検討	Heart Center Dresden
	鳥本 桂一	産業医科大学 医学部 第1内 科学講座	肝細胞由来 Exosomal RNA による糖・脂質代謝制御機構の解明	Cincinnati Children's Hospital Medical Center
	中田 康紀	奈良県立医科大学 医学部 循環器内科	心不全発症に関わるオートファジー活性調節メカニズムの解明	Rutgers University, The State University of New Jersey
	林 哲範	北里大学 医学部 内分泌代謝 内科学	糖尿病患者における体系的糖尿病性腎症進行促進因子の形態学的研究と新規バイオマーカーとの関連性	University of Minnesota
	林 友鴻	神戸大学 大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学	左室リモデリングおよび逆リモデリングにおける DNA メチル化機構の解明と新規治療標的の探索	Washington University School of Medicine in St. Louis
	水野 裕之	自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の血圧スリープサージの解明	Columbia University Medical Center

臨床疫学・薬剤疫学・生物統計学 (2003年～2012年)

敬称略
50音順

趣 旨	疫学ならびに生物統計学は公衆衛生や臨床医学の進歩発展のみならず、医薬品の開発にも大きく寄与する。しかしながら、これらの領域に携わる研究者はいまなお少数であり、若手研究者の育成が大きな課題である。このような状況を踏まえ、臨床疫学、薬剤疫学、生物統計学の各分野における国内若手研究者の海外留学を支援し、将来を担う人材の育成と疾病の予防や治療方法の向上に貢献することを期待。
歴代選考委員	海老原 格 ◎ 楠 正 竹内 正弘 福井 次矢 福原 俊一 柳川 堯 ◎選考委員長 終了プログラムにつき所属等の記載は省略

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	分野	所属機関	研究テーマ	留学先
2003	宇野 一	生物統計学	北里大学 大学院薬学研究科 臨床統計部門	1. 中間解析結果に基づき主要評価項目の解析に用いるモデルを逐次変更する試験デザインの研究 2. 生存時間をエンドポイントとした臨床試験におけるモデルの誤特定に対して頑健な中間解析手法の研究 3. 区間打ち切りデータに対する中間解析法の研究	Harvard School of Public Health
	後藤 雅史	臨床疫学	京都大学 大学院医学研究科 臨床疫学	1. 急性虫垂炎の診断ストラテジーに対する費用効果分析 2. 抗甲状腺剤抵抗性因子の検討 3. 診断検査特性に対する適切なメタ分析手法の検討	Harvard School of Public Health
	藤巻 淑	薬剤疫学	群馬大学 医学部 保健学科 医療基礎学	1. 全国女性看護師前向きコホート研究におけるベースライン調査 2. ホルモン補充療法の本邦女性に与える影響の解析 - 心疾患との関連を中心に -	Harvard School of Public Health
2004	山内 和志	臨床疫学	東京医科歯科大学 医療管理学	1. 米国における新しい医療技術の評価・マネジメントの手法に関する研究 2. 米国における健康リスク評価の手法とそれに対する医療政策立案の手法に関する研究	Harvard School of Public Health
	大森 崇	薬剤疫学	京都大学 大学院社会健康医学系 医療統計学	自発報告を用いた重要な有害事象の早期検出のための方法の検討	University of North Carolina at Chapel Hill
	竇澤 篤	臨床疫学	東北大学 大学院医学系研究科 公衆衛生学	若壮年期における動脈硬化関連疾患の危険因子およびその寄与危険度割合	School of Public Health, University of Minnesota
2005	片岡 正子	臨床疫学	京都大学 大学院医学研究科 放射線医学	1. SMF を用いた MMGdensity の定量的測定とホルモン投与による介入研究への応用 2. breast density の家族集積：定量可能な表現型を用いた乳癌責任遺伝子マッピングへのあられたアプローチ	Cambridge Breast Unit, Addenbrooke's Hospital, University of Cambridge
	田中 栄一	臨床疫学	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	臨床疫学・統計解析の理論と実際。特に、今後益々必要性が高まると考えられる大規模コホートにおける臨床研究の企画から実施、データの維持や品質管理、解析に必要な知識や技術の習得を目的とする。	Institute of Clinical Outcomes Research and Education, Stanford University School of Medicine

	西浦 博	生物統計学	広島大学 大学院保健学研究科	天然痘ワクチン免疫の持続期間に関する数理統計学的研究—多変量ポアソン分布に従う年齢・予防接種歴別の発症者数を利用した最尤推定	Institut für Medizinische Biometrie, der Medizinischen Fakultät der Eberhard-Karls-Universität Tübingen
2006	二宮 利治	臨床疫学	九州大学 大学院医学研究院 環境医学	慢性腎臓病患者の治療対象血圧値および降圧目標の検討	The George Institute for International Health, University of Sydney
	川口 淳	生物統計学	久留米大学 バイオ統計センター	外れ値に対し頑健な非線形統計モデルを用いた臨床データ解析法の開発と応用	The University of North Carolina at Chapel Hill
2007	寺澤 晃彦	臨床疫学	国立病院機構名古屋医療センター	検査結果に基づいた至適臨床決断を行うためのデータ統合型研究法の検討 (1) 臨床検査研究を評価するランダム化比較試験(臨床検査第4相試験)の実施および評価法の検討 (2) 診断精度研究の M 分析に用いる最適な要約受信者動作特定(SROC)曲線 \bar{E} の検討 (3) 悪性リンパ腫におけるFDG-PETを採用したEBMに基づく診断	Institute for Clinical Research and Health Policy Studies, Center for Clinical Evidence Synthesis, Tufts-New England Medical Center
2008	三品 浩基	臨床疫学	京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学	小児科診療におけるスクリーニングテストおよび診断に関する臨床研究	University of California, San Francisco, School of Medicine
	村上 義孝	薬剤疫学	滋賀医科大学 社会医学	個人データに基づいた統合解析(メタ・アナリシス)の方法論の検討	The George Institute for International Health
2009	稲本 賢弘	臨床疫学	名古屋大学 大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学	同種造血幹細胞移植の長期的治療成績とQOLを改善するための臨床疫学研究	Fred Hutchinson Cancer Research Center
	秦 淳	臨床疫学	九州大学 大学院医学研究院 社会環境医学講座	高血圧と糖尿病の治療に関する大規模臨床試験のメタアナリシスを用いた心血管病発症予防のエビデンス	The George Institute for International Health, University of Sydney
2010	菱田 朝陽	臨床疫学	名古屋大学 大学院医学系研究科 予防医学/医学推計・判断学教室	がん予防のための大規模ゲノムコホート研究における解析手法に関する研究	University of North Carolina, Chapel Hill
2012	大庭 幸治	生物統計学	北海道大学病院 高度先進医療支援センター	ランダム化比較試験から得られた個人データに基づくメタアナリシスに関する統計的方法論の研究	Institut Curie / INSERM U900
	角舘 直樹	臨床疫学	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康解析学講座 医療疫学分野	小児歯科患者およびその母親に対する行動科学的介入の開発と効果の検証	Stanford University School of Medicine
	河合 賢朗	臨床疫学	東北大学大学院医学系研究科 地域保健学	疫学的因子とBiomarker別の乳がん罹患・死亡リスクの研究	Fred Hutchinson Cancer Research Center

呼吸器・アレルギー領域 (2010年～2018年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>アレルギー患者は国民の30%を超えると推定され、しかも年々増加の傾向にある。特に季節性アレルギー性鼻炎などは、患者の生活の質(QOL)に大きな影響を与えている。また、気管支喘息の有症率も年々上昇しており、特に乳幼児や小児においてその傾向が顕著である。一方、先進国の中で喫煙率が高い我が国では、40歳以上の約8.5%が慢性閉塞性肺疾患(COPD)と考えられ、高齢化社会を迎えるにあたり問題になりつつある。</p> <p>このような現状を踏まえ、外国の大学あるいは研究施設に留学し、呼吸器・アレルギー領域の研究を行う国内若手研究者に対し海外留学支援を実施し、優れた研究者が外国の研究機関で研究成果を挙げ、人々の健康の保持増進に大いに貢献することを期待。</p>																
歴代選考委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">◎ 秋山 一男</td> <td style="width: 25%;">荒川 浩一</td> <td style="width: 25%;">一ノ瀬 正和</td> <td style="width: 25%;">海老澤 元宏</td> </tr> <tr> <td>◎ 大田 健</td> <td>岡本 美孝</td> <td>黒野 祐一</td> <td>斎藤 博久</td> </tr> <tr> <td>東田 有智</td> <td>長瀬 隆英</td> <td>◎ 西村 正治</td> <td>藤澤 隆夫</td> </tr> <tr> <td>三嶋 理晃</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎選考委員長</p> <p style="text-align: right;">終了プログラムにつき所属等の記載は省略</p>	◎ 秋山 一男	荒川 浩一	一ノ瀬 正和	海老澤 元宏	◎ 大田 健	岡本 美孝	黒野 祐一	斎藤 博久	東田 有智	長瀬 隆英	◎ 西村 正治	藤澤 隆夫	三嶋 理晃			
◎ 秋山 一男	荒川 浩一	一ノ瀬 正和	海老澤 元宏														
◎ 大田 健	岡本 美孝	黒野 祐一	斎藤 博久														
東田 有智	長瀬 隆英	◎ 西村 正治	藤澤 隆夫														
三嶋 理晃																	

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ	留学先
2010	中込 一之	埼玉医科大学 呼吸器内科・アレルギーセンター	ライノウィルス感染の気管支喘息に対する影響	University of Wisconsin School of Medicine and Public Health
	三谷 明久	東京大学 大学院医学系研究科 呼吸器内科	COPDの病態解明：プロテアソーム・ユビキチン機能低下/炎症緩解の減弱とその機序	National Heart and Lung Institute, Imperial College London
	山下 弘高	岐阜薬科大学 薬理学研究室	アレルギー疾患の治療におけるヒスタミン放出因子阻害剤の効果の検討	La Jolla Institute for Allergy and Immunology
2011	坂下 雅文	福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	鼻・副鼻腔炎におけるアレルギー炎症の制御	Northwestern University Feinberg School of Medicine
	服部 健史	北海道大学病院 第一内科	・気道上皮における自然免疫と獲得免疫の働き： 喘息におけるIL-1ファミリーの役割 ・喘息における上皮成長因子(EGF)の役割	University of Pittsburgh
	増子 裕典	筑波大学 大学院人間総合科学研究科 呼吸器内科	炎症性肺疾患(喘息、COPD)の遺伝素因に関する研究	The Johns Hopkins University School of Medicine
2012	内田 賢	佐賀大学 医学部 呼吸器内科	IL-33の慢性気道疾患における役割とそのメカニズムの解明	Mayo Clinic
	阪本 考司	名古屋大学 大学院医学系研究科 呼吸器内科学教室	次世代シークエンサーを用いた喫煙関連慢性呼吸器疾患の成因にかかわるエピゲノミクスの解析	The University of Pittsburgh
	森田 英明	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー研究部	非アトピー性気道炎症の発症機序の解明	Swiss Institute of Allergy and Asthma Research
2013	阿野 哲士	筑波学園病院 呼吸器内科	喘息難治化での個体因子と環境因子の相互作用の解明	McGill University
	神尾 敬子	九州大学 胸部疾患研究施設	気道上皮におけるウイルス感染によるB7-H1/PD-L1の発現機序の解明と分子標的治療の探索	The Monash Institute of Medical Research

	柳澤 悟	東北大学 呼吸器内科	慢性閉塞性肺疾患（Chronic Obstructive Pulmonary Disease：COPD）における Autophagy を中心とした Epigenetic な病態機序の解明	Imperial College London National Heart & Lung Institute
2014	市川 朋宏	和歌山県立医科大学 医学部 内科学第3講座	気管支喘息の難治化に関わる分子機構の解明	McGill University
	意元 義政	福井大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	好酸球性副鼻腔炎発症の解明	Northwestern University Feinberg School of Medicine
	小池 建吾	順天堂大学 医学部・大学院医学研究科 呼吸器内科学	慢性閉塞性肺疾患の病態における循環微小粒子の役割について	National Jewish Health
2015	加畑 宏樹	慶應義塾大学 医学部 内科学 教室 呼吸器内科	気管支喘息におけるマイクロバイオームと自然免疫の関与	Weill Cornell Medical College
	川崎 剛	千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学	血管内皮再生機序を介した難治性呼吸器疾患の新規治療戦略	University of Illinois at Chicago
	佐藤 正大	徳島大学大学院 医歯薬学 研究部 呼吸器・膠原病内科学分野	特発性肺線維症の病態解明と治療法開発	McMaster University
2016	長崎 忠雄	京都大学 大学院医学研究科 呼吸器内科学	喘息におけるオートファジーとフェロトーシスのバランス（グルタチオンペルオキシダーゼ-4の役割）	University of Pittsburg
	松下 一史	兵庫医科大学 先端医学研究所 アレルギー疾患研究部門	Regnase-1 の肥満細胞特異的な役割の研究	Stanford University School of Medicine
	渡辺 知志	金沢大学 医薬保健学域 医学類 呼吸器内科	加齢に伴う肺細胞の数的・機能的変化の解明	Northwestern University Feinberg School of Medicine
2017	池添 浩平	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科	移植患者肺を用いた気腫合併肺線維症の病態解析	University of British Columbia
	渋谷 里紗	東北大学 大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学 分野	T細胞疲弊化における IL-21 と Bach2 を中心としたエピゲノムネットワークの解明	National Institutes of Health
	藤井 詩子	岡山大学 医学部 血液・腫瘍・呼吸器内科学	好中球性喘息における自然リンパ球の役割についての検討	McGill University
2018	木村 裕樹	北海道大学病院 内科 I	気道自然免疫の脂質依存性制御を切り口とした喘息病態の解明	Department of Medicine, University of Arizona, Tucson
	重城 喬行	千葉大学 大学院医学研究院 呼吸器内科学	三次元血栓モデルを用いた慢性血栓性肺高血圧症の内皮細胞・血小板の機能異常解析および病態機序解明	Amsterdam University Medical Center
	槇田 広佑	東京大学 大学院医学系研究科 呼吸器内科学	難治性喘息における免疫細胞の役割の検討	McGill University

生活習慣病領域 (2010年～2025年)

敬称略
50音順

<p>趣 旨</p>	<p>現代の日本においては、高齢化やライフスタイル・社会環境の変容などにより、生活習慣病を中心とした様々な疾病が近年著しく増加し、国民の健康上の大きな課題である。この課題を解決するため、生活習慣病に関わる研究に対して助成を実施。</p> <p>【若手研究者支援】</p> <p>生活習慣病における治療の進歩・発展に貢献できる次世代を担う若手研究者の育成を目的とし、医学系の研究を対象。さらに、発展的かつ優秀な研究成果を収めた研究者の方を医学奨励賞として表彰。</p> <p>【スタートアップ支援】</p> <p>生活習慣病領域の研究に一定の成果・実績を有し、日本国内で組織的な研究体制をスタートさせた M.D. 研究者を支援。</p>
<p>選考委員</p>	<p>◎ 稲垣 暢也 公財) 田附興風会 医学研究所北野病院 猪阪 善隆 大阪大学大学院医学系研究科 植木 浩二郎 国立国際医療研究所 久米 真司 滋賀医科大学 ◎ 小室 一成 国際医療福祉大学 佐田 政隆 徳島大学大学院医歯薬学研究部 斯波 真理子 大阪医科薬科大学 高橋 倫子 北里大学医学部 寺内 康夫 横浜市立大学大学院医学研究科 野出 孝一 佐賀大学医学部 室原 豊明 名古屋大学大学院医学系研究科 横手 幸太郎 千葉大学大学院医学研究院 綿田 裕孝 順天堂大学大学院医学研究科</p> <p>◎選考委員長</p>
<p>歴代選考委員</p>	<p>荒木 栄一 ◎ 門脇 孝 木村 剛 島野 仁 谷澤 幸生 筒井 裕之 ◎ 寺本 民生 ◎ 永井 良三 益崎 裕章 柳田 素子 吉田 雅幸 吉村 道博 楽木 宏実</p> <p>◎選考委員長</p> <p style="text-align: right;">任期終了につき所属等の記載は省略</p>

万有医学奨励賞

※敬称略/所属機関は応募時

年度	賞	氏名	所属機関	研究テーマ
2012	最優秀賞	西村 智	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	二光子生体分子イメージングを用いた慢性炎症を背景とする生活習慣病の病態解明
	優秀賞	竹内 純	東京大学分子細胞生物学研究所 心循環器再生研究分野	心肥大発症とエピジェネティック因子機能制御との関係
	優秀賞	田部 勝也	山口大学医学部附属病院 第三内科	GSK-3 β による膵 β 細胞機能調節機構の解明とその制御による2型糖尿病治療の研究
	優秀賞	堀江 貴裕	京都大学医学部附属病院 探索医療センター 探索医療臨床部	動脈硬化形成過程におけるマイクロRNAの機能解析～新規動脈硬化治療法の開発を目指して～
	優秀賞	松坂 賢	筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科	脂肪酸組成制御に基づいた新規動脈硬化治療法の開発
	優秀賞	脇 裕典	東京大学 大学院医学系研究科 脂肪細胞機能制御学	次世代シーケンサーを用いた脂肪細胞特異的な転写調節機構のゲノムワイド解析
2013	最優秀賞	家田 真樹	慶應義塾大学 医学部 循環器内科	直接リプログラミングによる心筋再生と新しい心筋梗塞治療法の開発
	優秀賞	岡崎 啓明	東京大学 大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科	分子生物学及びゲノム解析の統合的研究戦略による糖尿病性脂質異常症の分子機構の解明
	優秀賞	久米 真司	滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病腎臓神経	糖尿病性腎症の尿細管障害進展機構における尿細管細胞オートファジーの役割
	優秀賞	佐々木 直人	神戸大学 大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学	制御性T細胞による動脈硬化病変形成抑制の分子機序の解明と制御性T細胞を誘導・制御することによる新規動脈硬化予防法・治療法の開発
	優秀賞	畠山 裕康	東北大学 大学院医工学研究科 病態ナノシステム医工学	GLUT4一分子動態に基づく骨格筋細胞におけるGLUT4輸送システムの包括的定量解析
	優秀賞	彦惣 俊吾	大阪大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	心筋における慢性炎症誘導機序の解明とその心不全治療への応用
2014	最優秀賞	長谷川 一宏	慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科	近位尿細管 SIRT1 によるポドサイト機能制御機構の解明-糖尿病性腎症発症における検討
	優秀賞	金崎 啓造	金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学	メタボリックシンドローム・妊娠高血圧腎症に共通の分子機構解明と新規治療戦略の開発
	優秀賞	川浪 大治	東京慈恵会医科大学 医学部 糖尿病・代謝・内分泌内科	ROCKによるマクロファージ機能調節機構と動脈硬化・糖尿病腎症における治療学的意義の解明
	優秀賞	柴田 玲	名古屋大学 大学院医学系研究科 循環器内科	新規アディポサイトカイン「CTR9」による血管病制御機構の解明
	優秀賞	蘇原 映誠	東京医科歯科大学医学部附属病院 血液浄化療法部	WNK-SPAK 蛋白結合阻害による新規高血圧治療薬の開発
	優秀賞	武田 憲彦	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科	心血管リモデリングにおける低酸素シグナル
2015	最優秀賞	藤生 克仁	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	心筋細胞と心臓マクロファージの相互作用による恒常性維持機構
	優秀賞	大石 由美子	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 先端分子医学研究部門 細胞分子医学分野	マクロファージの動的恒常性の変容による生活習慣病の分子機構
	優秀賞	神吉 康晴	東京大学 アイソトープ総合センター RI 教育研究推進部門	動脈硬化を惹起する miRNA の同定及び機能解析
	優秀賞	野村 和弘	神戸大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学	肥満病態形成における PGC-1 α 新規アイソフォームの役割
	優秀賞	藤田 義人	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	新規 eNOS 機能制御因子の探索による糖尿病および合併症に対する統合的治療法の開発
	優秀賞	宮崎 拓郎	昭和大学 医学部 生化学講座	動脈硬化症における組織特異的カルパインの役割

研究助成 (2010年～2025年)

2016	最優秀賞	山本 正道	京都大学 大学院医学研究科 腎臓内科学	エネルギー代謝可視化による心疾患の解析
	優秀賞	浅原 俊一郎	神戸大学 大学院医学研究科 内科学 講座 糖尿病・内分泌内科学	2型糖尿病候補遺伝子 Kcnq1 遺伝子領域による β 細胞量調節機構の解明
	優秀賞	古賀 純一郎	九州大学 循環器病未来医療研究センター	Notch リガンドによるマクロファージ機能制御と動脈硬化における役割解明
	優秀賞	竹藤 幹人	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科	心疾患発症に関わるキナーゼの網羅的解析
	優秀賞	林 香	慶應義塾大学病院 予防医療センター	糖尿病性腎症におけるポドサイトのエピゲノム制御機構の解明と治療への応用
2017	最優秀賞	野村 征太郎	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	時空間的1細胞トランスクリプトーム解析から切り込む心不全の病態解明
	優秀賞	蔵野 信	東京大学医学部附属病院 検査部	リソリン脂質に注目したリポ蛋白質学の発展
	優秀賞	河野 大輔	群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット 先端医学・生命科学研究チーム	FTO によるエネルギー恒常性制御機構の解明
	優秀賞	高成 広起	徳島大学病院 糖尿病対策センター	コレステロールが心筋ギャップ結合蛋白コネクシン40の発現・分布に与える影響
	優秀賞	武内 謙憲	筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科	KLF15の新機能・糖代謝と脂質代謝の新たな接点・ならびに発現制御メカニズムの解明
2018	最優秀賞	藤島 裕也	大阪大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	アディポネクチンの組織集積のメカニズムと、その抗動脈硬化作用の解明
	優秀賞	椎木 幾久子	山口大学 医学部 分子代謝制御学講座	新規糖尿病治療標的の創出を目指した β 細胞脱分化機構解明に関する研究
	優秀賞	田中 大祐	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	若年発症糖尿病患者における、次世代シーケンスを用いた原因遺伝子同定
	優秀賞	中村 修平	大阪大学 高等共創研究院 大学院生命機能研究科	オートファジーとTFEB転写因子による協調的な損傷リソソーム修復機構の解析
	優秀賞	仲矢 道雄	九州大学 大学院薬学研究院 薬効安全性学分野	心肥大時における死細胞除去の分子メカニズムの解明
	優秀賞	中山 幸輝	東京大学 医学部 循環器内科	新たな心機能制御要素としての心臓マクロファージの機能解析
2019	最優秀賞	七田 崇	東京都医学総合研究所 生体分子先端研究分野 脳卒中ルネサンスプロジェクト	脳梗塞後の神経修復に関わる分子群の同定
	優秀賞	宇都宮 裕人	広島大学病院 循環器診療群 循環器内科	経皮的治療時代における心臓弁膜症に対する包括的評価体系の構築 一負荷法・三次元評価による診断から、術中ガイダンス、予後評価まで
	優秀賞	奥山 朋子	横浜市立大学 大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学	細胞外マトリックススタンプを介したインスリン感受性制御機構の解明
	優秀賞	阪口 雅司	熊本大学 大学院生命科学部 代謝内科学講座	メタボリックシンドロームにおける褐色脂肪組織再生の分子機構の研究
	優秀賞	仙波 宏章	心臓血管研究所 基礎研究室 循環器内科	心臓線維化を制御するマクロファージ由来蛋白質
	優秀賞	宮脇 哲	東京大学 医学部 脳神経外科	頭蓋内主幹動脈狭窄の遺伝子解析研究
2020	最優秀賞	山城 義人	筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 柳沢裕美プロジェクト	大動脈瘤の新規治療法開発のための基盤解析
	優秀賞	安西 淳	慶應義塾大学 医学部 循環器内科	動脈硬化進展の新規メカニズムの解明
	優秀賞	井上 剛	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 内臓機能生理学	迷走神経刺激を介した動脈硬化進展抑制について

	優秀賞	辻本 和峰	東京医科歯科大学医歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野	FGF21 遺伝子特異的エピゲノム改変動物を用いた肥満発症の解明
	優秀賞	星野 温	京都府立医科大学大学院医学系研究科 循環器内科学	多面的 CRISPR スクリーニングによる心臓線維化の包括的解明と治療応用
	優秀賞	的場 圭一郎	東京慈恵会医科大学 医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病腎症の病態における糸球体上皮細胞 ROCK2 の意義
2021	最優秀賞	候 聡志	東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座/重症心不全治療開発講座	一細胞解析と in vivo CRISPR/Cas9 システムの融合による心不全リプログラミング因子スクリーニング
	優秀賞	池田 昌隆	九州大学大学院医学研究院 循環器内科学	虚血再灌流傷害におけるフェロトーシスの役割解明と治療法の開発
	優秀賞	伊藤 美智子	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 バイオエレクトロニクス分野	細胞死を起点とする非アルコール性脂肪性肝炎の発症機構解明と治療戦略開発
	優秀賞	糸数 隆秀	大阪大学大学院医学系研究科 創薬神経科学講座/分子神経科学講座	神経-免疫-血管クロストークに着目した糖尿病性末梢神経障害新規治療法の探索
	選考委員会特別賞	橋本 寿之	慶應義塾大学医学部 予防医療センター	オルガノイド形成に向けた心臓刺激伝導系転写制御機構の解明
	選考委員会特別賞	山原 真子	滋賀医科大学医学部 医師臨床教育センター	ポドサイトのリソソーム活性化に着目した新規糖尿病性腎臓病治療薬の開発
2022	最優秀賞	稲葉 有香	金沢大学新学術創成研究機構 革新的統合バイオ研究コア 栄養・代謝研究ユニット	迷走神経性臓器連関とその破綻の 2 型糖尿病病態における役割の解明
	優秀賞	江本 拓央	神戸大学大学院医学研究科 循環器内科学分野	シングルセル RNA シークエンスで迫る、動脈硬化に起因する大動脈瘤形成メカニズム
	優秀賞	神津 英至	札幌医科大学医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	分枝鎖アミノ酸-核酸代謝連関の制御による心不全の新規治療開発
	優秀賞	長谷川 頌	東京大学大学院医学系研究科 腎臓内科学	小胞体-ミトコンドリア連関から捉える糖尿病腎症の病態解明
2023	最優秀賞	伊藤 正道	東京大学大学院医学系研究科 循環器内科	心不全の予防的介入実現のための臓器特異的 DNA 損傷応答・修復機構の解明
	最優秀賞	平池 勇雄	東京大学保健・健康推進本部 / 医学部附属病院 糖尿病・代謝内科	NFIA による褐色脂肪組織のクロマチン制御機構およびその病態生理学的意義の解明
	優秀賞	貞廣 威太郎	筑波大学 医学医療系 循環器内科	生体内心筋リプログラミングによる慢性心不全治療法の開発
	優秀賞	田中 真司	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科	迷走神経刺激による糖尿病性腎臓病進展予防効果の検討
2024	最優秀賞	山本屋 武	日本大学医学部 内科学系糖尿病代謝内科学分野	肝細胞での摂食・絶食時の代謝応答における Trk-fused gene (TFG) の役割
	最優秀賞	由良 義充	名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座	クローン性造血に着目した心収縮能が保たれた心不全病態の解明
	優秀賞	大塚 憲一郎	大阪公立大学大学院医学研究科 循環器内科学	肥満症における冠動脈壁炎症とコラーゲンリモデリングの分子基盤の解明
	優秀賞	福田 士郎	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	血中可溶性 T-カドヘリンの生理的・病態的意義の解明
2025	最優秀賞	佐々木 周伍	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	膵島形成の高解像度解析と糖尿病再生医療への応用
	最優秀賞	高橋 佑弥	東京大学医学部附属病院 先端循環器医科学講座	心房心筋症の発症及び進行に老化が与える機序の解明：心房生検検体の組織学的研究
	優秀賞	小松 鉄平	東京慈恵会医科大学医学部 内科学講座 脳神経内科	抗フィブリン抗体と変異ウロキナーゼの融合体による急性期脳梗塞に対する新規血栓溶解剤の開発
	優秀賞	藤木 珠美	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 茨城県腎臓疾患地域医療学講座	長期 PKA 活性化に着目した肥満症の治療薬開発および病態解明

研究助成 (2010年～2025年)

若手研究者

※敬称略/所属機関は応募時

年度	分野	氏名	所属機関	研究テーマ
2010	循環器	朝野 仁裕	大阪大学 大学院医学系研究科 先進心血管治療学	ヒト難治性心不全のエピゲノム制御と病態進展にかかわる機序の解明
	糖尿病	新井 郷子	東京大学 大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 分子病態医科学部門	脂肪分解タンパク質AIMの制御によるメタボリックシンドローム制圧を目指して
	動脈硬化	石井 規夫	熊本大学医学部附属病院 代謝・内分泌内科	AMP キナーゼ活性化によるマクロファージ表現型の変化とマクロファージ増殖及びマクロファージ組織浸潤の抑制を介した抗動脈硬化作用の解析
	糖尿病	稲田 明理	九州大学 大学院医学研究院 幹細胞ユニット糖尿病遺伝子分野	β 細胞の分化を促進するメカニズムの解明
	循環器	猪原 匡史	京都大学 大学院医学研究科 臨床神経学	高血圧などの生活習慣病によって引き起こされる脳梗塞および血管性認知症に対する新規ナノ治療法の開発研究
	動脈硬化	臼井 文武	自治医科大学 分子病態研究センター バイオイメージング研究部	動脈硬化および大動脈瘤における自然炎症の役割の解明
	動脈硬化	岡村 将史	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科	新規褐色脂肪細胞形成因子の同定
	糖尿病	佐々木 努	群馬大学 生体調節研究所 代謝シグナル解析分野	コンディショナルノックイン法とウイルスマイクロインジェクション法による視床下部 Sirt1 とエネルギー代謝制御機構解析
	循環器	真田 昌爾	大阪大学 保健センター (大学院医学系研究科 循環器内科学)	新しい内因性免疫抑制システムの異種細胞間連関による心不全進展抑制機序の解明と新規治療法への応用
	循環器	染川 智	奈良県立医科大学 血圧制御学講座	右心不全に関与する新規遺伝子の同定と機能解析
	循環器	竹内 純	東京大学分子細胞生物学研究所 エピゲノム疾患研究センター	心肥大発症とエピジェネティック因子機能制御との関係
	糖尿病	田中 智洋	京都大学 大学院医学研究科 病理系腫瘍生物学講座	腸肝循環と脂肪細胞機能の統一的制御に基づく糖脂質代謝改善戦略の創出-肝・膵外分泌・脂肪組織・腸管に発現する β Klotho を標的としたアプローチ
	糖尿病	田部 勝也	山口大学医学部附属病院 第三内科	GSK-3 β による膵 β 細胞機能調節機構の解明とその制御による2型糖尿病治療の研究
	循環器	徳留 健	国立循環器病研究センター 研究所 生化学部	ANP・BNPの受容体を標的とした循環器・代謝性疾患治療薬開発の基盤確立
	循環器	西村 智	東京大学・科学技術振興機構さきがけ「光の利用」循環器内科	二光子生体分子イメージングを用いた慢性炎症を背景とする生活習慣病の病態解明
	糖尿病	細岡 哲也	神戸大学 大学院医学研究科 内科学講座 糖尿病・内分泌内科学	膵 β 細胞不全における慢性炎症の分子機構とその役割の解明
	動脈硬化	堀江 貴裕	京都大学医学部附属病院 探索医療センター 探索医療臨床部	動脈硬化形成過程におけるマイクロRNAの機能解析～新規動脈硬化治療法の開発を目指して～
	動脈硬化	松坂 賢	筑波大学 大学院人間総合科学研究科 内分泌代謝・糖尿病内科	脂肪酸組成制御に基づいた新規動脈硬化治療法の開発
	動脈硬化	山原 研一	国立循環器病研究センター 研究所 再生医療部	ヒトES/iPS細胞由来血管構成細胞の分化過程におけるmicroRNA発現とその機能検討
	糖尿病	脇 裕典	東京大学 大学院医学系研究科 分子エネルギー代謝学、糖尿病・代謝内科	次世代シーケンサーを用いた脂肪細胞特異的な転写調節機構のゲノムワイド解析
2011	循環器	相澤 健一	東京大学 大学院医学系研究科 コビキタス予防医学講座	プロテオーム手法によるKLF5転写複合体解析を通じた心血管障害メカニズムの解明
	循環器	家田 真樹	慶應義塾大学 医学部 循環器内科	直接リプログラミングによる心筋再生と新しい心筋梗塞治療法の開発
	糖尿病	太田 嗣人	金沢大学 フロンティアサイエンス機構	肥満病態における炎症とインスリン抵抗性の制御機構解明

	動脈硬化	岡崎 啓明	東京大学 大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 分子創薬・代謝制御科学講座	分子生物学及びゲノム解析の統合的研究戦略による糖尿病性脂質異常症の分子機構の解明
	循環器	川村 晃久	京都大学 学際融合教育研究推進センター 生命科学系キャリアパス形成ユニット	i PS 細胞誘導技術を応用した新規心筋細胞作製法の開発と生体イメージングによる安全性評価に関する研究
	糖尿病	河盛 段	大阪大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 / 医学科教育センター	糖尿病における膵α細胞グルカゴン分泌異常発現メカニズムの病態生理学的解析
	動脈硬化	神田 武志	慶應義塾大学 保健管理センター	メタボリックシンドロームにおける血管内皮レプチン抵抗性の意義
	糖尿病	窪田 哲也	国立健康・栄養研究所 臨床栄養研究部 栄養療法研究室	動脈硬化症における血管内皮細胞のインスリン受容体基質-2 の役割の解明
	糖尿病	久米 真司	滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病腎臓神経	糖尿病性腎症の尿細管障害進展機構における尿細管細胞オートファジーの役割
	循環器	小板橋 紀通	群馬大学医学部附属病院 循環器内科	TGF βシグナリングの心臓線維芽細胞特異的な作用と、病的心臓リモデリングにおける役割
	動脈硬化	佐々木 直人	神戸大学 大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学	制御性 T 細胞による動脈硬化病変形成抑制の分子機構の解明と制御性 T 細胞を誘導・制御することによる新規動脈硬化予防法・治療法の開発
	糖尿病	佐藤 叔史	熊本大学 大学院生命科学研究部 病態生化学分野	低酸素ストレスによる膵β細胞障害の分子メカニズムの解明
	循環器	曾根 正勝	京都大学 大学院医学研究科 内分泌代謝内科	疾患 i PS を用いた遺伝性血管障害の病態解明と生活習慣病血管合併症への展開
	動脈硬化	中川 嘉	筑波大学 大学院人間総合科学研究科 内分泌代謝・糖尿病内科	動脈硬化疾患に対する転写因子 CREBH の脂質代謝改善機能が与える影響
	動脈硬化	中島 歩	広島大学病院 再生医療部	DEC1 による血圧サーカディアンリズムの調節
	糖尿病	畠山 裕康	東北大学 大学院医工学研究科 病態ナノシステム医工学	GLU T4 一分子動態に基づく骨格筋細胞における GLU T4 輸送システムの包括的定量解析
	循環器	彦惣 俊吾	大阪大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	心筋における慢性炎症誘導機序の解明とその心不全治療への応用
	糖尿病	福田 尚文	山口大学医学部附属病院 感染制御室	SNARE 関連蛋白 DOC2b による糖代謝調節
	動脈硬化	藤本 昌紀	千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科	粥状動脈硬化におけるマクロファージの Twist1 機能の解析
	循環器	穆 勝宇	東京大学先端科学技術研究センター 臨床エビデネティクス講座	食塩感受性高血圧の発症の機序：腎β ₂ 受容体-WNK4 の役割と Epigenetic 調節
2012	動脈硬化	岩崎 仁	筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科	骨格筋、心筋におけるコレステロール代謝メカニズムの解明
	糖尿病	王 麗香	九州大学 大学院医学研究院 病態制御内科学	肝ミトコンドリアダイナミクスとメタボリックシンドローム
	糖尿病	金崎 啓造	金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学	メタボリックシンドローム・妊娠高血圧腎症に共通の分子機構解明と新規治療戦略の開発
	動脈硬化	唐澤 直義	自治医科大学 分子病態治療研究センター バイオイメージング研究部	動脈硬化における自然炎症の新たな分子基盤— インフラマソーム構成分子ホモログによる炎症制御機構の解明 —
	動脈硬化	川浪 大治	東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科	ROCK 2 によるマクロファージ分化調節機構と動脈硬化における治療学的意義の解明
	循環器	岸 拓弥	九州大学 大学院医学研究院 先端心血管治療学講座	脳内 AT1 受容体・アストロサイトを標的とする交感神経抑制を介した新たな動脈硬化治療
	糖尿病	榎山 暁史	朝日生命成人病研究所 糖尿病代謝科	マクロファージ由来キサンチン酸化還元酵素による生活習慣病の発症メカニズムの解析
	糖尿病	小林 雅樹	群馬大学 生体調節研究所 代謝シグナル解析分野	膵α細胞における転写因子 Fox O1 の生理機能の解明

研究助成 (2010年～2025年)

	循環器	柴 祐司	信州大学 医学部 循環器内科	新規3次元培養システムを用いたiPS細胞による心筋再生療法の開発
	循環器	柴田 玲	名古屋大学 大学院医学研究科 循環器内科学	新規アディポサイトカイン「CT RP 9」による血管病制御機構の解明
	糖尿病	白川 純	横浜市立大学 大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学	糖代謝を介した膵β細胞小胞体ストレス誘導性アポトーシスの制御機構解明
	動脈硬化	瀬ノ口 隆文	熊本大学 大学院生命科学研究部 糖尿病分子病態解析学	M1/M2 マクロファージにおけるスカベンジャー受容体を介した細胞内シグナル活性化の動脈硬化形成に果たす役割の解明
	循環器	蘇原 映誠	東京医科歯科大学医学部附属病院 血液浄化療法部	WNK-SPAK 蛋白結合阻害による新規高血圧治療薬の開発
	動脈硬化	武田 憲彦	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	プラーク安定化におけるHIF-2α依存的炎症抑制機構の解析
	動脈硬化	竹田 征治	奈良県立医科大学 第1内科	尿毒症物質(インドキシル硫酸)の制御による可溶性Flt-1を介した慢性腎臓病関連動脈硬化症のメカニズム解明とその治療法開発
	循環器	内藤 篤彦	大阪大学 大学院医学系研究科 心血管再生医学寄附講座	C1qによるWnt活性化が高血圧性動脈リモデリングにおいて果たす役割の解明
	循環器	内藤 尚道	大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野	末梢血管幹細胞システムを用いた虚血性疾患に対する新規治療法の開発
	循環器	納谷 昌直	北海道大学病院 循環器内科	生活習慣病患者における冠動脈器質的狭窄および機能的障害の病態解明および有効な治療法の開発
	糖尿病	長谷川 一宏	慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科	近位尿管SIRT1によるポドサイト機能制御機構の解明-糖尿病性腎症発症における検討
	循環器	松原 純一	熊本大学 大学院生命科学研究部 循環器内科学	ジバプチルペプチダーゼ-4阻害剤によるmacrophage phenotypeの変化、AMPK活性化による血管系における効果の検討
	糖尿病	山口 賢	日本大学 医学部 糖尿病代謝内科	GLP-1のインスリン分泌増強作用を介さない血糖降下作用についての検討
2013	循環器	伊藤 浩司	九州大学 大学院医学研究院 循環器内科学	心不全における新規交感神経活性化機構の解明～神経ステロイド減少と脳内シグマ受容体機能不全
	循環器	沖 健司	広島大学病院 医療安全管理部 分子内科学教室	内向き整流性カリウムチャンネルをターゲットにしたアルドステロン合成機序の解明と新規治療法の開発
	糖尿病	川崎 修二	熊本大学医学部附属病院 代謝・内分泌内科	肥満による脂肪組織肥大化におけるTNFα converting enzyme (TACE)の役割および活性制御
	動脈硬化	神吉 康晴	東京大学 先端科学技術研究センター システム生物学	動脈硬化を惹起するmiRNAの同定及び機能解析
	糖尿病	桑原 篤憲	川崎医科大学 腎臓・高血圧内科学講座	膵島の微小血管動態を解析しうる新規in vivoイメージング技術の開発と応用
	循環器	桑原 佳宏	京都大学 大学院医学研究科 内分泌代謝内科	心不全発症におけるNRSF転写抑制複合体の標的としてのGalpha i/oの意義
	循環器	住田 智一	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学 健康医科学創造講座	血管内皮におけるWntシグナル活性化が心不全発症において果たす役割の解明
	糖尿病	楯谷 三四郎	神戸大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科	糖尿病発症におけるPKG/VASP axisの免疫細胞、肝臓、脂肪細胞での作用
	循環器	田中 由美子	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 先端分子医学研究部門 テニュアトラック研究室	マクロファージの動的恒常性の変容による生活習慣病の分子機構
	糖尿病	中川 崇	富山大学 先端ライフサイエンス拠点	脂肪細胞の分化・増殖におけるセリン代謝の役割
	動脈硬化	永島 秀一	自治医科大学 内科学講座 内分泌代謝学部門	組織特異的遺伝子改変技術を用いたコレステロール合成阻害の多面的作用の解明
	糖尿病	中司 敦子	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 糖尿病性腎症治療学講座	糖尿病性微小血管障害におけるvaspinの意義

	循環器	名越 智古	東京慈恵会医科大学 医学部 循環器内科学講座	心疾患における Na ⁺ / グルコース共輸送体の発現制御と病態生理学的機能の解明
	糖尿病	野村 和弘	神戸大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学	肥満病態形成における PGC-1 α 新規アイソフォームの役割
	動脈硬化	華山 力成	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫ネットワーク研究室	心血管炎症におけるマクロファージのプロテアーゼ放出機構とその可視化
	循環器	肥後 修一郎	大阪大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	創薬シーズ探索へつなぐ心不全病態におけるエピゲノム定量法の確立
	動脈硬化	福田 大受	徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究 心臓血管病態医学	マクロファージ TLR9 シグナルを介した動脈硬化とインスリン抵抗性発現機序の解明
	循環器	藤生 克仁	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科	心筋細胞と心臓マクロファージの相互作用による恒常性維持機構
	糖尿病	藤田 義人	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	新規 eNOS 機能制御因子の探索による糖尿病および合併症に対する統合的治療法の開発
	循環器	松島 将士	北海道大学病院 循環器内科	心筋リモデリングにおける Nox4 によるミトコンドリア機能制御の分子機構の解明
	動脈硬化	宮崎 拓郎	昭和大学 医学部 生化学講座	動脈硬化症における組織特異的カルパインの役割
2014	糖尿病	浅原 俊一郎	神戸大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学講座	2型糖尿病候補遺伝子 Kcnq1 遺伝子領域による β 細胞量調節機構の解明
	循環器	網谷 英介	東京大学医学部附属病院 循環器内科	血管機能と血管内皮由来ベジクル
	動脈硬化	笠原 和之	神戸大学 大学院医学研究科 循環器内科学分野	腸内細菌叢を介した新規動脈硬化治療法の開発
	循環器	片岡 雅晴	慶應義塾大学 医学部 循環器内科 先進肺高血圧治療学講座	成熟期心筋細胞の細胞周期と分裂能を調整する新規 lincRNA の同定と機能解析
	動脈硬化	川瀬 良太	大阪大学医学部附属病院 卒後教育開発センター	抗炎症性 HDL 結合蛋白 Progranulin の慢性炎症・老化における役割の検討
	循環器	木岡 秀隆	大阪大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	ATP産生増強を介した虚血耐性獲得機構の解明
	動脈硬化	古賀 純一郎	九州大学 大学院医学研究院 循環器内科学	Notch リガンドによるマクロファージ機能制御と動脈硬化における役割解明
	循環器	柴田 茂	帝京大学 医学部 内科学講座 腎臓研究室	慢性腎臓病診療におけるリン酸化ミネラルコルチコイド受容体の意義
	糖尿病	鈴木 佐和子	千葉大学 大学院医学研究院 細胞治療内科学 糖尿病代謝内分泌内科	肥満・NASHからの肝臓発症における p53 依存的グルタミン代謝調節の新たな役割
	循環器	竹藤 幹人	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科	心疾患発症に関わるキナーゼの網羅的解析
	動脈硬化	多田 隼人	金沢大学 医薬保健研究域 医学系臓器機能制御学講座	エクソームシークエンシングによる家族性低 β リポ蛋白血症の新規原因分子の網羅的探索
	糖尿病	突田 壮平	東北大学 大学院医学系研究科 糖尿病代謝内科学分野	臓器連関に基づいたメタボリックシンドロームの病態解明と治療法開発
	糖尿病	土屋 恭一郎	東京医科歯科大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科	類洞内皮細胞に注目した肥満に伴う肝臓への炎症細胞浸潤と肝病変の発症機序の解明
	循環器	中島 康弘	京都大学 大学院医学研究科 循環器内科学	出生後早期における心筋細胞増殖制御因子の同定
	糖尿病	林 香	慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科/予防医療センター	糖尿病性腎症におけるポドサイトのエピゲノム制御機構の解明と治療への応用
	糖尿病	福中 彩子	順天堂大学 大学院医学研究科 代謝内分泌内科学	エーラスダングロス症候群原因遺伝子 Zfp13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
	糖尿病	松永 耕一	群馬大学 生体調節研究所 遺伝生化学分野	Exophilin8 遺伝子改変マウスを用いたインスリン分泌制御メカニズムの解明
	循環器	三村 維真理	東京大学 先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス分野	慢性腎臓病の抑制をもたらす新規 mi RNA の同定とその分子メカニズムの解明

研究助成 (2010年～2025年)

2015	循環器	山本 正道	群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット	エネルギー代謝可視化による心疾患の解析
	循環器	涌井 広道	横浜市立大学 大学院医学研究科 病態制御内科学	アンジオテンシン受容体結合分子に着目した認知症の治療戦略
	循環器	有馬 勇一郎	熊本大学 医学部 循環器内科	エピゲノム修飾に注目した生活習慣病胎児発症起源説のメカニズム解明
	糖尿病	伊藤 尚基	東京大学医科学研究所附属病院 アレルギー免疫科	骨格筋タンパク質異化を起点とした脂質利用調節機構の解明
	循環器	遠藤 仁	慶應義塾大学 医学部 循環器内科学教室	脂肪酸代謝物による心血管系疾患の制御メカニズムの解明
	動脈硬化	悴田 亮平	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 病態栄養学講座	メガリンを介した心腎連関機序とタンパク質代謝の関連
	糖尿病	川野 義長	慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科	インスリン抵抗性発症機序における腸管 T 細胞 Foxo の機能解析
	動脈硬化	蔵野 信	東京大学医学部附属病院 検査部	リソリン脂質に注目したリポ蛋白質の発展
	糖尿病	河野 大輔	群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット 先端医学・生命科学研究チーム	FTO によるエネルギー恒常性制御機構の解明
	糖尿病	小宮 幸次	順天堂大学 大学院医学研究科 代謝内分泌内科学	オートファジーと IAPP、インスリンシグナルによる β 細胞機能調整機構の解明
	循環器	眞田 文博	大阪大学 大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座	肥満細胞を起点とする慢性炎症の制御および心不全治療法の確立
	糖尿病	清水 逸平	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 循環器内科学 先進老化制御学講座	非アルコール性脂肪性肝炎における褐色アディポカインの病的意義の解明
	循環器	高成 広起	大分大学 医学部 病態生理学講座	コレステロールが心筋ギャップ結合蛋白コネクシン40の発現・分布に与える影響
	動脈硬化	高橋 弘雄	奈良県立医科大学 先端医学研究機構 脳神経システム医科学分野	脳梗塞後の神経回路再編メカニズムの解明と治療への応用
	動脈硬化	武内 謙憲	筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科	KLF15の新機能-糖代謝と脂質代謝の新たな接点-ならびに発現制御メカニズムの解明
	循環器	鳥山 佑一	信州大学 大学院医学系研究科 循環病態学講座	血管の恒常性制御に基づく、加齢性眼内血管新生病の新規治療戦略
	循環器	永田 さやか	宮崎大学 医学部 内科学講座 循環体液制御学分野	レニン非依存性の組織アンジオテンシンII生成機構の解明
	糖尿病	中村 昭伸	北海道大学 大学院医学研究科 免疫・代謝内科学分野	グルコキナーゼの制御が2型糖尿病病態に与える影響
	循環器	野村 征太郎	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	時空間的1細胞トランスクリプトーム解析から切り込む心不全の病態解明
	動脈硬化	原 哲也	神戸大学 大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学	新規の血管内皮接着因子、JCADの血管新生と冠動脈疾患発症の制御機構の解明
循環器	村川 智一	大阪大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	新規マイトファジー関連タンパク質 Bcl2-L13の心筋における役割の解明	
糖尿病	山田 朋英	東京大学 大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科	ネットワーク・メタアナリシスによる糖尿病治療選択エビデンスの確立	
糖尿病	山根 俊介	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	脂肪酸結合タンパクを介した GIP 分泌機序の解明	
2016	循環器	青野 潤	愛媛大学 大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	臨床検体(剖検・手術サンプル)を用いた大動脈弁狭窄症のメカニズム解明による予防・治療戦略の探索
	動脈硬化	上田 和孝	東京大学 大学院医学系研究科 コピキタス予防医学講座	エストロゲンの動脈硬化抑制作用に関わる新たなメカニズムの解明
	糖尿病	大野 晴也	広島大学 医学部 分子内科学	褐色脂肪細胞の分化に関わる新規転写因子の機能解析と糖代謝に与える影響の解明

	動脈硬化	小西 正則	東京医科歯科大学 大学院歯学総合研究科 循環制御内科学	好中球の新規シグナル機構による動脈硬化発症メカニズムの解明
	糖尿病	椎木 幾久子	山口大学 医学部 分子代謝制御学講座	新規糖尿病治療標的の創出を目指した膵β細胞脱分化機構解明に関する研究
	循環器	篠原 啓介	九州大学 大学院医学研究院 循環器内科学	新規レニンアインフォーム・脳内細胞内レニンによる高血圧および心不全の病態制御機構の解明
	糖尿病	瀬尾 欣也	自治医科大学 分子病態治療研究センター 分子病態研究部	肥満・糖尿病時の味覚変容と正常化治療
	循環器	高田 真吾	北海道大学 大学院医学研究科 循環病態内科学	心不全における mitoNEET によるマイトファジー制御機構の解明
	糖尿病	高橋 篤史	大阪大学 大学院医学系研究科 腎臓内科 (血液浄化部)	近位尿細管におけるオートファジー抑制因子 Rubicon は肥満を抑制している
	糖尿病	武田 朱公	大阪大学 大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座	認知症タウ蛋白病理の進展過程における糖尿病病態の影響の解明と新規予防・治療法への応用
	糖尿病	田中 大祐	京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	若年発症糖尿病患者における、次世代シーケンスを用いた原因遺伝子同定
	糖尿病	富樫 優	横浜市立大学 大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学	インスリン /IGF-1 受容体阻害薬による多臓器代謝障害モデルを用いた組織回復機構の解明
	動脈硬化	中村 修平	大阪大学 大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 遺伝学	オートファジーと TFEB 転写因子による協調的な損傷リソソーム修復機構の解析
	循環器	仲矢 道雄	九州大学 大学院薬学研究院 薬効安全性学分野	心肥大時における死細胞除去の分子メカニズムの解明
	循環器	中山 幸輝	東京大学医学部附属病院 循環器内科	新たな心機能制御要素としての心臓マクロファージの機能解析
	糖尿病	西 清人	京都大学 大学院医学研究科 循環器内科学	新規転写コレギュレーターによる糖代謝制御機構の解明
	動脈硬化	花谷 信介	熊本大学医学部附属病院 循環器予防医学先端医療寄附講座	骨格筋 - 腎臓連関を司る骨格筋由来新規液性因子の探索とその臨床応用
	動脈硬化	藤島 裕也	大阪大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	アディポネクチンの組織集積のメカニズムと、その抗動脈硬化作用の解明
	動脈硬化	松井 勝	奈良県立医科大学 医学部 第一内科	PLGF/sFlt-1 系による腎硬化症進展の機序解明
	循環器	吉田 陽子	新潟大学 大学院歯学総合研究科 循環器内科学 先進老化制御学講座	褐色脂肪由来代謝物質を介した心筋代謝リモデリング機構の解明
	循環器	渡邊 陽介	山梨大学 医学部 内科学第二講座	循環器病における蛋白質 S- グルタチオン化の動態および役割の解明
2017	動脈硬化	荒木 智	熊本大学医学部附属病院 心血管治療先端医療寄附講座	腸 - 脳連関を用いた新規腎不全治療法の開発
	循環器	宇都宮 裕人	広島大学病院 循環器診療群 循環器内科	心房細動に起因する機能性心臓弁逆流のメカニズム解明と新規治療法の開発
	糖尿病	奥山 朋子	横浜市立大学 大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学	細胞外マトリックススタンプを介したインスリン感受性制御機構の解明
	動脈硬化	遅野井 雄介	順天堂大学 大学院医学研究科 代謝内分泌内科	動脈硬化の発症進展における血管平滑筋のオートファジーの機能解析
	循環器	加藤 真吾	神奈川県立循環器呼吸器病センター 循環器内科	T1 マッピングを用いた非虚血性拡張型心筋症患者の薬物療法による左室 reverse remodeling の予測
	循環器	門田 真	信州大学 医学部 再生医科学教室	移植後不整脈のない多能性幹細胞を用いた心筋再生療法の開発
	糖尿病	桑原 智子	京都大学医学部附属病院 先制医療・生活習慣病研究センター 糖尿病・内分泌・栄養内科	インクレチン GIP の新たな生理作用機序の解明
	動脈硬化	小林 祥子	大阪大学 大学院医学系研究科 代謝血管学寄附講座	血管・脂肪組織由来分泌因子 Favine の機能解析

研究助成 (2010年～2025年)

	糖尿病	阪口 雅司	熊本大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科	メタボリックシンドロームにおける褐色脂肪組織再生の分子機構の研究
	糖尿病	佐久間 一基	千葉大学 大学院医学研究院 分子病態解析学	FDXR による鉄代謝制御を介した肝インスリン抵抗性の分子機構の解明
	動脈硬化	七田 崇	東京都医学総合研究所 生体分子先端研究分野 脳卒中ルネサンスプロジェクト	脳梗塞後の神経修復に関わる分子群の同定
	循環器	仙波 宏章	心臓血管研究所 基礎研究室 循環器内科	心臓線維化を制御するマクロファージ由来蛋白質
	動脈硬化	高田 龍平	東京大学医学部附属病院 薬剤部	尿酸輸送体による尿酸の全身動態制御機構の解明
	糖尿病	高山 浩昭	金沢大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学分野	ヘパトカインセレノプロテイン P による褐色脂肪細胞熱産生障害
	糖尿病	田口 昭彦	山口大学 大学院医学系研究科 病態制御内科学	肝臓における時計遺伝子 DBP/E4BP4 の役割の解明
	糖尿病	細江 隼	東京大学 大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科	パーソナル医療に向けた次世代シーケンサーによる糖尿病の遺伝子パネル解析
	循環器	松井 弘樹	群馬大学 大学院保健学研究科 生体情報検査科学講座	脂肪酸合成に着目した心肥大・心不全におけるリモデリング機構の解明
	動脈硬化	宮脇 哲	東京大学 医学部 脳神経外科	頭蓋内主幹動脈狭窄の遺伝子解析研究
	循環器	森 大輔	大阪大学 医学部 心臓血管外科 先進幹細胞治療学	同種脂肪由来間葉系幹細胞移植技術の創出を目指した研究
	糖尿病	山口 慎太郎	慶應義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科	脂肪組織 NAMPT-NAD 合成系を標的とした NAD 中間代謝産物 NMN によるインスリン抵抗性の発症予防・治療法の開発研究
	動脈硬化	山田 壮亮	金沢医科大学 医学部 臨床病理学	血管障害モデルによる内膜肥厚 / 狭窄に対する、抗酸化酵素ペルオキシレドキシ (PRDX)4 の予防メカニズムの解析
2018	動脈硬化	安西 淳	慶應義塾大学 医学部 予防医療センター	動脈硬化進展の新規メカニズムの解明
	動脈硬化	安藤 史顕	東京医科歯科大学医学部附属病院 腎臓内科	新規 PKA 活性制御法による肥満症治療法の開発
	動脈硬化	井上 剛	東京大学大学院医学系研究科 慢性腎臓病病態生理学講座	迷走神経刺激を介した動脈硬化進展抑制について
	循環器	刀坂 泰史	静岡県立大学 薬学部 分子病態学分野	心臓線維化におけるアルギニンメチル化酵素 PRMT5 の機能解析
	循環器	齊藤 寿郎	山口大学医学部附属病院 第一外科 (器官病態外科学)	オートファジー・マイトファジーを標的とした虚血性心疾患の新規治療法開発
	糖尿病	桜井 賛孝	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科	新規糖尿病関連遺伝子 UBE2E2 の膵β細胞における役割
	糖尿病	鈴木 和代	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	日本人の糖尿病発症過程におけるインターフェロン産生能および各種サイトカイン変動の検討
	糖尿病	鈴木 路可	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学	新規レポーターマウス及び single-cell RNA Sequencing を用いた系統的 spatio-temporal analysis
	循環器	須永 浩章	群馬大学大学院医学系研究科 循環器内科学	急性心臓イベントにおける FGF21 誘導発現の病態生理的意義
	糖尿病	辻本 和峰	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野	FGF21 遺伝子特異的エピゲノム改変動物を用いた肥満発症の解明
	動脈硬化	中原 健裕	慶應義塾大学 医学部 放射線科学教室 (診断)	炎症から石灰化に至る dynamic 解析によるプラーク破綻の予測・新規治療標的の探索
	動脈硬化	藤原 隆行	東京大学医学部附属病院 循環器内科	臓器透明化技術および多光子励起顕微鏡による心不全・肺高血圧症の三次元病理病態解析

	循環器	星野 温	京都府立医科大学大学院医学系研究科 循環器内科学	多面的 CRISPR スクリーニングによる心臓線維化の包括的解明と治療応用
	糖尿病	的場 圭一郎	東京慈恵会医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病腎症の病態における糸球体上皮細胞 ROCK2 の意義
	糖尿病	三田 雄一郎	宮崎大学 医学部 内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学講座	肝臓由来ペプチド LEAP2 による糖尿病治療の開発
	糖尿病	三宅 雅人	徳島大学 先端酵素学研究所 生体機能学分野	脂肪細胞における代謝ストレス応答転写因子 ATF4 の機能解明
	動脈硬化	宮本 崇史	筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科	オルガネラ膜動態との協奏による SREBP-1c 活性化制御メカニズムの解明
	循環器	森 英一朗	奈良県立医科大学 医学部 未来基礎医学教室	Desmin 異常による心筋症の生化学的研究
	糖尿病	森 雅樹	滋賀医科大学 神経難病研究センター 創薬研究部門	糖尿病の素因となる視床下部因子の治療応用開発
	循環器	山城 義人	筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 柳沢裕美プロジェクト	大動脈瘤の新規治療法開発のための基盤解析
	糖尿病	山田 沙梨恵	熊本大学 大学院生命科学研究所 代謝内科学	インスリン抵抗性及びβ細胞容量減少に伴うインスリン分泌低下における組織マクロファージ増殖の意義の検討
2019	糖尿病 / 代謝	五十嵐 正樹	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科	腸管上皮の老化関連遺伝子制御による生活習慣病の改善
	糖尿病 / 代謝	池田 賢司	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野	シングルセル解析を用いた肥満に伴うベージュ脂肪細胞の誘導抑制機構の解明
	循環器	池田 昌隆	九州大学 大学院医学研究院 循環器内科学	虚血再灌流傷害におけるフェロトーシスの役割解明と治療法の開発
	糖尿病 / 代謝	伊藤 美智子	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 バイオエレクトロニクス分野	細胞死を起点とする非アルコール性脂肪性肝炎の発症機構解明と治療戦略開発
	糖尿病 / 代謝	糸数 隆秀	大阪大学 大学院医学系研究科 創薬神経科学講座 / 分子神経科学講座	神経・免疫・血管クロストークに着目した糖尿病性末梢神経障害新規治療法の探索
	循環器	加藤 勝洋	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科	間葉系幹細胞による血管新生ダイナミクスの解析
	循環器	候 聡志	東京大学 大学院医学系研究科 循環器内科学講座, 重症心不全治療開発講座	一細胞解析と in vivo CRISPR/Cas9 システムの融合による心不全リプログラミング因子スクリーニング
	糖尿病 / 代謝	須賀 孝慶	群馬大学 大学院医学系研究科 消化器・肝臓内科学講座	臨床応用を目指した生体内における新規グルカゴン分泌制御機構の解明
	糖尿病 / 代謝	菅原 健二	神戸大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学	鉄キレート作用を介したメトホルミンの新規作用機序の解明
	循環器	須田 将吉	新潟大学 医学部医学科 循環器内科	老化細胞を標的とした生活習慣病治療の開発
	糖尿病 / 代謝	田蒔 昌憲	徳島大学 大学院医歯薬学研究所 腎臓内科	ミトコンドリアターンオーバー制御に基づいた糖尿病性腎症治療戦略の探索
	糖尿病 / 代謝	永野 秀和	千葉大学 大学院医学研究院 分子病態解析学	ミトコンドリアの多階層解析から捉える糖尿病・肥満の新たな分子基盤の解明
	循環器	橋本 寿之	慶應義塾大学 医学部 救急医学教室	オルガノイド形成に向けた心臓刺激伝導系転写制御機構の解明
	糖尿病 / 代謝	森 雄作	昭和大学 医学部 内科学講座 糖尿病代謝内分泌内科学部門	糖尿病性心筋症の新たな治療法の探索: 腸管ペプチドホルモン glucose-dependent insulinotropic polypeptide の可能性
糖尿病 / 代謝	山原 真子	滋賀医科大学 医師臨床教育センター	ポドサイトのリソソーム活性化に着目した新規糖尿病性腎臓病治療薬の開発	
2020	糖尿病 / 代謝	稲葉 有香	金沢大学 新学術創成研究機構 革新的統合バイオ研究コア 栄養・代謝研究ユニット	迷走神経性臓器連関とその破綻の 2 型糖尿病病態における役割の解明

研究助成 (2010年～2025年)

循環器	江本 拓央	神戸大学大学院医学研究科 循環器内科学分野	シングルセル RNA シークエンスで迫る、動脈硬化に起因する大動脈瘤形成メカニズム	
糖尿病 / 代謝	奥野 陽亮	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	新規 SREBP 結合因子のコピキチン化を介した活性化機構及び個体における病態学的意義解明	
糖尿病 / 代謝	桂田 健一	自治医科大学 医学部 薬理学講座臨床薬理学部門	交感神経一 SGLT2 機能連関の解明と生活習慣病治療への応用	
糖尿病 / 代謝	北田 研人	香川大学 医学部 薬理学	夏眠反応の誘導メカニズム解明：生活習慣病の克服を目指して	
循環器	神津 英至	札幌医科大学 医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	分枝鎖アミノ酸 - 核酸代謝連関の制御による心不全の新規治療開発	
循環器	末富 建	山口大学医学部附属病院 第二内科	カルシウム恒常性を標的とした小胞体ストレス関連疾患に対する新規治療の開発	
糖尿病 / 代謝	戸田 郷太郎	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科	摂食時の腸管免疫の正常応答による代謝恒常性の維持と肥満形成における意義の解明	
循環器	豊原 敬文	東北大学大学院医工学研究科 分子病態医工学	ヒト iPS 細胞由来 3D 血管を用いた血管疾患の病態解明	
糖尿病 / 代謝	長野 学	広島大学病院 内分泌・糖尿病内科	褐色脂肪の熱産生能を制御するエピジェネティック機構	
糖尿病 / 代謝	野本 博司	北海道大学大学院医科学院・医学研究科 免疫・代謝内科学教室	膵島の細胞内代謝異常に着目した肥満糖尿病病態への介入による膵β細胞保護治療の試み	
糖尿病 / 代謝	長谷川 頌	東京大学大学院医学系研究科 腎臓内科学	小胞体-ミトコンドリア連関から捉える糖尿病腎症の病態解明	
循環器	藤田 寛奈	東京大学大学院医学系研究科 コンピュータ画像診断学 / 予防医学講座	一細胞マルチオミックス解析によるヒト心不全の分子病態解明	
循環器	宮澤 一雄	理化学研究所 生命医科学研究センター 循環器ゲノミクス・インフォマティクス研究チーム	次世代シーケンズ技術と機械学習を用いた心房細動の精密化医療実現のための研究	
糖尿病 / 代謝	村上 隆亮	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	膵β細胞量を指標にした糖尿病治療開発のための GLP-1 受容体標的膵・中枢神経同時イメージング法	
糖尿病 / 代謝	山本 毅士	大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学	新たな細胞死フェロトーシスに着目した肥満関連尿管症の病態解明とそれに基づく治療薬の探索	
2021	循環器	伊藤 正道	東京大学大学院医学系研究科 循環器内科	心不全の予防的介入実現のための臓器特異的 DNA 損傷応答・修復機構の解明
糖尿病 / 代謝	鵜澤 博嗣	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学	ユビキチン様修飾因子 UFM1 の膵β細胞における生理学的意義の解析	
糖尿病 / 代謝	小栗 靖生	京都大学大学院農学研究科 食品生物科学専攻 栄養化学分野	加齢に伴う糖質摂取の増加における褐色脂肪細胞の役割の解明と生活習慣病治療への応用	
糖尿病 / 代謝	角谷 裕之	川崎医科大学医学部 腎臓・高血圧内科学	糖尿病性腎臓病における糸球体内皮 Glycocalyx の恒常性破綻と炎症細胞の連関機序の解明	
循環器	木谷 友哉	京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学	CRISPR スクリーニングによる糖尿病性心不全治療標的分子の探索	
糖尿病 / 代謝	木内 謙一郎	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科	肥満症における腎臓概日リズムの再編成	
循環器	楠本 大	慶應義塾大学医学部 予防医療センター / 循環器内科	血管内皮細胞に着目した新規心臓病治療法の開発	
循環器	貞廣 威太郎	筑波大学医学医療系 循環器内科	生体内心筋リプログラミングによる慢性心不全治療法の開発	
循環器	佐藤 迪夫	熊本大学大学院 生命科学研究部 代謝・循環医学分野 分子遺伝学講座 / 生命資源研究・支援センター	エネルギー代謝と DNA 損傷応答に着目した心不全 (HFpEF) の分子基盤解明および新規治療法の開発	
循環器	佐野 宗一	大阪市立大学大学院医学研究科 循環器内科学	血液細胞の後天的 Y 染色体喪失が心血管疾患を促進する機序の解明	
糖尿病 / 代謝	田中 真司	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科	迷走神経刺激による糖尿病性腎臓病進展予防効果の検討	

	循環器	中村 吉秀	山口大学医学部附属病院 第二内科	リアノジン受容体結合カルモジュリン制御による革新的心肥大・心不全治療
	糖尿病 / 代謝	平池 勇雄	東京大学保健・健康推進本部 / 医学部附属病院 糖尿病・代謝内科	NFIA による褐色脂肪組織のクロマチン制御機構およびその病態生理学的意義の解明
	循環器	本郷 博貴	東京大学医学部 脳神経外科	ゲノムワイド関連解析による新たな頭蓋内血管狭窄感受性遺伝子の探索
	糖尿病 / 代謝	松田 潤	大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学講座	ポドサイトの Rac1 制御による糖尿病性腎症の新規治療戦略
	糖尿病 / 代謝	南 聡	大阪大学大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 遺伝学教室	腎オルガノイドを用いた CRISPR スクリーニングによりヒト糖尿病性腎臓病におけるオートファジー調節不全の分子機序を解明する
2022	循環器	安達 裕助	東京大学大学院医学系研究科 先端臨床医学開発講座	血管周囲脂肪組織由来アディポカインに着目した動脈硬化制御機構の解明
	糖尿病 / 代謝	伊藤 亮	東北大学大学院医学系研究科 分子代謝生理学分野	ベージュ脂肪細胞におけるエピゲノム制御によるミトコンドリア遺伝子発現調節機構の解明
	糖尿病 / 代謝	井上 亮太	群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医科学分野	2 型糖尿病ドナー由来ヒト膵島を用いたインスリン分泌障害における新たな機構の解明
	循環器	大塚 憲一郎	大阪公立大学大学院医学研究科 循環器内科学	肥満症における冠動脈壁炎症とコラーゲンリモデリングの分子基盤の解明
	循環器	香月 俊輔	九州大学大学院医学研究院 循環器内科学	マクロファージ由来エクソソーム中マイクロ RNA による糖尿病性血管石灰化制御
	糖尿病 / 代謝	北本 匠	千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学	選択的インスリン抵抗性の病態解明を目指した転写因子 FoxO1/PPAR α により制御を受ける糖代謝特異的遺伝子の機能解析
	糖尿病 / 代謝	小林 洋輝	日本大学医学部 内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野	糖尿病性腎症の進展における新規 BMP 拮抗分子の機能解析
	循環器	四宮 春輝	大阪大学医学部附属病院 循環器内科	重症慢性心不全における細胞核膜の機能制御を目的とした新規治療標的シーズの探索
	循環器	寺本 了太	理化学研究所 生命医科学研究センター 応用ゲノム解析技術研究チーム	拡張型心筋症における心筋線維化機構の解明
	循環器	長尾 学	神戸大学大学院医学研究科 立証検査医学分野	分岐鎖アミノ酸由来マイオカインに着目した糖尿病性心筋症の治療戦略の構築
	糖尿病 / 代謝	長尾 元嗣	日本医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝・腎臓内科学分野	β 細胞での CD36 発現異常と糖尿病発症：マウスからヒトへの展開
	糖尿病 / 代謝	福田 士郎	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	血中可溶性 T- カドヘリンの生理的・病態的意義の解明
	糖尿病 / 代謝	南野 寛人	京都大学大学院 医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	褐色脂肪組織の分化制御に関与する代謝物の同定および生活習慣病治療への応用
	糖尿病 / 代謝	森 雄太郎	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 器官システム制御学講座 腎臓内科学分野	KIM-1 阻害薬と SGLT2 阻害薬の併用による糖尿病性腎臓病治療法の開発
	糖尿病 / 代謝	山本屋 武	広島大学大学院医系科学研究科 医化学教室	肝細胞での摂食・絶食時の代謝応答における Trk-fused gene (TFG) の役割
	循環器	由良 義充	名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座	クローン性造血に着目した心収縮能が保たれた心不全病態の解明
2023	循環器	池田 真也	滋賀医科大学 薬理学 薬理学講座	肝細胞プロテアーゼによるグリコーゲン合成調整機序の新規解明と肥満症治療への応用
	糖尿病 / 代謝	井出 真太郎	千葉大学 医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病性腎臓病のポドサイト修復不全におけるフェルトーシスの役割
	循環器	植木 康志	信州大学医学部附属病院 循環器内科	FFR にて血行再建を見送った ACS 非責任冠動脈病変における 18F-NaF PET の予後予測能の評価
	糖尿病 / 代謝	小野木 康弘	富山大学学術研究部 教育研究推進系 未病研究センター	肥満病態における脂肪組織ペリサイトの空間情報に基づく機能特性解析

研究助成 (2010年～2025年)

	循環器	小松 鉄平	東京慈恵会医科大学 医学部 内科学講座 脳神経内科	抗フィブリン抗体と変異ウロキナーゼの融合体による急性期脳梗塞に対する新規血栓溶解剤の開発
	糖尿病 / 代謝	佐々木 周伍	大阪大学大学院 医学系研究科 内分泌・代謝内科学	膵島形成の高解像度解析と糖尿病再生医療への応用
	循環器	蕭 詠庭	国立循環器病研究センター研究所 心血管老化制御部	拡張不全型心不全に対する次世代の治療法開発
	循環器	高橋 佑弥	佐賀大学医学部 先進不整脈治療学講座	心房心筋症の発症及び進行に老化が与える機序の解明：心房生検検体の組織学的研究
	循環器	舘越 勇輝	札幌医科大学 医学部 薬理学講座	動脈硬化リスク暴露に伴う血管内皮幹細胞の動態変化と心血管機能の関連について
	循環器	田中 祥朗	東京慈恵会医科大学医学部 内科学講座 循環器内科	メタボリックシンドロームにおける心臓組織 URAT1 の病態生理学的意義の解明
	糖尿病 / 代謝	菱川 彰人	慶應義塾大学医学部 予防医療センター	DNA 損傷修復および NAD 合成系賦活化に注目した糖尿病合併症新規治療戦略の確立
	糖尿病 / 代謝	藤木 珠美	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 腎臓内科学講座	長期 PKA 活性化に着目した肥満症の治療薬開発および病態解明
	糖尿病 / 代謝	松下 真弥	国立国際医療研究センター研究所 分子糖尿病医学研究部	肥満に伴う皮膚構成細胞の変質と、その代謝疾患及び皮膚疾患における意義の解明
	糖尿病 / 代謝	水之江 雄平	東京理科大学 薬学部生命創薬科学科 分子病理・代謝学研究室	新たな脂肪細胞が担う代謝機能制御と、肥満症予防への応用
	糖尿病 / 代謝	宮地 康高	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学 内分泌代謝・糖尿病研究室	骨格筋機能におけるプリン代謝産物の生理的並びに病態生理学的意義の解明
	循環器	吉川 祥子	神戸薬科大学 薬学部 臨床薬学研究室	心筋代謝制御におけるリンゴ酸-アスパラギン酸シャトルの役割
2024	循環器	池上 龍太郎	新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学	自家蛍光発生マクロファージと分泌細胞外小胞に着目したプラーク不安定化の機序解明
	循環器	磯部 更紗	国際医療福祉大学 三田病院 循環器内科	組織特異的 mRNA による肺高血圧症の新規治療法の開発
	循環器	勝海 悟郎	順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科	老化細胞における免疫チェックポイント因子 Interleukin-Inducible Factor の加齢関連疾患における病態への寄与の解明と治療法の開発
	糖尿病 / 代謝	金井 晶子	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学	膵β細胞内インスリン分泌顆粒分解の制御機構の解明
	循環器分野	菊地 順裕	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学	難病肺動脈性肺高血圧症に伴う右心不全の病態解明と新規治療法の開発
	糖尿病 / 代謝	菊池 寛昭	東京科学大学大学院医歯学総合研究科	βカテニン Ser552 残基リン酸化による腎肥大制御の解明
	循環器	小室 仁	慶應義塾大学医学部 循環器内科	非心筋細胞の心不全病態及び多臓器連関における役割の全貌解明とそれに基づく新規治療法開発
	循環器	近藤 徹	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科	植込み型補助人工心臓装着患者における未解決複合エンドポイントと包括的 Frailty 指標の評価と解明による治療の開発
	糖尿病 / 代謝	斎藤 楓	東京大学 保健・健康推進本部	褐色脂肪細胞の制御因子 NFIA と時計遺伝子の相互作用による代謝改善メカニズムの検討
	循環器	佐藤 真洋	理化学研究所 生命医科学研究センター 循環器ゲノミクス・インフォマティクス	クローン性造血起因性心不全の疾患層別化と病態解明
	糖尿病 / 代謝	長尾 博文	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 代謝血管学寄附講座	糖尿病・メタボリックシンドロームにおける内分泌因子としてのエクソソームの機能と T- カドヘリン作用機構の解明
	循環器	増山 潔	大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター 内科	心筋細胞における遺伝子機能を in vivo で評価するための革新的な生体内心臓イメージングシステムの構築
	糖尿病 / 代謝	三瀬 広記	岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科	糖尿病関連腎臓病進展に寄与する糖鎖病態の解明

	糖尿病 / 代謝	安間 太郎	三重大学医学部附属病院 医学部 糖尿病・内分泌内科	細菌叢由来の細胞老化誘導因子を標的とした糖尿病性腎臓病の治療法開発
	循環器	山川 大史	三重大学大学院医学系研究科 分子生理学分野	心・腎特異的間葉系前駆細胞の分化傾倒メカニズムの解明
	糖尿病 / 代謝	米代 武司	東北大学大学院医学系研究科 分子代謝生理学分野	褐色脂肪組織の代謝運命決定機構とエネルギー代謝調節に及ぼす影響の解明
2025	循環器	秋葉 庸平	東京歯科大学市川総合病院 循環器内科	血管内皮細胞を介した炎症制御による心不全に対する新規治療法開発
	循環器	新井 洋平	東京科学大学病院 血液浄化療法部 腎臓内科	後天性 Y 染色体喪失 (mLOY) に着目した血管疾患の新規治療戦略
	糖尿病 / 代謝	荒木 雅弥	富山大学和漢医薬学総合研究所 複雑系解析分野	脂質異常を起点とした小腸の機能障害が脂肪肝の増悪化に与える影響
	糖尿病 / 代謝	植木 響政	順天堂大学大学院医学部医学科 代謝内分泌内科学講座	膵β細胞におけるカテプシン D の病態生理学的意義の検討
	糖尿病 / 代謝	大橋 夏子	滋賀医科大学医学部 内科学講座糖尿病内分泌・腎臓内科	miR-494 を標的とした糖尿病・肥満症・サルコペニアに対する横断的治療戦略の確立
	糖尿病 / 代謝	角 朝信	富山大学学術研究部 医学系第一内科	脂肪組織常在性マクロファージによる糖代謝・脂質代謝維持機構の解明
	糖尿病 / 代謝	後藤 佐和子	東北大学病院 腎臓・高血圧内科	糖尿病関連腎臓病における性差の解明と性差特異的な治療ターゲットの探索
	循環器	白川 公亮	慶應義塾大学医学部 循環器内科	弁間質細胞を標的とした免疫学的介入による大動脈弁変性制御戦略の開発
	循環器	戴 哲皓	東京大学大学院医学系研究科 先端循環器医科学講座	心筋梗塞急性期における心筋組織中の 好中球細胞外トラップによる心筋リモデリングの制御機構の解明
	循環器	高橋 佑典	国立循環器病研究センター研究所 分子薬理部	ミトコンドリアを標的とした心不全治療薬開発のための基盤研究
	循環器	田口 慎也	横浜市立大学 先端医科学研究センター	皮膚組織レニン・アンジオテンシン系に着目した食塩感受性高血圧の新規病態解明
	糖尿病 / 代謝	霍田 裕明	国立健康危機管理機構 国立国際医療研究センター糖尿病研究センター分子糖尿病医学研究部	腸管の摂食応答からみた糖尿病合併症の新規治療薬の開発
	糖尿病 / 代謝	中道 蘭	慶應義塾大学医学部 内科学教室腎臓内分泌代謝科	DNA 損傷に起因する腎老化ニッチが誘発する Treg 機能不全を標的とした腎保護戦略の開発
	糖尿病 / 代謝	松本 あゆみ	大阪大学医学部附属病院 腎臓内科	慢性リン過剰摂取による性別依存的代謝異常と生命予後悪化機序の解明
	糖尿病 / 代謝	萬代 新太郎	東京科学大学大学院医学総合研究科 腎臓内科学分野	糖尿病関連腎臓病の病期進行と臓器連関に基づく診断・治療の革新
	循環器	吉田 賢明	九州大学大学院医学研究院 循環器内科学	左心疾患関連肺高血圧症における PDGFR β を介した肺血管リモデリングの新規イメージング技術ならびに治療手段の確立
循環器	吉田 尚史	国立循環器病研究センター研究所 先端医療技術開発部	ヒト動脈硬化プラークの後天的遺伝子変異解析から迫る動脈硬化の病態解明	
循環器	渡辺 博文	新潟大学医歯学総合病院 腎・膠原病内科	腎輸入細動脈肥厚抑制による新規高血圧治療シーズの創出	

スタートアップ

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2019	佐々木 努	京都大学 大学院農学研究科 食品生物科学専攻 栄養化学分野	糖尿病における FGF21 - オキシトシン系の役割の解明
2021	菊池 和	国立循環器病研究センター研究所 先進医工学部門 再生医療部	心筋再生プログラム発動機序の解明

女性研究者支援 感染症領域 (2012年～2020年)

敬称略
50音順

趣 旨	多様な視点や発想を取り入れ、研究活動を活性化の上で、女性研究者の一層の活躍促進が極めて重要であると考え、新たな学術領域を拓く女性研究者の育成・支援のための研究助成を実施。特に、既存の枠にとらわれない独創的な萌芽的研究や異分野連携型研究を推進。			
歴代選考委員	岩田 敏 舘田 一博 ◎選考委員長	亀井 克彦 多屋 馨子	神田 忠仁 三嶋 廣繁	◎ 河野 茂 森 康子 終了プログラムにつき所属等の記載は省略

医学奨励賞

※敬称略/所属機関は応募時

年度	賞	氏名	所属機関	研究テーマ
2014	最優秀賞	立川 愛	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター	HIV 感染症における新規免疫細胞治療法の開発
2015	最優秀賞	池田 華子	京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター	生体ナノ材料を用いたクラミジア・ニューモニーに対する新規治療法の開発
2016	最優秀賞	モイ メンリン	長崎大学 熱帯医学研究所 病原体解析部門	マーマセットを用いたデングワクチン開発・実用化のためのモデル動物の構築
2018	最優秀賞	田口 歩	都立駒込病院 婦人科/東京大学 医学部 産婦人科	子宮頸部上皮内腫瘍における、間質をターゲットとした治療戦略の検討
2020	最優秀賞	渡辺 由佳	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 循環制御内科学	歯周病原細菌感染がオートファジー制御異常を引き起こすメカニズムと心筋梗塞の病態に与える影響の解明

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2012	岡野 純子	滋賀医科大学 解剖学講座 生体機能形態学部門	糖尿病皮膚壊疽 / 潰瘍に生じる感染機序の解明および新しい治療法の開発
	幸谷 愛	東海大学 創造科学技術研究機構 医学部門	静電インクジェット方式 (PELID 法) による三次元状 EB ウィルス感染巣の構築とそれを用いた分泌性小分子 RNA の病巣全体に対する影響の解析
	佐藤 香枝	日本女子大学 理学部 物質生物科学科	医工連携による感染症研究のためのマイクロ血管モデルの構築
	田尻 和子	筑波大学医学医療系 循環器内科	遺伝子組み換え BCG を用いた新規慢性心筋炎/心不全モデルの確立
	立川 愛	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 感染症分野	HIV 感染症における新規免疫細胞治療法の開発
	松本 陽子	東京大学大学院医学系研究科 婦人科腫瘍学部門	ヒトパピローマウイルス癌蛋白 E6 に対する siRNA を内包したナノミセル型 DDS を用いた子宮頸癌治療
2013	相澤 志保子	日本大学 医学部 病態病理学系微生物学分野	粘膜炎症における古細菌の関与

	青木 悠	群馬大学 生体調節研究所 シグナル伝達教室	歯周細菌や誤嚥性肺炎により増悪する急性肺障害におけるプロトン感受性受容体 OGR1 の役割
	池田 華子	京都大学 大学院医学研究科 眼科学教室	生体ナノ材料を用いたクラミジア・ニューモニーに対する新規治療法の開発
	川島 素子	慶應義塾大学 医学部 眼科学教室	眼表面マイクロバイームに注目した角膜感染の発症機序の解明と新規予防・治療方法の開発
	小林 奈穂	東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯学部 歯周病科	歯周病が心血管疾患に与える影響の解明
	白木川 奈菜	九州大学 大学院工学研究院 化学工学部門	胆管炎予防を目指した抗菌性を有する生体適合性人工胆管の開発
2014	今北 菜津子	奈良県立医科大学 感染制御内科 免疫学講座	エピジェネティクスによるインフルエンザウイルス脳症への新たな治療戦略
	杉山 佳奈子	横浜市立大学 大学院生命医学研究科 構造創薬科学研究室	エボラウイルス NucleoProtein および相互作用ウイルスタンパク質の構造を基盤とした創薬研究
	鈴川 真穂	国立病院機構 東京病院 呼吸器センター 臨床研究部	活動性結核感染症の診断および治療効果判定に有用な新規マーカーの同定とその病態形成機序の解明
	廣部 祥子	大阪大学 大学院薬学研究科 薬剤学分野	乳幼児に対する経皮インフルエンザワクチンの開発
	モイ メンリン	国立感染症研究所 ウイルス第一部 第二室	マーマセットを用いたデングワクチン開発・実用化のためのモデル動物の構築
	山下 亜紀	東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科・女性外科	オメガ 3 脂肪酸の早産予防効果に関する研究
2016	大石 由美子	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 先端分子医学研究部門 細胞分子医学分野	食品による自然免疫応答の活性化機構の解明と感染予防への応用
	木村 志保子	大阪大学 大学院医学系研究科 小児科学	血管原性浮腫に着目したインフルエンザ脳症の機序の解明と治療法の開発
	佐藤 由佳	日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医衛生学研究室	ヘルペスウイルス感染症コントロールの標的となる宿主因子の探索およびウイルス制御機構の解明
	田口 歩	東京大学 医学部 産婦人科	子宮頸部上皮内腫瘍における間質をターゲットとした治療戦略の検討
	村本 裕紀子	京都大学 ウイルス・再生医学研究所 微細構造ウイルス学分野	ウイルス感染症に対する抗体医薬品の開発に関する研究
	山本 和子	長崎大学病院 第二内科	マイクロファージ免疫応答に着目した肺非結核性抗酸菌症の病態解明と新規治療への展開
2017	石川 絵里	大阪大学 微生物病研究所 分子免疫制御分野	C 型レクチン受容体および T 細胞受容体に共通して認識される抗酸菌由来脂質の探索と新規免疫賦活法の確立
	泉田 真生	長崎大学 熱帯医学研究所 臨床感染症分野	ウイルスと宿主防御機構の進化的相互作用の解明に基づくウイルス感染症に対する新規治療薬シーズの創出を目指した研究
	一刀 かおり	東北大学 大学院生命科学研究科 分子情報化学分野	抗体・薬剤複合体 (ADC) 機能を持つ低分子抗菌薬の創薬研究
	神尾 敬子	九州大学病院 呼吸器科 肺生理学教室	human metapneumovirus 感染症における疾患特異的宿主因子の解明: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) と heat shock protein 90
	九十田 千子	理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター 微量シグナル制御技術開発特別ユニット	B 型肝炎ウイルス (HBV) 侵入の新規制御因子・メカニズム解析およびそれを標的とする HBV 感染阻害剤開発
	豊福 明和	慶應義塾大学 医学部 感染症学教室	新生児 B 群レンサ球菌感染症の制御を目的とした、妊婦へのワクチン開発の基盤研究

研究助成 (2010年～2025年)

2018	小笠原 徳子	札幌医科大学 医学部 微生物学兼耳鼻咽喉科講座	RS ウイルス感染症に対する新規予防・治療戦略のための基礎研究
	北尾 公英	岐阜大学 大学院医学系研究科 病原体制御学分野	病原因子を輸送中の IV 型分泌装置を可視化する - レジオネラ感染機序の解明
	高月 英恵	宮崎大学 医学部 感染症学講座 微生物学分野	ヒトプリオン病に対するコンビネーションセラピーのための構造ベース創薬
	鳥居 ゆか	名古屋大学 大学院医学系研究科 小児科学教室	川崎病における病原体検索とそのインフラマソーム応答の解析
	星野 愛	東京大学 大学院医学系研究科 発達医科学	ロタウイルス感染症に併発する急性脳症：疫学調査とヒト・ウイルスゲノム解析
	渡辺 由佳	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 循環制御内科学	歯周病原細菌感染が選択的オートファジー制御異常を介して糖尿病性心筋障害に与える影響の解明

がん領域 (2017年～2025年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>がん治療については、これまでに数多くの研究成果が上がっているものの、依然として、がんは我が国の死亡原因の第一位にあることから、より豊かな発想とそれを実現化させる熱意を持ち、がん研究を行う研究者に対して助成を実施。</p> <p>【若手研究者支援】 次世代を担う若手研究者の育成を目的とし、医学系の幅広い研究を対象。さらに、発展的かつ優秀な研究成果を収めた研究者を医学奨励賞として表彰。</p> <p>【スタートアップ支援】 がん研究に一定の成果・実績を有し、日本国内で組織的な研究体制をスタートした研究者を支援。</p>
選考委員	<p>石川 俊平 東京大学大学院医学系研究科 大島 正伸 金沢大学がん進展制御研究所 坂田 麻美子 筑波大学医学医療系 滝田 順子 京都大学大学院医学研究科 玉田 耕治 山口大学大学院医学系研究科 馬場 英司 九州大学大学院医学研究院 ◎ 間野 博行 国立がん研究センター 本橋 ほづみ 東北大学大学院医学系研究科 ◎選考委員長</p>
歴代選考委員	<p>石川 冬木 萩原 弘一 ◎ 宮園 浩平 ◎選考委員長</p> <p style="text-align: right;">任期終了につき所属等の記載は省略</p>

医学奨励賞

※敬称略/所属機関は応募時

年度	賞	氏名	所属機関	研究テーマ
2019	最優秀賞	武田 はるな	国立がん研究センター 研究所 分子遺伝学ユニット	大腸がんの転移に関する遺伝子の同定
	優秀賞	池ノ内 順一	九州大学 理学研究院 代謝生理学研究室	がん細胞の運動メカニズムの解明
	優秀賞	木下 学	大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター病院 脳神経外科	脳腫瘍に対するプレシジョンメディシンを実現するための人工知能による画像-分子遺伝学診断技術の開発
2020	最優秀賞	坂田 (柳元) 麻美子	筑波大学 医学医療系 血液内科	微小環境細胞を標的とする T 細胞リンパ腫の治療戦略
	優秀賞	片岡 圭亮	国立がん研究センター 研究所 分子腫瘍学	NK/T 細胞腫瘍の発症・進展における遺伝子異常の役割の解明
	優秀賞	中川 勇人	東京大学医学部附属病院 消化器内科	脂質代謝リプログラミングを標的とした肝胆道癌の新規治療戦略
2021	最優秀賞	井上 大地	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部	スプライシング異常による発癌機構の解明

研究助成 (2010年～2025年)

	優秀賞	丸山 剛	早稲田大学 高等研究所 丸山研究室	抗原提示による上皮細胞間異常センシングとがん変異細胞除去
	優秀賞	三浦 恭子	熊本大学 大学院先導機構/大学院生命科学研究部 老化・健康長寿学講座	最長寿・がん化耐性齧歯類を利用した新たながん抑制方法の開発
2022	最優秀賞	富樫 庸介	岡山大学 学術研究院医歯薬学域 がん関連分野 (旧腫瘍ウイルス学)	前がん病変から発がん過程における免疫応答とその逃避機構の解明
	優秀賞	遠藤 裕介	かずさ DNA 研究所 先端研究開発部 オミックス医科学研究室	脂質代謝 - 免疫システムを標的とした抗腫瘍戦略の基盤構築
	優秀賞	山本 雄介	国立がん研究センター研究所 病態情報学ユニット	非浸潤性乳がんの不均一性を解明するためのシングルセル空間トランスクリプトーム解析
2023	最優秀賞	小松 徹	東京大学大学院薬学系研究科 薬品代謝化学教室	酵素活性の網羅的解析によるがん組織-血循環の理解の進展
	優秀賞	谷上 賢瑞	東京大学 アイントープ総合センター 研究開発部	RNA 品質管理機構と異常 RNA による癌発生機構の理解
	優秀賞	山野 友義	金沢大学 医薬保健研究域医学系免疫学	人工ナノ粒子によるがん免疫増強法の開発
2024	最優秀賞	北嶋 俊輔	がん研究会 がん研究所 細胞生物部	LKB1/KEAP1 遺伝子変異に伴う KRAS G12C 阻害剤治療抵抗性獲得の分子機序解明
	優秀賞	小林 大貴	東京薬科大学 生命科学部 腫瘍医科学研究室	造血器腫瘍に挑むケミカルバイオロジー
	優秀賞	平林 茂樹	九州大学大学院医学研究院 プレシジョン医療学分野	家族性骨髄系腫瘍の遺伝子発現制御機構の解明
2025	最優秀賞	額賀 重成	慶應義塾大学医学部 呼吸器内科	大規模肺癌コホートの網羅的スプライシング解析に基づく新規治療標的の同定
	優秀賞	伊藤 雄介	慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所がん免疫研究部門	固形腫瘍内の免疫抑制環境を打破するナノテクノロジーの開発
	優秀賞	西村 耕太郎	大阪大学大学院生命機能研究科 時空生物学講座がん病理学研究室	がんレドックス代謝を標的とする新規治療戦略

若手研究者

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2017	池ノ内 順一	九州大学 理学研究院 代謝生理学研究室	がん細胞の運動メカニズムの解明
	浦山 ケビン	国立成育医療研究センター 研究所 社会医学研究部	ゲノムワイド関連解析のメタ解析と細胞株実験による分子生物学的検証を用いた、小児急性リンパ性白血病の治療薬耐性および急性期・晩期合併症発生機序の解明
	木下 学	大阪国際がんセンター 脳神経外科	脳腫瘍に対するプレシジョンメディシンを実現するための人工知能による画像-分子遺伝学診断技術の開発
	武田 はるな	金沢大学 がん進展制御研究所 がん治療標的探索ユニット	大腸がんの転移に関与する遺伝子の同定
	谷口 浩二	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室	癌・再生における IL-6 サイトカインの働きの研究
	樋野 展正	大阪大学 大学院薬学研究科 生命情報解析学分野	ミスセンス変異集積領域に着目したがん特異的タンパク質間相互作用解析
	松平 竜之	京都大学IPS細胞研究所 未来生命科学開拓部門	in vivo における細胞競合関連因子の網羅的探索
	光永 真人	東京慈恵会医科大学 医学部 内科学講座 消化器・肝臓内科	患者に優しいエネルギーを利用したがん特異的治療法の開発
	三村 尚也	千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部	骨髄腫モデルマウスを用いた新規エピソード治療の開発
	山口 知也	熊本大学 大学院先導機構 (併任) 大学院生命科学研究部 がん生物学分野	肺腺がんにおける内因性微粒子の制御機構の解明

2018	石本 崇胤	熊本大学医学部附属病院 消化器癌先端治療開発学	スキルス胃癌腹膜播種を促進する癌-ストローマ細胞間ネットワーク機序の解明
	大澤 毅	東京大学先端科学技術研究センター ニュートリオミクス・腫瘍学分野	アミノ酸欠乏に適応しがん悪性化を促進するメカニズムの解明
	片岡 圭亮	国立がん研究センター 研究所 分子腫瘍学	NK/T 細胞腫瘍の発症・進展における遺伝子異常の役割の解明
	坂田(柳元) 麻実子	筑波大学 医学医療系 血液内科	微小環境細胞を標的とする T 細胞リンパ腫の治療戦略
	櫻井 雅之	東京理科大学 生命医学研究所 分子病態学研究部門	ゲノム DNA アデノシン脱アミノ化修飾による DNA 変異とがん化機構解明、抗がんへの応用
	中川 勇人	東京大学医学部附属病院 消化器内科	脂質代謝リプログラミングを標的とした肝胆道癌の新規治療戦略
	藤下 晃章	愛知県がんセンター研究所 がん病態生理学分野 分子診断学	大腸がん自然転移モデルに基づく治療標的の探索に向けた基盤研究
	向井 康治朗	東北大学 大学院生命科学研究所 細胞小器官疾患学分野	STING が惹起する自然免疫応答の収束分子機構
	諸石 寿朗	熊本大学 生命科学研究所 分子酵素化学分野	抗腫瘍免疫応答の成立に関わる分子機構の解明
	山内 拓司	九州大学病院 遺伝子細胞療法部	CRISPR-Cas9 機能的ノックアウトスクリーニング法を用いた AML に対する ATRA 併用新規分化誘導療法の開発
2019	井上 大地	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部	スプライシング異常による発癌機構の解明
	小林 俊彦	国立国際医療研究センター 研究所 分子炎症制御プロジェクト	がん微小環境におけるアミノ酸トランスポーターの役割
	昆 俊亮	東京理科大学 生命医学研究所 発生および老化研究部門	細胞競合の機能不全によるびまん性悪性腫瘍の発症機序の解明
	周 越	富山大学 大学院医学薬学研究部 がん細胞生物学研究室	非定型的活性化型 EphA2 によるがん悪性化の制御機構
	中山 隆宏	金沢大学 新学術創成研究機構 ナノ生命科学研究所	がん抑制因子 p53 の凝集の立体構造動態と機能の解明
	林 嘉宏	東京薬科大学 生命科学部 生命医学科 腫瘍医学研究室	新規に同定した線維化関連免疫細胞を標的とした骨髄線維化を伴う骨髄性血液がんの治療戦略
	平田 英周	金沢大学 がん進展制御研究所 腫瘍細胞生物学研究分野	脳転移におけるがん促進性・抑制性アストロサイトの同定
	丸山 順一	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 病態代謝解析学分野	慢性炎症疾患へのがん併発現象における DCLK1 の機能解析
	丸山 剛	早稲田大学 高等研究所 丸山研究室	抗原提示による上皮細胞間異常センシングとがん変異細胞除去
	三浦 恭子	熊本大学 大学院先端機構/大学院生命科学研究所 老化・健康長寿学講座	最長寿・がん化耐性齧歯類を利用した新たな発がん抑制方法の開発
2020	遠藤 裕介	かずさDNA研究所 先端研究開発部 オミックス医科学研究室	脂質代謝・免疫システムを標的とした抗腫瘍戦略の基盤構築
	垣内 伸之	京都大学 大学院医学研究科 腫瘍生物学講座	原発性硬化性胆管炎の病態と発がん基盤の解明
	木戸屋 浩康	大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野	骨髄微小環境の異常が惹起する白血病における負のスパイラル
	佐藤 崇	慶應義塾大学 医学部 呼吸器内科	肺がんにおける分化プログラムの不均一性と可塑性の解明
	富樫 庸介	千葉県がんセンター 研究所 細胞治療開発研究部	前がん病変から発がん過程における免疫応答とその逃避機構の解明
	野澤 竜介	がん研究会 がん研究所 実験病理部	HP1 集合体の形成不全によるがん染色体動態の病理機構の解明
	日野原 邦彦	名古屋大学 大学院医学系研究科 分子細胞免疫学	乳がん転移の時空間的解明

研究助成 (2010年～2025年)

	藤原 英晃	岡山大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科	代謝チェックポイントに着目した新規 GVHD 予防治療法の開発
	山本 雄介	国立がん研究センター 研究所 細胞情報学分野	非浸潤性乳管癌の不均一性を解明するためのシングルセル空間トランスクリプトーム解析
	脇田 将裕	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 老化生物学	がん治療に向けた老化細胞除去薬の次世代型薬剤の開発
2021	植田 航希	福島県立医科大学 医学部 輸血・移植免疫学講座	細胞間相互作用に着目した前白血病から急性白血病への進展予防法の開発
	熊谷 尚悟	国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野	臓器特異的な腫瘍浸潤制御性 T 細胞の分化過程の解明
	小松 徹	東京大学大学院薬学系研究科 薬品代謝化学教室	酵素活性の網羅的解析によるがん組織-血液連環の理解の進展
	齋藤 敦	広島大学大学院医系科学研究科 分子細胞情報学	小胞体局在転写因子 OASIS を介した p53 非依存的癌治療戦略の構築
	高杉 征樹	大阪市立大学 医学研究科 病態生理学	ヒアルロン酸受容体 CD44 によるヒアルロン酸非依存的ながん制御機構の解明
	谷上 賢瑞	東京大学 アイソトープ総合センター 研究開発部	RNA 品質管理機構と異常 RNA による癌発生機構の理解
	本田 諒	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 医療情報学専攻	KRAS を特異的に阻害する人工タンパク質の開発
	山野 友義	金沢大学 医薬保健研究域医学系 免疫学	人工ナノ粒子によるがん免疫増強法の開発
	山本 恵介	東京大学医学部附属病院 消化器内科	変異型 KRAS を軸とした膵がん免疫微小環境形成機構の解明
	Robbe Pauline	国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター トランスクリプトーム研究チーム	慢性リンパ性白血病を駆動する非コードエレメントの機能解明
2022	岡崎 慶斗	東北大学 加齢医学研究所 遺伝子発現制御分野	NRF2 活性化肺がんにおける Regnase-1 コード遺伝子 ZC3H12A 非翻訳領域の役割
	北嶋 俊輔	がん研究会 がん研究所 細胞生物部	LKB1/KEAP1 遺伝子変異に伴う KRAS G12C 阻害剤治療抵抗性獲得の分子機序解明
	小林 大貴	東京薬科大学 生命科学部 腫瘍医科学研究室	造血器腫瘍に挑むケミカルバイオロジー
	鈴木 秀文	横浜市立大学大学院医学研究科 分子生物学分野	新規マルチオミクス解析を駆使した Mediator Body によるがん遺伝子異常活性化機構の解明
	田中 愛	信州大学 医学部 循環病態学教室	アドレノメデュリンー RAMP2、3 系の選択的制御による癌転移抑制法の開発
	寺井 秀樹	慶應義塾大学 医学部 呼吸器内科	3D 肺癌オルガノイドを活用した、cGAS/STING 経路の肺扁平上皮癌における機能解明
	梨本 裕司	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 バイオメカニクス分野	内皮間葉移行により供出されるがん線維芽細胞の動態観察とがん転移との連関の解明
	林 真理	京都大学大学院医学研究科 先端・国際医学講座	独自のレポーター技術を用いた姉妹染色分体融合制御因子の探索と解析
	平林 茂樹	九州大学大学院医学研究院 プレシジョン医療学分野	家族性骨髄系腫瘍の遺伝子発現制御機構の解明
	宮林 弘至	東京大学医学部附属病院 消化器内科	膵癌分子サブタイプシフトによる薬剤耐性メカニズムの検討
2023	秋山 雅人	九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座	涙液リキッドバイオプシー実現を目指した眼表面悪性腫瘍の解析
	伊藤 雄介	慶應義塾大学 医学部 先端医科学研究科 がん免疫研究部門	固形腫瘍内の免疫抑制環境を打破するナノテクノロジーの開発
	大場 崇旦	信州大学 医学部 外科学教室 乳腺内分泌外科学部門	乳癌に対するセンチネルリンパ節を用いた新たな治療戦略の開発—センチネルリンパ節と非センチネルリンパ節での免疫応答の違いの解析を通じて—

	小川 基行	東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室	競合的細胞間相互作用に着目した内在性がん抑制機構の解明
	久保 直樹	九州大学生体防御医学研究所 エピゲノム制御学	新たなゲノム間相互作用・変異解析法による悪性腫瘍の遺伝子制御ネットワーク崩壊の解明
	田中 広祐	国立がん研究センター 先端医療開発センター 腫瘍 TR 分野	DNA 損傷応答による肺がん分子標的薬の耐性機構の解明と治療開発
	坪山 幸太郎	東京大学 生産技術研究所 生体分子設計工学	細胞膜透過性を兼ね備える人工タンパク質の設計技術開発
	西村 耕太郎	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部	がんレドックス代謝を標的とする新規治療戦略
	額賀 重成	慶應義塾大学 医学部 呼吸器内科	大規模肺癌コホートの網羅的スプライシング解析に基づく新規治療標的の同定
	林 玲匡	杏林大学 医学部 病理学教室	空間的遺伝子発現解析を用いた肺癌退形成変化における分子遺伝学的機序の解明
2024	穂枝 佑紀	大阪大学 微生物病研究所 生体統御分野	環境ストレスが細胞競合を変容させ "がん" へと至る機序の解明
	板橋 耕太	国立がん研究センター 先端医療開発センター 免疫トランスレショナルリサーチ分野	腫瘍の所属リンパ節の免疫動態に着目した新規免疫療法の開発
	碓井 喜明	理化学研究所 生命医科学研究センター 基盤技術開発研究チーム	環境要因関連疾患におけるクローン性造血の寄与の解明
	金子 直樹	九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野	頭頸部がんにおける抗原の解明と B 細胞標的治療の可能性の模索
	小西 聡史	京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門 後藤研究室	新規治療標的探索を目的とした癌微小環境下での小細胞肺癌発生モデルの確立
	渋谷 里紗	東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野	非小細胞肺癌における tRNA 修飾に着目した翻訳機構の解明と新規治療法の開発
	中川 拓也	千葉大学 健康疾患オミクスセンター	難治性ウイルス関連癌の染色体外 DNA を標的とした新規薬物治療の開発
	三浦 太一	量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所 放射線規制科学研究部 組織再生治療研究グループ	肺癌の浸潤・転移を驚異的に抑制する糖鎖医薬の開発
	森田 覚	慶應義塾大学 医学部 外科学教室 (一般・消化器)	大腸癌肝転移における線維化誘導性免疫変容と転移再発メカニズムに関する研究
	山本 隆広	熊本大学病院 脳神経外科	膠芽腫におけるエピトランスクリプトミクス機構をターゲットとした新規治療の開発
2025	阿尻 大雅	東京科学大学生命理工学院 安井研究室	細胞機械特性に基づくがん動態—細胞解析技術の開発
	池田 英樹	千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学	ミトコンドリアゲノムが駆動する老化関連がん機構の解明
	石原 誠一郎	北海道大学大学院先端生命科学研究院 生命融合科学研究部門細胞ダイナミクス科学研究室	圧縮ストレスによるがん細胞の薬剤耐性獲得機構
	大谷 理浩	岡山大学学術研究院 医歯薬学域脳神経外科学	神経膠腫の Passenger Deletion による腫瘍代謝変化の解明と治療応用
	雁金 大樹	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 血液内科	成熟 B 細胞リンパ腫の発症基盤解明と in vivo モデルの確立
	川崎 健太	慶應義塾大学医学部 腫瘍センター	消化器神経内分泌癌オルガノイドを用いた治療標的遺伝子変異の生物学的機能解析
	栗本 遼太	千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学講座	新規メチル化 mRNA 修飾による翻訳制御機構とがん EMT の制御の解明
	小西 義延	京都大学医学部付属病院 血液内科	骨髄腫腫瘍免疫微小環境の空間的免疫プロファイリングに基づく治療効果予測モデルの確立
	中村 和貴	昭和医科大学大学院歯学研究科 口腔生化学分野	Stromal Defense Against Cancer 機構の理解と制御

研究助成 (2010年～2025年)

西田 奈央	早稲田大学高等研究所	転移性乳がん細胞外小胞の標的輸送機構の分子基盤の解明と治療応用
野村 アニラ	理化学研究所生命医科学研究センター 免疫記憶研究チーム	Runx3 変異体を用いた疲弊耐性型 CAR-T 細胞療法の開発
山崎 博未	大阪大学大学院医学系研究科 がん病理学	セレノプロテインを軸とした加齢性疾患の理解と治療戦略の探索
渡邊 美佳	北海道大学病院 皮膚科	四次元オミクス解析による早期皮膚癌のクラスタリング

スタートアップ

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2017	島田 緑	山口大学 共同獣医学部 生体機能学講座 生化学教室	がんの増殖制御の解明と革新的治療法の確立
2018	高橋 秀尚	横浜市立大学 大学院医学研究科 分子細胞生物学教室	新規の転写伸長制御因子 Med26 による腫瘍発症機構の解明
2019	園下 将大	北海道大学 遺伝子病制御研究所 がん制御学分野	膵臓がんの薬物治療抵抗性の克服に立脚した新規治療法の開発
2020	大澤 志津江	名古屋大学 大学院理学研究科 遺伝学グループ	競合的がん制御とその遺伝的基盤の解明
2021	鈴木 啓道	国立がん研究センター研究所 脳腫瘍連携研究分野	髄芽腫における異常スプライシングの解明と新規治療標的の同定
2022	吉田 健一	国立がん研究センター研究所 がん進展研究分野	正常肺組織のゲノム解析による肺がんの病態解明研究

感染症領域 (2018年～2025年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>感染症の診断・治療・予防について、これまでに数多くの研究成果が上がっているものの、新型コロナウイルスの発現など感染症は依然として人類にとって深刻な脅威であることから、より豊かな発想とそれを実現化させる熱意を持ち、感染症にフォーカスした研究を行う研究者に対して助成を実施。</p> <p>【若手研究者支援】</p> <p>感染症治療の進歩・発展に貢献できる次世代を担う若手研究者の育成を目的とし、医学系の研究を対象。さらに、発展的かつ優秀な研究成果を収めた研究者の方を医学奨励賞として表彰。</p>
選考委員	<p>石井 健 東京大学医科学研究所</p> <p>◎ 舘田 一博 東邦大学医学部医学科</p> <p>多屋 馨子 神奈川県衛生研究所</p> <p>三嶋 廣繁 愛知医科大学大学院医学研究科</p> <p>迎 寛 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科</p> <p>森 康子 神戸大学大学院医学研究科</p> <p>◎選考委員長</p>
歴代選考委員	<p>亀井 克彦 河上 和義</p> <p style="text-align: right;">任期終了につき所属等の記載は省略</p>

医学奨励賞

※敬称略/所属機関は応募時

年度	賞	氏名	所属機関	研究テーマ
2021	最優秀賞	高松 由基	長崎大学 熱帯医学研究所 ウイルス学分野	エボラウイルス転写因子 VP30 のリン酸化制御機構の解明と治療薬への応用
	優秀賞	一戸 猛志	東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター 感染制御系ウイルス学分野	インフルエンザウイルスの病原性発現機構の解析
2022	最優秀賞	有井 潤	神戸大学大学院医学研究科 臨床ウイルス学	T細胞におけるヒトヘルペスウイルス6増殖に貢献する因子の同定
	優秀賞	加藤 哲久	東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ウイルス病態制御分野	単純ヘルペスウイルス・ワクチン次世代プラットフォームの開発
2023	最優秀賞	田端 桂介	大阪大学大学院生命機能研究科 細胞内膜動態研究室	ウイルス感染細胞内複製オルガネラ形成における共通分子機構の解明
	優秀賞	河部 剛史	東北大学大学院医学系研究科 病理病態学講座 免疫学分野	新たな自然免疫型 T細胞の機能制御による新規「免疫賦活化治療」の創出
2024	最優秀賞	南宮 湖	慶應義塾大学 医学部 感染症学教室	統合ゲノム解析で迫る肺非結核性抗酸菌症の病態解明
	優秀賞	高橋 朋子	埼玉大学大学院理工学研究科 生命科学部門 分子生物学領域	microRNAによるウイルス感染症の超早期予測・予防・治療法の開発
2025	最優秀賞	相原 正宗	九州大学大学院医学研究院 保健学部門検査技術科学分野	エピソーム・ダイナミクスが導く細菌の薬剤耐性強化機構解明に向けた研究
	優秀賞	伴戸 寛徳	旭川医科大学医学部 感染症学講座 寄生虫学分野	ヒトの脳へのトキソプラズマ寄生メカニズムの包括的な解明

研究助成 (2010年～2025年)

若手研究者

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2019	新井 康之	京都大学医学部附属病院 血液内科・輸血細胞治療部	造血幹細胞移植後の腸内細菌叢変化に着目した予後改善の試み
	一戸 猛志	東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター 感染制御系ウイルス学分野	インフルエンザウイルスの病原性発現機構の解析
	佐藤 光	東北大学 大学院医学系研究科 感染制御インテリジェンスネットワーク寄附講座	クリプトコックスの潜伏感染・内因性再燃診断のための IGRA 法の開発
	佐藤 好隆	名古屋大学 大学院医学系研究科 ウイルス学	Epstein-Barr ウイルスが NK 細胞内で形成するスーパーエンハンサーの解析
	高園 貴弘	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学	Galactosaminogalactan をターゲットにした肺アスペルギルス症の新規診断・治療法の開発
	高松 由基	京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 微細構造ウイルス学分野	エボラウイルス転写因子 VP30 のリン酸化制御機構の解明と治療薬への応用
	山口 雅也	大阪大学 大学院歯学研究科 口腔細菌学教室	進化解析を用いた肺炎球菌による侵襲性疾患成立機構の解明
2020	有井 潤	神戸大学 大学院医学研究科 微生物感染症学講座 臨床ウイルス学	T 細胞におけるヒトヘルペスウイルス 6 増殖に貢献する因子の同定
	上羽 瑠美	東京大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	単一細胞解析を用いた新型コロナウイルス感染症による嗅覚障害の病態解明
	加藤 朱里	北里大学 大村智記念研究所 生物有機化学研究室	新規β-ラクタマーゼ阻害剤創製; In situ クリックケミストリーによる効率的な探索研究
	加藤 哲久	東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ウイルス病態制御分野	単純ヘルペスウイルス・ワクチン次世代プラットフォームの開発
	氣駕 恒太郎	自治医科大学 医学部 感染・免疫学講座 細菌学部門	高い殺菌活性を有する CRISPR-Cas13a を利用した細菌感染制御法の開発
	中垣 岳大	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 感染分子解析学	プリオン病スクリーニング法の確立
	中沢 大悟	北海道大学 大学院医学院・医学研究院 免疫・代謝内科学教室	COVID19 の重症化病態における Immunothrombosis の役割
2021	河部 剛史	東北大学大学院医学系研究科 病理病態学講座 免疫学分野	新たな自然免疫型 T 細胞の機能制御による新規「免疫賦活化治療」の創出
	小林 進太郎	北海道大学大学院 獣医学研究院 獣医学部門 衛生学分野 公衆衛生学教室	神経向性フラビウイルス感染によるタンパク質の核内輸送の抑制が脳炎病態の形成に与える影響の解析
	迫口 瑛史	大阪大学 微生物病研究所 分子原虫学分野	マラリア原虫と免疫抑制化受容体の相互作用の網羅的解析
	菅沼 啓輔	帯広畜産大学 グローバルアグロメディシン研究センター 獣医学研究部門	アフリカトリパノソーマ症経口治療薬開発にむけた探索と検証
	田端 桂介	大阪大学 生命機能研究科 細胞内膜動態研究室	ウイルス感染細胞内複製オルガネラ形成における共通分子機構の解明
	樋口 雄亮	京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学	COVID-19 に対する高親和性改変 ACE2 分泌 MSC を用いた細胞療法の開発
	横川 真梨子	慶應義塾大学 薬学部 生命機能物理学講座	B 型肝炎ウイルスの肝細胞特異的感染機構解明と立体構造に基づく創薬
2022	朝倉 崇徳	北里大学 薬学部 臨床医学 (生体制御学)	網羅的遺伝子解析を用いた肺非結核性抗酸菌症の病態解明
	岩永 直樹	長崎大学病院 呼吸器内科	肺組織常在型リンパ球の活性化による肺非結核性抗酸菌症の制御
	島袋 将弥	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 無機生体材料学分野	骨領域における感染症治療のための革新的医療機器開発
	鈴木 達也	大阪大学微生物病研究所 感染機構研究部門 高等共創研究院	蚊の唾液によるフラビウイルス感染増強を司る分子基盤の解明
	高橋 朋子	埼玉大学大学院理工学研究科 生命科学部門 分子生物学領域	microRNA によるウイルス感染症の超早期予測・予防・治療法の開発

2023	南宮 湖	慶應義塾大学 医学部 感染症学教室	統合ゲノム解析で迫る肺非結核性抗酸菌症の病態解明
	山田 大翔	北海道大学 遺伝子病制御研究所 分子生体防御分野	COVID-19 重症化リスクによる自然免疫破綻機構の解明とその制御方法の探索
	相原 正宗	九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野	エピノーム・ダイナミクスが導く細菌の薬剤耐性強化機構解明に向けた研究
	日下部 美佐子	東京都立病院機構がん・感染症センター 都立駒込病院 婦人科 婦人科	HPV 関連子宮頸部腫瘍の免疫逃避機構の層別化とその可逆性についての検討
	鈴木 浩大	岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座	血管内皮障害部位特異的ホーミングペプチドを用いた新規敗血症治療の検討
	外園 真規	新潟大学大学院医歯学総合研究科 う蝕学分野	免疫細胞を含む新規歯肉上皮モデルを用いた、宿主免疫機構とデンタルバイオフィーム細菌叢の相互作用の解明
	伴戸 寛徳	旭川医科大学 医学部 感染症学講座 寄生虫学分野	ヒトの脳へのトキソプラズマ寄生メカニズムの包括的な解明
	平松 征洋	大阪大学 微生物病研究所 感染機構研究部門 分子細菌学分野	百日咳菌の新たな宿主感知システムの解析と感染防御法開発への応用
	平山 達朗	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 薬物治療学	Candida auris の薬剤耐性機序の解明とその克服
2024	伊東 孝政	北海道大学病院 皮膚科	遊走自然リンパ球を介した寄生虫感染による衛生仮説の統合的理解
	上村 健太郎	大阪大学 感染症総合教育研究拠点 ウイルス制御学チーム	重症熱性血小板減少症候群ウイルスの増殖に寄与する宿主因子の機能解析及び創薬への応用
	牛丸 理一郎	東京大学大学院薬学系研究科 天然物化学教室	合成生物学手法を用いた生物活性リン酸アミド含有ヌクレオシドの創出
	鴨志田 剛	明治薬科大学 薬学部 感染制御学研究室	薬剤耐性 Acinetobacter baumannii をカルバペネム系抗菌薬で処理することで誘発される高病原化メカニズムの解析
	杉本 温子	名古屋大学大学院医学系研究科 ウイルス学	EBV 治療薬としての、IMPDH2 阻害剤の検討
	彦根 麻由	長崎大学 熱帯医学研究所 ケニアプロジェクト拠点	革新的な核酸濃縮法と CRISPR ゲルによる結核性髄膜炎の高感度迅速診断技術の開発
	藤原 英晃	岡山大学病院 血液・腫瘍内科	Oral-lung-gut axis から紐解く細菌叢による免疫反応性制御の解明
2025	青木 弘太郎	東邦大学医学部 微生物・感染症学講座	血液培養陽性検体ダイレクト全ゲノム解析による網羅的原因菌同定、薬剤耐性、ならびに院内伝播検出タイムリーフィードバック検査法の開発と検証
	今井 優	信州大学アクア・リジェネレーション機構 下里ユニット	線虫共生細菌を活用した薬剤耐性グラム陽性細菌に有効な抗生物質の創薬研究
	内田 尚宏	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科	敗血症による副腎血管障害に対する ACTH 介在性保護作用の解明と臨床応用の可能性
	春日井 大介	名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学分野	急性呼吸促進症候群後遺症に対する新規治療開発に向けた非臨床評価
	橘 優汰	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野	病原性寄生虫トキソプラズマの細胞外脱出の謎に挑み新たな治療標的とする
	村居 和寿	金沢大学医薬保健研究域 保健学系病態検査学講座	感染症における血中循環リパーゼの免疫調節機能とその生物学的意義の解明
	八木 一馬	慶應義塾大学医学部 感染症学教室	腸-肺軸を介したマイクロバイーム変容と肺非結核性抗酸菌症の病態との関連解析
	山本 健太郎	国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所 ハンセン病研究センター	肺非結核性抗酸菌症における気管支拡張とバイオフィーム形成の全肺三次元イメージング解析

呼吸器・アレルギー領域 (2018年～2023年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>呼吸器・アレルギー疾患の成因、治療、予防について、これまでに数多くの研究成果が上がっているものの、これらの研究が継続、発展することは国民のヘルスケアを推進する上で極めて重要なことと考えられ、より豊かな発想とそれを実現化させる熱意を持ち、呼吸器・アレルギー領域の研究を行う研究者に対して助成を実施。</p> <p>【若手研究者支援】</p> <p>呼吸器・アレルギー疾患の治療の進歩・発展に貢献できる次世代を担う若手研究者の育成を目的とし、医学系の研究を対象。さらに、発展的かつ優秀な研究成果を収めた研究者の方を医学奨励賞として表彰。</p>
選考委員	<p>海老澤 元宏 国立病院機構 相模原病院</p> <p>菊地 利明 新潟大学大学院医歯学総合研究科</p> <p>多賀谷 悦子 東京女子医科大学</p> <p>長瀬 隆英 東京大学大学院医学系研究科</p> <p>藤枝 重治 福井大学医学部医学科</p> <p>◎ 藤澤 隆夫 国立病院機構 三重病院</p> <p>◎選考委員長</p>
歴代選考委員	<p>荒川 浩一</p> <p style="text-align: right;">任期終了につき所属等の記載は省略</p>

医学奨励賞

※敬称略/所属機関は応募時

年度	賞	氏名	所属機関	研究テーマ
2021	最優秀賞	平原 潔	千葉大学大学院医学研究院 免疫発生学	組織線維化を誘導する組織常在性記憶 CD4+ T 細胞誘導機構の解明
2022	最優秀賞	意元 義政	福井大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	好酸球性副鼻腔炎の鼻腔内細菌叢と短鎖脂肪酸の機能解析
2023	最優秀賞	福島 清春	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 自然免疫学	肺線維症の新たな病理理解に基づく新規治療標的の確立

若手研究者

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2019	伊沢 久未	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター	活性化型受容体による喘息病態制御の新規機序解明
	岩田 有史	千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科	Fizzled receptor によるアレルギー性炎症制御機構の解析
	平原 潔	千葉大学大学院医学研究院 免疫発生学	組織線維化を誘導する組織常在性記憶 CD4+ T 細胞誘導機構の解明
	松下 一史	兵庫医科大学 医学部 免疫学講座	Regnase-1 の分解制御を介した慢性アレルギー性気道炎症の制御
2020	砂金 秀章	東京大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学講座	喘息の病態における気道上皮での Shh シグナル経路の役割の解析

	意元 義政	福井大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	好酸球性副鼻腔炎の鼻腔内細菌叢と短鎖脂肪酸の機能解析
	田代 宏樹	佐賀大学医学部附属病院 内科学講座 呼吸器内科	腸内細菌叢をターゲットとした肥満喘息の制御：マクロライド系抗菌剤の役割
	藤野 直也	東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野	重症喘息病態における Axl 受容体チロシンキナーゼの機能解析
2021	加藤 幸宣	福井大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	モデルマウスを用いた花粉・食物アレルギー症候群の病態解明と治療戦略
	金光 禎寛	名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学	神経生理学的アプローチに基づく喘息と機能性ディスペプシアの相互関係に関する病態探索研究
	福島 清春	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 自然免疫学	肺線維症の新たな病態理解に基づく新規治療標的の確立
	宮坂 智充	東北医科薬科大学 薬学部 病態生理学	κ オピオイド受容体シグナルによる新たな喘息病態抑制機序の解明
2022	石井 由美子	九州大学 医学部 呼吸器内科	細胞間接着分子クローデイン-3 のアレルギー性免疫応答における新規役割の解明
	白井 雄也	大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫内科学	次世代プロテオミクスによる気管支喘息 2 型炎症の新規バイオマーカー開発
	堀江 真史	金沢大学 医薬保健研究域医学系 分子細胞病理学	気管支喘息、COPD、および Asthma and COPD Overlap (ACO) の単一細胞レベルでの多層的オミックス解析による病態解明
	吉田 加奈子	福井大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	ACE2 とその関連分子に着目した好酸球性副鼻腔炎の嗅覚障害メカニズムの解明
2023	加畑 宏樹	慶應義塾大学 医学部 内科学教室 (呼吸器)	アレルギー疾患の治療を目指した制御性自然リンパ球の分化誘導法の確立
	松本 晃治	滋賀医科大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	好酸球鼻副鼻腔炎における Th2 型 tissue resident memory T 細胞の役割
	三木 春香	筑波大学 医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学	炎症性サイトカイン LIGHT による喘息重症化および血管炎発症メカニズム解明と新規治療法の開発
	渡辺 知志	金沢大学 医薬保健学総合研究科 地域呼吸器症候学講座	マクロファージによる上皮細胞分化誘導と肺線維化形成機序の解明

震災特別支援 (2011年)

敬称略
50音順

趣 旨	2011年東北地方太平洋沖地震で被災した岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の大学、医療機関、研究機関における研究費用を助成し、研究環境の早期復旧、研究再開、継続を支援。			
歴代選考委員	秋山 一男 ◎ 矢崎 義雄 ◎選考委員長	柴崎 正勝	寺本 民生	福井 次矢

終了プログラムにつき所属等の記載は省略

※敬称略/所属機関は応募時

年度	領域	氏名	所属機関	研究テーマ
2011	循環器領域	青沼 和隆	筑波大学大学院人間総合科学研究科 循環器内科学	糖尿病性心筋症の実態に迫る
		上月 正博	東北大学大学院医学系研究科 内部障害学分野	電気刺激を用いた血管新生療法
		笹野 公伸	東北大学大学院医学系研究科 医科学専攻 病理病態学講座 病理診断学分野	血圧の日内変動とアルドステロン
		下川 宏明	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野	心不全の発症・進展における Rho キナーゼ経路の役割の検討
		服部 俊夫	東北大学大学院医学系研究科 感染病態学講座	虚血性疾患治療を目指した高効率膜透過性ペプチド創出
		竹石 恭知	福島県立医科大学医学部 循環器・血液内科学講座	Senescence marker protein 30 による心臓リモデリングの抑制
		仲井 邦彦	東北大学大学院医学系研究科 発達環境医学分野	乳児期における授乳の有無と7歳児の家庭血圧
		藤村 昭夫	自治医科大学 薬理学講座 分子薬理学部門	V1b バゾプレッシン受容体の循環機能における役割の解明
		丸山 幸夫	星総合病院 循環器センター (循環器内科)	ヒト冠動脈硬化病変における種々の血管内イメージングを用いた発症・進展機序の解明
	柳澤 輝行	東北大学大学院医学系研究科 分子薬理学分野	心不全モデルとしての心室筋アポトーシスの人工的誘導	
	動脈硬化領域	長崎 幸夫	筑波大学大学院数理工学系研究科 バイオマテリアル研究室	動脈硬化治療を目指したレドックスナノメディシンの開発
	糖尿病領域	伊藤 貞嘉	東北大学大学院医学系研究科 腎高血圧内分泌学分野	(プロ) レニンレセプターの炎症細胞における役割
		片桐 秀樹	東北大学大学院医学系研究科 代謝疾患学分野	神経を介した肝臓-膵β細胞間ネットワークによる膵β細胞制御機構の解明
		神崎 展	東北大学大学院医工学研究科 病態ナノシステム医工学分野 (神崎研究室)	インスリン抵抗性時における GLUT4 ソーティング障害に関する研究
		佐藤 博	東北大学大学院薬学研究科 臨床薬学分野	高血圧関連遺伝子の糖尿病性腎症・妊娠高血圧症における役割
		島野 仁	筑波大学大学院人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 臨床医学系内分泌代謝・糖尿病内科	肝臓における転写因子によるエネルギー代謝調節メカニズムの解明
		堂浦 克美	東北大学大学院医学系研究科 神経化学講座	グルコーストランスポーター SGLT を介した神経変性疾患発症遅延の分子機構解明研究
		富岡 佳久	東北大学大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野	糖尿病性腎障害時における血中および尿中グアニジノ化合物類の変動解析

	野原 恵子	独立行政法人国立環境研究所 環境健康研究センター 分子毒性機構研究室	環境化学物質曝露が 2 型糖尿病の発症を導く機構の解明
	谷内 一彦	東北大学大学院医学系研究科 機能薬理学分野	インスリン分泌および糖代謝における膵 β 細胞ヒスタミン3型受容体の役割
	山添 康	東北大学大学院薬学研究科 薬物動態学分野	インシュリン抵抗性モデルによる FGF19 シグナルの糖/脂質代謝改善作用の解析
	渡辺 毅	福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座	ヤーコンの糖代謝に及ぼす影響についての研究
呼吸器・アレルギー領域	五十嵐 和彦	東北大学大学院医学系研究科 生物化学分野	Bach2 遺伝子欠損マウスを用いた肺蛋白症発症機構の解明
	石井 直人	東北大学大学院医学系研究科 免疫学分野	免疫系ヒト化マウスの開発
	柴原 茂樹	東北大学大学院医学系研究科 細胞生物学講座分子生物学分野	肺循環血流の制御と換気応答の分子基盤の解明
	檜澤 伸之	筑波大学大学院人間総合科学研究科 呼吸器内科グループ	気管支喘息遺伝子多型 (SNP) 網羅的解析と変動遺伝子の機能解析
	平澤 典保	東北大学大学院薬学研究科 生活習慣病治療薬学分野	環境化学物質によるアレルギーの増悪化作用
臨床疫学・薬剤疫学・生物統計学領域	有馬 隆博	東北大学大学院医学系研究科 環境遺伝医学総合研究センター 情報遺伝学分野	生殖補助医療 (ART) と遺伝子刷り込み (ゲノムインプリント) 異常症の関連に関する研究
	石戸谷 滋人	東北大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野	健常日本人における総前立腺特異抗原 (tPSA) と遊離型 PSA 測定:大規模疫学調査
有機合成化学領域	磯部 寛之	東北大学大学院理学研究科 境界化学講座有機化学第二研究室	トリアゾール連結人工核酸の効率的伸長反応開発
	岩淵 好治	東北大学大学院薬学研究科 合成制御化学分野	環境調和型高選択的アルコール酸化手法の開発研究
	岩本 武明	東北大学大学院理学研究科 化学専攻 合成・構造有機化学研究室	緻密に構造制御された金属錯体触媒構築のための新規分子足場の開発
	上田 実	東北大学大学院理学研究科 化学専攻 有機化学第一研究室	天然物リガンドの新規標的同一化方法の開発
	大島 吉輝	東北大学大学院薬学研究科 医薬資源化学分野	天然資源からの自然免疫制御物質の探索とその合成化学的展開
	桑原 重文	東北大学大学院農学研究科 生物有機化学分野	立体構造未知の脂肪酸・ポリケチド型超微量生理活性天然物に関する合成化学的研究
	佐々木 誠	東北大学大学院生命科学研究所 生命構造化学分野	強力な抗真菌活性を示す海洋天然物の全合成研究
	正田 晋一郎	東北大学大学院工学研究科 バイオ工学専攻 機能高分子化学分野	糖オキサゾリンの一段階合成法の確立
	寺田 眞浩	東北大学大学院理学研究科 化学専攻 境界領域化学講座 反応有機化学研究室	基質認識型有機分子触媒による次世代分子変換反応の開発研究
	徳山 英利	東北大学大学院薬学研究科 医薬製造化学分野	転位カスケード反応を基盤とした新規インドールアルカロイドの全合成研究
	平間 正博	東北大学大学院理学研究科 化学専攻 有機分析化学研究室	天然および非天然機能分子の全合成・解析研究
	山口 雅彦	東北大学大学院薬学研究科 分子設計化学分野	生物活性化合物の開発を目的とした有機イオウ・リン化合物の合成
	山本 嘉則	東北大学大学院理学研究科 分子変換学寄附講座	フラレン誘導体の新規合成法の開発による有機薄膜太陽電池の変換効率の向上

震災研究支援 (2012年)

敬称略
50音順

趣 旨	地震災害時の健康障害の予防・治療に関するエビデンス構築を支援するために、2011年の東日本大震災 被災者の健康障害の予防・治療に関する調査を伴う研究に対して助成を実施。		
歴代選考委員	代田 浩之 三村 将 ◎選考委員長	椿 広計 山口 直人	野々山 恵章 ◎ 福井 次矢 吉川 裕之 終了プログラムにつき所属等の記載は省略

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2012	有馬 隆博	東北大学 大学院医学系研究科 情報遺伝学分野	被災状況と胎児、新生児の身体的発育、発達障害に及ぼす影響に関する調査研究
	内山 登紀夫	福島大学 人間発達文化学類 人間発達文化研究科学校臨床心理専攻	東日本大震災後の福島県における乳幼児と保護者に関するメンタルヘルスの現状調査と支援ニーズの把握に関する研究
	苅尾 七臣	自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門	震災被災者の血圧遠隔モニタリング・リスク管理システムの構築および循環器リスク予防に関する研究
	坂田 泰彦	東北大学 大学院医学系研究科 循環器EBM 開発学寄附講座	震災によるメンタルストレスが生活習慣病の病態および予後に及ぼす影響の検討
	田中 健一	福島県立医科大学 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座	東日本大震災による慢性腎臓病および糖尿病患者の健康被害に関する検討
	仲井 邦彦	東北大学 大学院医学系研究科 発達環境医学分野	東日本大震災を体験した小児の行動指標の長期観察とそのフォローアップ

がん医療政策に関する研究 (2019年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>現在の日本においてがん患者数は増加しており、また革新的な医薬品や治療法の開発が進められてきている。がん治療における経済的、社会的な利益は政策的議論の際に重要であり、これらの利益は患者本人のみならず周囲の人々にとっても生産性や効率性の観点から政策的な要素として重要であることから、特定の治療や治療による臨床的価値以外における「がん医療政策に関する研究」に対して助成を実施。</p>			
歴代選考委員	<p>赤沢 学</p> <p>◎ 武藤 正樹</p> <p>◎選考委員長</p>	<p>池田 俊也</p>	<p>西村 周三</p>	<p>濱島 ちさと</p> <p>終了プログラムにつき所属等の記載は省略</p>

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
2019	岩谷 胤生	国立がん研究センター 東病院 乳腺外科	日本人乳癌患者を対象とし仮想的市場評価法を用いて患者が考える「生命」や「健康」に対する金銭的価値を支払い意思額 (Willingness to pay: WTP) として検証する前向き観察研究
	後藤 励	慶應義塾大学 大学院経営管理研究科	人々の選好とバイアスを考慮した最適ながん検診に関する研究



事業概要

有機化学分野

地区シンポジウム(札幌・仙台・福岡)／名古屋メダルセミナー
Chemist Award BCA & Lectureship Award MBLA／大津会議
KYOTO-Rising Star Lectureship Award／特別シンポジウム

有機化学関連事業は2026年3月1日付で公益社団法人日本化学会へ譲渡されました。有機化学関連の全事業が、日本化学会に新たに設立された「有機化学若手育成部会」で継続されています。

3地区シンポジウム (1989年～2025年)

趣 旨	日本の有機化学分野の国際競争力維持と発展を目的として、1989年以来、毎年『万有シンポジウム』(札幌、仙台、福岡)の開催を支援。主な対象者である学生、若手研究者が最先端研究に触れることにより、有機化学の深遠さと広さその無限の可能性に啓発され、数多くの素晴らしい人材へと育つ。
-----	---

万有札幌シンポジウム

組織委員

市川 聡	北海道大学大学院薬学研究院
伊藤 肇	北海道大学 WPI-ICReDD/ 大学院工学研究院
猪熊 泰英	北海道大学大学院工学研究院
浦口 大輔	北海道大学触媒科学研究所
大熊 毅	北海道大学大学院工学研究院 / FCC
小野田 晃	北海道大学大学院地球環境科学研究院
佐藤 美洋	北海道大学大学院薬学研究院
澤村 正也	北海道大学 WPI-ICReDD/ 大学院理学研究院
谷野 圭司	北海道大学大学院理学研究院
永木 愛一郎	北海道大学大学院理学研究院



敬称略
50音順

歴代組織委員

任期終了につき所属等の記載は省略

小西 克明	高橋 保	中野 環	橋本 俊一	松田 冬彦
松永 茂樹	宮浦 憲夫	宮下 正昭	界外 哲二	鈴木 國夫
田中 誠一	間瀬 俊明			

※敬称略/所属機関は開催時

1989

第1回

生体機能解明のための天然物合成

開催日：1989年10月7日(土)

オーガナイザー：村井 章夫(北大理)

- 講師：柴崎 正勝(北大) 遷移金属による立体化学制御 - オレフィン合成と触媒的不斉合成
 平間 正博(東北大) 抗癌剤ネオカルチノスタチンの化学の新展開
 奈良坂 紘一(東大) キラルなチタン化合物を用いる不斉触媒反応の開発
 志津里 芳一(慶應大) 有機電極反応を利用した生理活性天然物の合成
 香月 勲(九大) プロピオン酸由来部構造の立体選択的構築

1990

第2回

生体機能解明への有機化学の挑戦

開催日：1990年9月14日(金)

オーガナイザー：市原 耿民(北大農)

- 講師：磯部 稔(名大) 生体機能天然物の立体制御 - 方法論の展開
 電田 邦明(慶應大) ポリケチドラクトンを用いる抗生物質の生物有機化学的合成
 富本 浩嗣(万有) 抗高脂血症作用を有するスクアレン・エポキシダーゼ阻害剤の合成と構造活性相関
 藤沢 有(三重大) パン酵母還元 - 立体制御と有機合成
 富岡 清(東大) 立体化学制御 - 基礎概念と設計

1991

第3回

生体機能解明への有機化学の挑戦

開催日：1991年7月12日（金）

オーガナイザー：柴崎 正勝（北大薬）

- 講師：橋本 俊一（帝京大） 含リン脱離基を基盤とする高選択的グリコシル化反応の開発
高井 和彦（京大） 合成反応剤としての金属-アルキン錯体
三上 幸一（東工大） エン反応の“不斉触媒化”と有機合成の“超”効率化
森島 甫（万有） レニン阻害剤の研究-ペプチドからノンペプチドへの薬剤設計
塩入 孝之（名市大） 海洋産生理活性天然物の効率的構築

1992

第4回

生体機能解明への有機化学の挑戦

開催日：1992年6月26日（金）

オーガナイザー：白濱 晴久（北大理）

- 講師：稲永 純二（分子科研） サマリウムを戦略元素とする新しい有機合成反応の開発
富士 薫（京大） 不斉記憶
石川 清文（万有） エンドセリン拮抗物質の合成研究
楠見 武徳（筑波大） 生理活性物質の溶液における構造のNMR解析
磯部 稔（名大） 生物機能分子の合成と機能発現

1993

第5回

生体機能解明への有機化学の挑戦

開催日：1993年7月2日（金）

オーガナイザー：米光 幸（北大薬）

- 講師：新開 一朗（Merck） Oxazaborolidines:Chemistry and Origin of Enantioselectivity
宮浦 憲夫（北大） 遷移金属触媒による有機ホウ素化合物の反応
北 泰行（阪大） 超原子価ヨウ素試薬を用いる有機合成反応の開発とその応用
中田 忠（理研） 海洋産多官能性生物活性天然物の合成研究
檜山爲次郎（東工大） HMG-CoA 還元酵素阻害剤の合成法
K.Barry Sharpless (Scripps) Recent Advances in Asymmetric Dihydroxylation

1994

第6回

生体機能解明への有機化学の挑戦

開催日：1994年7月2日（土）

オーガナイザー：林 民生（北大触セ）

- 講師：大島幸一郎（京大） ケイ素の特性を利用した有機合成反応の開発
中村 栄一（東工大） 非天然物の合成化学
斎藤 清機（岡大） ジアスレオ面区別の新手法を機軸とする窒素官能基絶対配置制御導入法の展開
深津 弘（万有） カルバペネム抗菌剤 BO-2727 及び関連化合物の構造活性相関
宮下 正昭（北大） 強力なグルタミン酸遮断活性を有するクモ毒素の合成研究

1995

第7回

生体機能解明への有機化学の挑戦

開催日：1995年7月8日（土）

オーガナイザー：森 美和子（北大薬）

- 講師：山本 尚（名大） 精密ルイス酸触媒と不斉合成
落合 正仁（徳島大） 超原子価ヨウ素置換基の超脱離能を活用する反応
藤田 誠（千葉大） 自己集合する有機金属超分子-大環状化合物から [2] カテナンまで
市原 耿民（北大） 生物活性天然スピロエーテル類の合成
山田 静之（名大） 海洋産抗腫瘍性物質の単離・構造と合成

1996

第8回

有機化学の挑戦

開催日：1996年7月5日(金)

オーガナイザー：村井 章夫 (北大理)

- 講師：小林 淳一 (北大) 特異な海洋天然物マンザミンとアンフィジノリドの化学
 丸岡 啓二 (北大) 概念的に新しい共役アルキル反応—その発想と展開
 楠本 正一 (阪大) 複合糖質を介した動物とバクテリアのコミュニケーション—有機化学で何が分かってきたか
 安元 健 (東北大) 新規海洋生物毒の化学構造と生体膜研究への展開
 向山 光昭 (東理大) 有機合成化学の新しい可能性

1997

第9回

有機化学の挑戦

開催日：1997年7月4日(金)

オーガナイザー：市原 耿民 (北大農)

- 講師：近藤 忠雄 (名大) 花色発現機構の化学的解明
 岩沢 善一 (万有) 夢の抗がん剤を目指して：ファルネシルプロテイントランスフェラーゼ阻害剤の合成
 村井 章夫 (北大) 海産微量毒の全合成展開
 志津里芳一 (海バ研) 海洋生物付着とマリンバイオテクノロジー
 山本 嘉則 (東北大) 革新的手法によるアロマテックスの構築

1998

10周年記念

先導的有機合成の挑戦

開催日：1998年7月31日(金)

オーガナイザー：丸岡 啓二 (北大理)

- 講師：石山 竜生 (北大) ジボロン反応剤を用いる有機合成
 藤原 憲秀 (北大) 海藻毒ポリカバノシド A の全合成とそこから生じた縮環状ポリエーテル合成の種
 柴崎 正勝 (東大) ホルポール：化学合成と生物有機化学
 山浦 洋介 (北大) ジルコニウム触媒を用いる不斉環化反応
 鈴木 啓介 (東工大) プラジミシン、ペナノミシン類の合成研究
 野依 良治 (名大) 力量ある不斉合成にむけて

1999

第11回

次世代有機合成のフロンティア

開催日：1999年7月19日(月)

オーガナイザー：橋本 俊一 (北大薬)

- 講師：大熊 毅 (名大) 単純ケトン類の水素化反応—高活性と高立体選択性をめざして—
 西村紳一郎 (北大) 生命の不思議を有機合成で探る—糖鎖の誕生と機能発現—
 岩澤 伸治 (東工大) タングステンカルボニル錯体を利用する有機合成
 間瀬 俊明 (万有) エンドセリン受容体拮抗剤—メディシナルケミストリーからプロセスケミストリーまで—
 山口 雅彦 (東北大) 有機ガリウム化合物の新しい化学
 林 民生 (京大) 遷移金属錯体触媒を用いた新しい不斉合成反応の開発

2000

第12回

先導的有機合成の挑戦

開催日：2000年7月1日(土)

オーガナイザー：宮浦 憲夫 (北大工)

- 講師：柳 日馨 (阪府大) ケトンのジアニオン種による合成化学
 小澤 文幸 (阪市大) ルテニウムピリリデンおよび Fischer 型カルベン錯体触媒を用いるオレフィンメタセシス反応
 村上 正浩 (京大) 遷移金属触媒を用いるビニルアレンの付加環化反応
 T.R.Verhoeven (Merck) Optimizing Selectivity in Synthesis. New Approaches
 及川 英秋 (北大) 新しい炭素—炭素結合酵素、Diels-Alderase (古くて新しい触媒、酵素再考)
 北 泰行 (阪大) 超原子価ヨウ素試薬を用いる新規酸化反応の開発とその生物活性天然物合成への応用

2001

第 13 回

21 世紀：先導的有機合成の挑戦

開催日：2001 年 7 月 14 日 (土)

オーガナイザー：宮下 正昭 (北大理)

- 講師：佐藤 美洋 (北大) ニッケル触媒を用いた炭素-炭素結合形成反応を基盤とした新規反応の開発と応用
 斉藤 真 (北大) キラル N-オキシドを用いた不斉触媒反応
 大村 智通 (北大) ビニリデン錯体を経由する触媒的ヒドロホウ素化反応
 田中 誠一 (万有) 新時代の創薬研究におけるメディシナル&プロセスケミストリーの重要性
 澤村 正也 (北大) フラーレンが拓く新しい有機金属化学
 R.P. Volante (Merck) Synthesis of a Muscarinic Receptor Antagonist via a Diastereoselective Michael Reaction, Selective Deoxyfluorination and Aromatic Metal-Halogen Exchange Reaction
 袖岡 幹子 (東北大) パラジウムエノラートを鍵とする触媒的不斉合成
 鈴木 啓介 (東工大) ハイブリッド型天然物に学ぶ

2002

第 14 回

戦略的有機化学の最先端

開催日：2002 年 7 月 6 日 (土)

オーガナイザー：高橋 保 (北大触セ)

- 講師：河合 英敏 (北大) ヒドリングセン骨格を用いた新規分子レセプターの設計と機能-アロステリック効果の発現と基質選択性-
 谷野 圭持 (北大) アセチレンジコバルト錯体を用いた遷形成反応
 石井 康敬 (関西大) 炭素ラジカル生成触媒の開発と合成反応への利用
 深見 竹広 (万有) 神経ペプチド Y 拮抗剤の開発
 鈴木 教之 (理研) 最も小さい環状アルキンの合成と構造決定-ブタトリエンの遷移金属錯体-
 香月 颯 (九大) 酸素酸化を目指して

2003

15 周年記念

有機化学の新展開

開催日：2003 年 7 月 12 日 (土)

オーガナイザー：森 美和子 (北大薬)

- 講師：中田 忠 (理研/東理大) 海洋産多環状エーテルの合成研究：発想と展開
 占部 弘和 (東工大) チタン試薬による多成分あるいは多段階ワンポット有機合成反応の開発と利用
 斎藤 清機 (岡大) 合成的素材としての炭素陰イオンと炭素陽イオンの再評価-炭素骨格構築と天然物合成-
 Richard D. Tilley (Merck) Stereoselective carbon-carbon bond forming reactions using chiral activated diarylcarbinol derivatives. Asymmetric synthesis of complex diarylmethanes
 辻 康之 (北大) ナノサイズ分子触媒の開発
 植村 榮 (京大) パラジウム触媒新規反応 - β 炭素脱離を経由する不斉反応

2004

第 16 回

未来を拓く創造有機合成化学

開催日：2004 年 7 月 3 日 (土)

オーガナイザー：澤村 正也 (北大理)

- 講師：大江 浩一 (京大) アルキンをカルベノイド前駆体とする新触媒反応の開発
 馬場 章夫 (阪大) 基本的反応の省プロセス型への変換をめざして-インジウムとケイ素の複合作用を鍵にした新合成手法開発-
 佐々木 誠 (東北大) 巨大ポリエーテル系天然物の効率的全合成と構造活性相関
 原 正治 (北大) 超原子価ヨウ素化合物を利用したフルオロアルケンの立体選択的合成
 玉尾 皓平 (京大) 有機典型元素機能化学

2005

第 17 回

未来を拓く創造有機合成化学

開催日：2005 年 7 月 2 日 (土)

オーガナイザー：宮浦 憲夫 (北大工)

- 講師：杉野目道紀 (京大) ホウ素化合物の触媒的活性化に基づいた新合成反応
 新藤 充 (九大) イノラートによる極性転換型マルチ反応プロセス
 金政 修司 (九大) 反応の多重活性化手法-求核剤の触媒的生成-
 前田 賢二 (万有) 新薬候補化合物のプロセス開発-究極の合成プロセスを求めて-
 福山 透 (東大) インドール合成法開発の波及効果

2006

第18回

有機合成化学の夢と挑戦

開催日：2006年7月8日(土)

オーガナイザー：橋本 俊一(北大薬)

講師：井上 将行(東北大) 複雑縮環天然有機化合物の全合成

田中 健(東農工大) 芳香環構築を鍵とするキラル芳香族化合物の触媒的合成

藤田 誠(東大) 自己組織化空間の創造化学

納屋 朗(万有) 新規CCR3受容体拮抗剤の創製

柴寄 正勝(東大) 多点制御型不斉触媒の限りなき可能性

2007

第19回

有機合成が拓く未踏のフロンティア

開催日：2007年7月7日(土)

オーガナイザー：及川 英秋(北大理)

講師：寺尾 潤(阪大) アニオン性遷移金属錯体を触媒活性種とする炭素-炭素及び炭素-ケイ素結合形成反応の新方法論

渡邊 秀典(東大) 生物活性天然物の合成-複雑な化合物を単純に作ることを目指して-

上田 実(東北大) 天然有機化合物を用いるケミカルバイオロジーと生物現象の分子メカニズム

間瀬 俊明(万有) 医薬品プロセス化学とグリーンケミストリー

中村 栄一(東大) 有機分子の構造変化と動きを直接観察する-世界初の有機分子の構造の電子顕微鏡観察

2008

20周年記念

新たな分子機能への挑戦

開催日：2008年7月5日(土)

オーガナイザー：宮浦 憲夫(北大工)

講師：村井 章夫(北大) 万有札幌シンポジウムの20年

丸岡 啓二(京大) 不斉合成における脱金属触媒の可能性に向けて

佐藤 長明(万有) イミダゾリン誘導体ニューロペプチドY5受容体拮抗薬の開発：構造活性相関とその実現に向けた合成法の開発

上杉 志成(京大) 合成小分子化合物によるケミカルバイオロジー

磯部 稔(名大) 自然から学ぶ有機化学40年：天然物全合成から標的タンパク質解析まで

山本 尚(シカゴ大) Design of Asymmetric Catalysts for Organic Synthesis

2009

第21回

有機化学の新しい挑戦

開催日：2009年7月4日(土)

オーガナイザー：高橋 保(北大触ゼ)

講師：伊丹健一郎(名大) 芳香環連結化学のブレークスルー：新反応、新触媒、新展開

安達千波矢(九大) 有機半導体デバイスの基礎から最先端デバイスまで

小江 誠司(九大) 水素からの電子抽出

上村 大輔(慶應大) 生物現象に着目した生物活性物質の探索研究

山本 嘉則(東北大) π 電子親和性ルイス酸を用いる新規分子変換反応

2010

第22回

構築的有機合成化学：医療そして材料科学の未来へ

開催日：2010年7月3日(土)

オーガナイザー：鈴木 孝紀(北大理)

講師：中尾 佳亮(京大) 協働金属触媒による炭素-炭素結合形成付加反応

有本 博一(東北大) 感染症の理解と制御のための化学的アプローチ

由井 伸彦(JAIST) ポリロタキサンを構造的特徴に基づいたバイオマテリアルの設計

魚住 泰広(分子科研) 水中不均一での不斉Pd触媒反応

塩谷 光彦(東大) 超分子合成化学の新展開-配列・空間・モーションの精密制御-

戸部 義人(阪大) 固液界面において形成される2次元分子ネットワークのダイナミクスと制御

2011

第 23 回

有機化学の深化と多様化

開催日：2011年7月2日(土)

オーガナイザー：大熊 毅 (北大工)

講師：中村 正治 (京大) 鉄触媒クロスカップリング：熊田 - 玉尾 - Corriu 反応から根岸および鈴木 - 宮浦反応への展開
 石原 一彰 (名大) 元素戦略に基づく酸・塩基複合触媒の精密設計
 長瀬 博 (北里大) オピオイド κ 受容体作動薬ナルフラフィン塩酸塩の研究開発
 中田 雅久 (早大) タキソールの効率的不斉全合成への挑戦
 八島 栄次 (名大) 超構造らせん分子・高分子の創製と機能創出
 鈴木 正昭 (理研) 人の中の分子を見る：高速 C-[^{13}C] メチル化および C-[^{18}F] フルオロメチル化法の創成と PET 分子イメージング
 鈴木 章 (北大) ノーベル化学賞を受賞して

2012

第 24 回

有機合成化学の最前線 - 「ものづくり」のための新しい方法論の開発と応用

開催日：2012年7月7日(土)

オーガナイザー：佐藤 美洋 (北大薬)

講師：生越 専介 (阪大) パーフルオロアルケン類の有用フッ素化合物への変換反応
 磯部 寛之 (東北大) ナノカーボンインスパイアード分子の設計・合成
 友岡 克彦 (九大) 動的面不斉を有するヘテロ中員環化合物の化学
 北村 雅人 (名大) 脱水型不斉 Tsuji-Trost 反応
 只野 金一 (慶應大) 遷移金属化合物を用いた天然物合成 - 過去 30 年間の研究を顧みて

2013

25 周年記念

未来を拓く創造有機化学

開催日：2013年7月6日(土)

オーガナイザー：澤村 正也 (北大理)

講師：鷹巣 守 (阪大) 不活性シグマ結合の触媒的変換反応
 山口潤一郎 (名大) 標的指向型芳香環直接連結法の開発とその展開
 大井 貴史 (名大) 有機イオン対の分子設計に基づく触媒機能の創出と応用
 浜地 格 (京大) 天然タンパク質を基質とした生細胞有機化学
 加藤 隆史 (東大) 自己組織化による分子機能材料の創製
 山本 尚 (中部大) スーパーシリルを用いた有機分子の一挙合成

2014

第 26 回

有機合成化学の挑戦

開催日：2014年7月5日(土)

オーガナイザー：松田 冬彦 (北大地球環境科学研究院)

講師：徳山 英利 (東北大) 酸化反応を鍵とする多環性アルカロイドの合成研究
 網井 秀樹 (群馬大) 触媒的芳香族トリフルオロメチル化と関連反応
 山口 茂弘 (名大) 光電子機能性分子のユニークなデザイン
 中谷 和彦 (阪大) 小分子による RNA の二次構造制御による機能調節
 木越 英夫 (筑波大) 海洋産抗腫瘍性物質アプリロニン A と細胞骨格タンパク質
 岩澤 伸治 (東工大) 遷移金属触媒を用いる sp^2 炭素 - 水素結合の直接カルボキシル化反応

2015

第 27 回

有機合成化学：着想、実践、発見、創造の最前線

開催日：2015年7月4日(土)

オーガナイザー：谷野 圭持 (北大理)

講師：忍久保 洋 (名大) ポルフィリンの新合成化学と機能探求
 内山 真伸 (東大) 実験と理論で切り拓く有機合成化学：きっかけ、偶然、執念、発見、展開
 鈴木 啓介 (東工大) ハイブリッド天然物に学ぶ：矢印は秘密の呪文？
 辻 康之 (京大) 二酸化炭素を用いる触媒的炭素 - 炭素結合生成反応の開発
 福山 透 (名大) 心に残る作品から

2016

第28回

フロンティアを超えて：有機化学その先

開催日：2016年7月2日(土)

オーガナイザー：伊藤 肇(北大工)

- 講師：前田 理 (北大) 有機反応の系統的な理解と設計へ向けた反応経路自動探索法の開発
大須賀篤弘 (京大) 超ポルフィリンの化学
大栗 博毅 (東農工大) 多官能性天然物群の骨格多様化合成
難波 康祐 (徳島大) 生物活性天然物の機能解明を志向した実践的合成研究
菅 裕明 (東大) A RaPID discovery to pseudo-natural peptides for therapeutic uses (特殊ペプチド創薬イノベーション)
真島 和志 (阪大) Salt-free Reduction of Metal Complexes for Generating Catalytically Active Species

2017

第29回

未来を切り拓く有機化学

開催日：2017年7月1日(土)

オーガナイザー：佐藤 美洋(北大薬)

- 講師：西原 康師 (岡大) クロスカップリングを利用するフェナセン型分子の合成と電子エネルギーデバイスへの応用
永次 史 (東北大) 効率的遺伝子発現制御を目指した核酸をテンプレートにする選択的化学反应の開発
千田 憲孝 (慶応大) タキソールの合成研究
竹本 佳司 (京大) 有機触媒の複合組織化を利用した新たな立体制御法の開発
茶谷 直人 (阪大) 結合活性化法の創製と新規触媒反応への応用

2018

第30回記念

希望につながる新しい化学

開催日：2018年7月7日(土)

オーガナイザー：高橋 保(北大触研)

- 講師：坂本 良太 (東大) 機能性分子低次元系のボトムアップ創製
大嶋 孝志 (九大) 保護基・活性化基に頼らない直接触媒反応
山子 茂 (京大) 環状 π 共役分子の新しい有機化学
小笠原正道 (徳島大) キラルな遷移金属錯体の不斉合成と応用
柴崎 正勝 (微生物化研) 協奏機能型不斉触媒が拓く環境調和型医薬合成：30年前の北大が出発点

2019

第31回

分子を見る！作る！使う！有機合成化学の今と未来

開催日：2019年7月6日(土)

オーガナイザー：澤村 正也(北大理)

- 講師：井上 将行 (東大) ラジカル反応の活用による複雑分子構築の単純化
田中 克典 (理研) 生体内合成化学医療 ～体内で治療診断分子を合成する～
深澤 愛子 (京大) 第3周期典型元素の特性を生かした新奇 π 電子系の創製と機能開拓
垣内 史敏 (慶大) 不活性結合を利用した π 共役系拡張法の開発と利用
佐藤 一彦 (産総研) 触媒の発見、産学連携、触媒研究の未来
中村 栄一 (東大) 高速高分解能電子顕微鏡で拓く新しい分子科学

2020

第32回

有機合成化学の道しるべ

開催日：2020年12月12日(土)

オーガナイザー：大熊 毅(北大工)

- 講師：細谷 孝充 (東大・理研) 生命科学研究に役立つ分子プローブの創製
西林 仁昭 (東大工) ハーバー・ボッシュ法を超えるアンモニア合成法への挑戦
直田 健 (阪大) よくある金属錯体の3次元分子改変と集積制御が生み出す新機能
侯 召民 (理研) 希土類触媒を用いた新規有機合成反応の開拓と機能性高分子の創製
丸岡 啓二 (京大) 丸岡触媒®を用いる高高いアミノ酸の実用的合成から超効率ペプチド合成へ

2021

第 33 回

有機化学～その無限の可能性の追求

開催日：2021年6月26日(土)

オーガナイザー：松永 茂樹(北大薬)

- 講師：大宮 寛久(金大) ラジカル制御型有機触媒
布施新一郎(名大) フロー・自動合成・機械学習を駆使する有機合成の未来
瀬川 泰知(分子研) 曲がった sp^2 炭素の有機合成化学
荘司 長三(名大) 金属酵素の誤作動誘起と高難度物質変換
眞鍋 史乃(医薬/北大) 抗体-薬物複合体開発における有機化学

2022

第 34 回

有機化学：センスとこだわりが生み出す分子たち

開催日：2022年10月8日(土)

オーガナイザー：谷野 圭持(北大理)

- 講師：南保 正和(名大) スルホニル基を活かした逐次的分子変換反応の開発
石川 勇人(千葉大) 有機分子触媒を利用する目的志向型天然物全合成
久保 孝史(阪大) 新物質創造で探る電子対の新しい姿
友岡 克彦(九大) 新しい特性を有するアルケン、アルキンの創製と応用
深瀬 浩一(阪大) 有機合成で挑む免疫制御

2023

第 35 回

有機合成の限界を超える

開催日：2023年7月1日(土)

オーガナイザー：伊藤 肇(北大工)

- 講師：鷹巣 守(阪大) 新反応開発：結合活性化から求核触媒の新展開まで
矢貝 史樹(千葉大) 分子の自己集合制御が実現する未踏メソスケールマテリアル
荒井 緑(慶大) 天然物に学ぶケミカルバイオロジー研究
美多 剛(北大) 反応経路自動探索法を用いた新反応の設計とその実現—挑戦と今後の課題
金井 求(東大) 生体内の化学秩序に介入する触媒

2024

第 36 回

未来を先導するための有機化学の新たな挑戦

開催日：2024年7月13日(土)

オーガナイザー：佐藤 美洋(北大薬)

- 講師：大嶋 孝志(九大) 化学選択性の触媒制御への挑戦、そしてデジタル有機合成へ
安倍 学(広大) 近赤外 2 光子 (2P) 応答性光アンテナ部位の設計、合成、および、生理学実験への応用
杉野目道紀(京大) 動的キラリシティ誘起と不斉増幅を特徴とするキラル高分子触媒
中田 雅久(早大) 生物活性多環式天然物の不斉全合成
袖岡 幹子(理研) 生物活性分子のイメージングと標的同一のための化学

2025

第 37 回

明日を照らす有機化学

開催日：2025年7月5日(土)

オーガナイザー：浦口 大輔(北大触媒)

- 講師：久保田浩司(北大) メカノケミカル法の特徴を活かした反応設計
長友 優典(北大) 稠密官能基化天然物の収束的全合成戦略
上垣外正己(名大) 有機反応に基づくリビング重合の開発と精密高分子合成
依光 英樹(京大) 電子注入に基づく不飽和結合の二重官能基化
魚住 泰広(分子研) 新たな機能性触媒との出会い：不斉触媒、水中機能性触媒、ナノ触媒、光触媒

万有仙台シンポジウム

組織委員

石川 稔	東北大学大学院生命科学研究所
岩淵 好治	東北大学大学院薬学研究科
榎本 賢	東北大学大学院農学研究科
寺田 眞浩	東北大学大学院理学研究科
永次 史	東北大学多元物質科学研究所
服部 徹太郎	東北大学大学院工学研究科
林 雄二郎	東北大学大学院理学研究科



敬称略
50音順

歴代組織委員

任期終了につき所属等の記載は省略

井上 祥雄	上田 実	桑原 重文	佐々木 誠	正田 晋一郎
袖岡 幹子	徳山 英利	平間 正博	山口 雅彦	山本 嘉則
界外 哲二	鈴木 國夫	田中 誠一	深見 竹広	

※敬称略/所属機関は開催時

1990

第1回

新しい合成方法論の開拓と天然物合成の新展開

開催日：1990年5月19日(土)

オーガナイザー：平間 正博 (東北大理)

講師：林 民生 (北大)	アミノ酸の触媒的不斉合成
小笠原國郎 (東北大)	グリセロール素子の徹底活用による天然物のキラル合成
山口 雅彦 (九工大)	ポリケチドの特性を利用する天然有機化合物の合成
村井 章夫 (北大)	含ハロゲン海産天然物の合成
高橋 孝志 (東工大)	有機合成における最新兵器 - コンピューターの活用
山本 嘉則 (東北大)	イミン活性化の新方法と天然物合成への応用

1991

第2回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成

開催日：1991年9月14日(土)

オーガナイザー：平間 正博 (東北大理)

講師：中山 仁 (北大)	イオンチャンネル機能への化学的アプローチ
井原 正隆 (東北大)	新規縮合多環構築法による生理活性天然物の効率合成
上野 民夫 (京大)	糸状菌の発芽に関与する新しい生理活性物質について
橘 和夫 (東大)	ウシノシタ化学防御物質のサメ忌避作用における分子挙動
西沢 麦夫 (徳島文理大)	熱グリコシル化反応を活用する有機合成 - シクロ-L-ラムノヘキサオース
関口 章 (東北大)	機能性有機ケイ素化合物の開発

1992

第3回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成 II

開催日：1992年7月4日(土)

オーガナイザー：平間 正博 (東北大理)

講師：青山 安宏 (長岡技科大)	糖質の分子認識
鈴木 啓介 (慶應大)	アリールC-グリコシド系抗生物質の合成研究 ビネオマイシン B2、ギルボカルシン M を例として
鈴木 正昭 (名大)	プロスタサイクリン受容体探索子の設計
柴崎 正勝 (東大)	元素の特性を活かした新しい触媒的不斉炭素-炭素結合生成反応
佐藤 雅之 (東北大)	キラルな複素6員環化合物の創製と不斉合成への利用
山村 庄亮 (慶應大)	天然物化学における有機合成

1993

第4回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成 III

開催日：1993年6月19日(土)

オーガナイザー：平間 正博(東北大理)

- 講師：池上 四郎(帝京大) ロジウム(II)触媒による炭素-水素挿入反応
 宮仕 勉(東北大) 光誘起電子移動反応によるスチレンラジカルカチオンの分子内環化反応
 富岡 清(阪大) 有機合成反応の不斉触媒化
 丹羽 治樹(名大) 生物活性ピロリチジンアルカロイドの合成
 小川 智也(理研/東大) 複合糖質の再構成研究-最近のトピックス
 安元 健(東北大) 海洋生理活性ポリエーテル

1994

第5回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成 IV

開催日：1994年4月28日(木)

オーガナイザー：平間 正博(東北大理)

- 講師：新開 一朗(メルク) Practical Asymmetric Syntheses
 吉藤 正明(東北大) かさ高い置換基をもつリン化合物の新有機化学
 富士 薫(京大) 常識的反応と反常識的反応-エナンチオ選択的反応を例として-
 中村 英士(北大) 海洋微小藻の化学
 大泉 康(東北大) 天然生理活性物質の生命科学領域への応用
 首藤 紘一(東大) ジカチオン反応中間体

1995

第6回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成

開催日：1995年4月28日(金)

オーガナイザー：山本 嘉則(東北大理)

- 講師：平間 正博(東北大) 9員環エンジンは ρ -ベンザインピラジカルと室温で平衡になっている？
 志津里芳一(海バ研) 生物付着とマリンバイオテクノロジー
 富本 浩嗣(万有) 新薬への挑戦 -スクアレン合成酵素阻害剤を化学する-
 丸岡 啓二(北大) 機能性ルイス酸を活用する有機合成
 吉田 潤一(京大) Electroauxiliary を用いる新しい有機電解合成
 村井 真二(阪大) 新しい遷移金属触媒反応の開発 -C. H/ オレフィンカップリング反応-

1996

第7回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成

開催日：1996年4月26日(金)

オーガナイザー：小笠原國郎(東北大薬)

- 講師：山口 雅彦(東北大) フェノールの直接オルトビニル化反応
 宮野壮太郎(東北大) 非古典的芳香族求核置換反応
 藤井 郁雄(生物工学研) 触媒抗体(Catalytic Antibodies)と有機合成化学との接点
 塩入 孝之(名市大) 古き反応剤を新たに粧う
 福山 透(東大) 天然物合成と保護基の考案
 桑嶋 功(東工大) 抗癌活性天然有機化合物タキソールの全合成を目指して
 向山 光昭(東理大) 有機合成化学の新しい可能性

1997

第8回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成

開催日：1997年4月25日(金)

オーガナイザー：吉藤 正明(東北大理)

- 講師：中村 栄一(東大) 理論化学と合成化学の接点
 今本 恒雄(千葉大) 希土類錯体の構造と反応性相関
 吉良 満夫(東北大) オルガノポリシランおよびオリゴシランの構造と光電物性
 R.P.Volante(メルク) Tandem Asymmetric Transformations: An Asymmetric 1,2-Migration from a Higher Order Zincate Coupled with a Stereoselective Homoaldol Reaction
 森 美和子(北大) HNiXを用いた新規環化反応の開発 -天然物合成への応用-
 香月 勲(九大) 活性種の立体化学制御と不斉合成反応の開発

1998

第9回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成－キラリティーの形成と認識の分子機構－

開催日：1998年4月25日(土)

オーガナイザー：宮野壮太郎(東北大工)

- 講師：野崎 京子(京大) 主鎖にキラリティーをもつ人工高分子の不斉合成
 碓合 憲三(東理大) キラルなアルコール類の不斉自己触媒反応
 田村 類(京大) ラセミ結晶の新しい光学分割現象(優先富化)◆メカニズムと一般性◆
 T.R.Verhoeven(メルク) The Diversity and Complexity of Palladium Catalysis
 相田 卓三(東大) 記憶機能を有する新しいキラリティーセンサーの開発
 原田 宣之(東北大) 分子キラリティーの化学：特異なキラルオレフィンの構造と反応

1999

10周年記念

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成－有機合成化学の最先端－

開催日：1999年6月17日(木)

オーガナイザー：井原 正隆(東北大薬)

- 講師：内山 真伸(東北大) 配位環境によるアート錯体の機能発現制御
 奈良坂紘一(東大) 複素環化合物の新しい合成法：オキシム sp^2 窒素原子上での置換
 野依 良治(名大) 力量ある有機合成にむけて
 北 泰行(阪大) 抗腫瘍活性天然物の高効率の合成－フレデリカマイシン A の全合成を中心として－
 山本 嘉則(東北大) ルイス酸の π -電子への配置・古典から現代風へ
 向山 光昭(東理大) 無尽蔵－研究者に求められるもの

2000

第11回

有機化学のフロンティア－21世紀に向けて－

開催日：2000年6月10日(土)

オーガナイザー：平間 正博(東北大理)

- 講師：藤田 誠(名大) ひとりでに組み上がる分子を求めて
 魚住 泰広(分子研) 完全水系メディア中での遷移金属触媒反応
 正田晋一郎(東北大) グリコシド合成に向けた糖水解の探索－グリコケミストリーサイクルとは－
 小林 修(東大) 次世代高機能ルイス酸触媒の開発
 中谷 和彦(京大) DNAを標的とするドラッグの分子設計－ポストゲノム時代に活躍する有機化学を目指す
 西村紳一郎(北大) 生命有機化学：有機合成は生命科学研究に必要不可欠な方法論である

2001

第12回

有機化学のフロンティア－21世紀に向けて

開催日：2001年6月30日(土)

オーガナイザー：山口 雅彦(東北大薬)

- 講師：根東 義則(東北大) 炭素-炭素結合生成のための新しい反応環境
 鈴木 敏夫(新潟大) 中員環エーテル骨格構築法の開発及び海洋産天然物合成への応用
 上村 大輔(名大) 未解明生物現象を司る鍵化学物質
 茶谷 直人(阪大) 新しい型式の反応にこだわって：一酸化炭素を用いる触媒的付加環化反応
 飯田 剛彦(万有) 新規ムスカリン受容体(M3) アンタゴニストのプロセス開発－マグネシウムアート錯体を用いるハロゲン金属交換反応と高ジアステレオ選択的 Michael 反応を基盤として
 玉尾 皓平(京大) ケイ素アニオンの新しい化学 sila-Wittig 転位から sila-ylide まで

2002

第13回

有機化学のフロンティア

開催日：2002年6月8日(土)

オーガナイザー：山本 嘉則(東北大理)

- 講師：柴崎 正勝(東大) 触媒的不斉炭素-炭素結合生成反応の力量
 Teck Peng Loh(シンガポール大) Exploring Novel Synthetic Methods Based on Indium Chemistry and their application to the synthesis of complex molecules
 有澤美枝子(東北大) 遷移金属錯体－スルホン酸触媒を用いるヘテロ元素化合物の新しい変換反応
 R.D.Larsen(メルク) Practical and Efficient Syntheses of Heterocyclic Medicinal Agents
 大石 徹(阪大) シガトキシン CTX3C の全合成
 山本 尚(名大) スーパールイス酸・プレンステッド酸触媒

2003

第 14 回

有機化学の挑戦—分子構築から生体機能解明まで—

開催日：2003年6月28日(土)

オーガナイザー：袖岡 幹子(東北大多元研)

- 講師：岩淵 好治(東北大) オルガノカタリシス：2、3の知見からの示唆と展望
谷野 圭持(北大) インゲノールの不斉全合成
鈴木 正昭(岐阜大) 生体内分子科学：新機能 PG プローブとヒト脳 PET
間瀬 俊明(万有) 医薬候補化合物のプロセス化学研究
笹井 宏明(阪大) はえば立て立てば歩めの親心(超酵素を志向する多点制御型不斉触媒の創製)
磯部 稔(名大) 海産天然物全合成の方略

2004

15 周年記念

有機化学の挑戦—有機合成化学の使命と未来—

開催日：2004年6月26日(土)

オーガナイザー：桑原 重文(東北大農)

- 講師：伊藤 幸成(理研) 有機合成化学と糖鎖生物学
鈴木 啓介(東工大) ハイブリッド型生理活性天然有機化合物の合成戦略
林 民生(京大) 遷移金属錯体触媒不斉合成のための新しい不斉環境
森 謙治(理研) フェロモン科学における有機合成
向山 光昭(北里研) 新しい合成反応を求めて

2005

第 16 回

有機化学の挑戦—新しい有機合成手法の開拓—

開催日：2005年5月28日(土)

オーガナイザー：井上 祥雄(東北大工)

- 講師：井上 将行(東北大) 神経細胞に作用する天然有機化合物の全合成
橋本 幸彦(東大) ホスフィンスルフィドの特性を活用する新規合成反応の開発
R J.DeVita(メルク) Heterocyclic Chemistry of GPCR Agonists and Antagonists
袖岡 幹子(東北大) パラジウムエノラートを鍵とする不斉触媒反応
神戸 宣明(阪大) ニッケル触媒を用いる新しいカップリング反応
丸岡 啓二(京大) 環境調和型キラル有機分子触媒のデザインと実践的不斉合成手法の開拓

2006

第 17 回

有機合成化学の力量・小分子から巨大分子まで

開催日：2006年6月24日(土)

オーガナイザー：山口 雅彦(東北大薬)

- 講師：金井 求(東大) 不斉四置換炭素の触媒的構築法の開拓
寺田 真浩(東北大) 水素結合を設計戦略とする基質認識型有機分子触媒反応
田中富士枝(Scripps) エナミン機構に基づく有機触媒反応
高村 義徳(万有) 抗肥満薬(神経ペプチド Y 拮抗剤)のプロセス開発
志津里芳一(海バ研) 海洋微生物が生産する超活性藻類形態形成物質の化学
福山 透(東大) 含窒素天然物の全合成研究

2007

第 18 回

有機合成化学と生物学の橋渡しを目指すケミカルバイオロジー

開催日：2007年6月23日(土)

オーガナイザー：上田 実(東北大理)

- 講師：浜地 格(京大) タンパク質認識と変換のための有機化学
長田 裕之(理研) 細胞周期阻害剤のケミカルバイオロジー
Feroze Ujjainwalla(メルク) The Design, Syntheses and Biological Characterization of Human Melanocortin Subtype-4 Receptor (hMC4R) Agonists
内山 真伸(理研) 機能性アート錯体の設計と未踏分子変換への挑戦
檜山為次郎(京大) π 電子共役系の構築を目指す遷移金属触媒反応
竜田 邦明(早大) 多様な天然生理活性物質の全合成と開発

2008

第19回

有機化学の目指す夢

開催日：2008年6月21日(土)

オーガナイザー：佐々木 誠 (東北大生命科学)

講師：山口 茂弘 (名大) 次世代有機エレクトロニクスを担う π 電子系材料を求めて

安田 修祥 (メルク) Introduction to Process Chemistry

山口 雅彦 (東北大) ヘリセンを連結した有機大分子の化学

只野 金一 (慶応大) 大および中員環形成を基軸とした天然物合成

相本 三郎 (阪大) タンパク質合成化学とバイオサイエンス

上村 大輔 (慶応大) 海の化学生態学

2009

20周年記念

有機化学—その魅力と挑戦—

開催日：2009年6月13日(土)

オーガナイザー：桑原 重文 (東北大農)

講師：大森 建 (東工大) 多環芳香族骨格をモチーフとする天然物の合成研究

上杉 志成 (京大) 細胞を探る化合物ツール

平間 正博 (東北大) 天然物合成研究—万有シンポと共に20年

柴崎 正勝 (東大) 二中心不斉触媒の新しい展開

Barry M. Trost (Stanford Univ.) A Challenge for Total Synthesis: Atom Economy

2010

第21回

未来へ挑戦する多様な有機化学

開催日：2010年6月5日(土)

オーガナイザー：正田晋一郎 (東北大工)

講師：宮浦 憲夫 (北大) 有機ボロン酸の触媒化学

菅 裕明 (東大) Genetic Code Reprogramming: An Emerging Technology for the Discovery of a New Class of Peptide Drugs

宮下 徳治 (東北大) 分子センサー、分子認識能を有する高分子ナノシート集積体

伊東 哲志 (メルク) レニン阻害剤のプロセス開発

林 雄二郎 (東理大) 触媒開発からタミフルの全合成へ

C.H.Wong (Academia Sinica) Post-translational Glycosylation: Challenges and Opportunities

2011

第22回

有機合成化学における新物質・新手法・新思想

開催日：2011年12月19日(月)

オーガナイザー：山口 雅彦 (東北大薬)

講師：磯部 寛之 (東北大) π 電子豊富分子の科学

石原 一彰 (名大) 超原子価ヨウ素触媒

藤田 誠 (東大) 自己組織化に魅せられて

David Y.-K.Chen (Seoul大) Total Synthesis of Bioactive Natural Products - A Personal Perspective

吉川 直樹 (メルク) CGRP 受容体選択的アンタゴニスト telcagepant の触媒的不斉合成生合成マシナリーを用いた天然物合成

及川 英秋 (北大) 生合成マシナリーを用いた天然物合成

2012

第23回

未来をつくる有機合成化学

開催日：2012年6月2日(土)

オーガナイザー：寺田 眞浩 (東北大理)

講師：新谷 亮 (京大) パラジウム触媒による環状有機化合物の高選択的合成分法

伊丹健一郎 (名大) 分子をつなげて価値を生む合成化学

徳山 英利 (東北大) 含窒素多環性アルカロイドの全合成

林 高史 (阪大) 有機合成を基盤とするヘムタンパク質の高機能改変

八島 栄次 (名大) 二重ラセン構造を基本骨格とする機能性分子群の創製と応用

丸岡 啓二 (京大) キラル有機分子触媒の複合化

2013

第24回

生命現象の理解と制御を目指す有機合成化学

開催日：2013年6月29日(土)

オーガナイザー：永次 史(東北大多元研)

- 講師：大石 徹 (九大) 機能解明を志向した生物活性分子の設計・合成・評価
上田 実 (東北大) "Glycosylation Switching": 生物に学ぶ新しい化学的活性制御
岡本 晃充 (東大) エピゲノム有機化学
Lushi Tan (メルク) The Power of Transition Metal Catalyzed Reactions In Drug Synthesis
杉野目道紀 (京大) キラリティーの自在制御を特徴とする新しいキラル触媒：らせん高分子の新しい機能
相田 卓三 (東大) 分子科学と物質科学の架け橋：新機能材料の創成をめざして

2014

第25回記念

有機合成化学を基盤として広がるコンセプト

開催日：2014年6月14日(土)

オーガナイザー：上田 実(東北大理)

- 講師：平間 正博 (東北大) 万有シンポと共に25年—さらなる発展を！
鈴木 國夫 (名産研) 万有シンポジウムと私
西川 俊夫 (名大) 含グアニジン天然物の全合成研究—新規イオンチャネル阻害剤の開発を目指して—
袖岡 幹子 (理研) 生細胞分子化学
藤田 誠 (東大) 結晶スポンジ法による非結晶性・微量化合物のX線結晶構造解析
吉田 潤一 (京大) 空間的反応集積化の合成化学
鈴木 啓介 (東工大) 有機合成：一度やったらやめられない

2015

第26回

有機合成化学の多様性と未来への展開

開催日：2015年6月6日(土)

オーガナイザー：桑原 重文(東北大農)

- 講師：鷹谷 絢 (東工大) ケイ素配位子の動的挙動を鍵とする新触媒・新分子変換反応の開発
忍久保 洋 (名大) ポルフィリンの新合成化学と機能探求
野崎 京子 (東大) 再生可能資源の有効利用に資する均一系触媒化学
渡邊 秀典 (東大) 多様な構造の天然物への多様な合成アプローチ
佐々木茂貴 (九大) 核酸の小さな構造変化に着目したゲノム標的化学の展開
高橋 孝志 (横浜薬大) 研究における不易流行

2016

第27回

有機合成をぶっとばせ！

開催日：2016年6月25日(土)

オーガナイザー：正田晋一郎(東北大工)

- 講師：山子 茂 (京大) 有機合成の視点で挑む高分子合成
梶原 康宏 (阪大) 糖タンパク質の精密化学合成を利用する糖鎖機能の解明
山口 雅彦 (東北大) ヘリセンオリゴマーの可逆的な非平衡系—平衡系化学反応
竜田 邦明 (早大) すべては全合成から始まる
根岸 英一 (パデュー大) 21世紀の繁栄を支える遷移金属触媒
Transition Metal Catalysts Support 21st Century Prosperity

2017

第28回

有機合成化学、次のステップへ

開催日：2017年6月24日(土)

オーガナイザー：山口 雅彦(東北大薬)

- 講師：土井 隆行 (東北大) 中分子環状ペプチドの有機合成から多様な生物活性への展開
西林 仁昭 (東大) ハーバー・ボッシュ法を超えるアンモニア合成法への挑戦
伊東 哲志 (メルク) Process Chemistry of HCV NS5A Inhibitor
深瀬 浩一 (阪大) 反応集積化を利用した糖鎖合成と免疫調節への応用
高田十志和 (東工大) トポロジカル結合分子を合成する—分子スイッチ、分子モーター、生理活性、そして分子トポロジー変換—

2018

第29回

未来を指向した有機合成化学

開催日：2018年6月9日(土)

オーガナイザー：永次 史(東北大多元研)

講師：熊谷 直哉(微化研) アミドをPlayGroundとした反応設計

平井 剛(九大) 有機化学で複合糖質研究に挑む

大栗 博毅(東農大) 生理活性天然物の迅速合成・骨格改変の新戦略

金井 求(東大) 生体分子の構造変換ダイナミズムへの人的介入を目指した触媒研究

浅沼 浩之(名大) 医療応用を目指した核酸の機能的再インストール

2019

第30回記念

万有仙台シンポジウムが育んだ有機化学

開催日：2019年6月29日(土)

オーガナイザー：寺田 眞浩(東北大理)

講師：内山 真伸(東大) 実験と理論で有機化学を楽しむ：出会い、偶然、執念、挑戦

大石 徹(京大) 超炭素鎖天然有機化合物の構造決定、化学合成、および生物活性評価

中村 浩之(東工大) 反応有機化学から生命分子夾雑科学へ

門出 健次(北大) 赤外円二色性スペクトルによる生命分子のキラリティ解明

福島 孝典(東工大) 構造有機化学から物質造形科学へ

袖岡 幹子(理研) 仙台の地で始めた研究の今昔

2020

第31回

科学に貢献する有機合成化学：有機合成化学の現代的価値を考える

開催日：2020年10月17日(土)

オーガナイザー：上田 実(東北大理)

講師：大井 貴史(名大) 分子を創り、振舞いを理解する

深澤 愛子(京大) 新奇 π 電子系の設計・合成化学と機能探求：多彩な元素と共役電子系に魅せられて

滝川 浩郷(東大) 一有機合成化学者のストリゴラクトン研究—天然物合成から雑草防除への応用まで—

島本 啓子(サントリー財) タンパク質膜輸送の伴を握る糖脂質：有機化学からのアプローチ

山口 雅彦(大連) 可逆的な自己触媒反応について

2021

第32回

有機化学の進む道—広範な有機化学研究領域の今と将来展望

開催日：2021年5月15日(土)

オーガナイザー：桑原 重文(東北大農)

講師：大松 亨介(名大) イオン性分子触媒の創製：高難度分子変換の実現を目指して

山下 誠(名大) 低酸化数13族元素分子が持つ特異な結合・構造・反応性

難波 康祐(徳大) 天然物合成の進む道～全合成と実践的合成～

侯 召民(理研) 希土類触媒で切り拓く新しい有機合成化学

及川 英秋(北大) 酵素を使った天然物合成の新展開

2022

第33回

有機合成化学の役割

開催日：2022年5月21日(土)

オーガナイザー：服部 徹太郎(東北大工)

講師：岩本 武明(東北大) 低配位有機ケイ素化学種の構造有機化学

山田 容子(奈良先) 基板上合成による高次アセンの合成とグラフェンナノリボンへの展開

安田 誠(阪大) 典型金属を基軸とした反応剤・触媒の創成と選択的有機合成

石川 勇人(千葉大) 伝統と革新が融合するインドールの化学

2023

第 34 回

世界を変える有機合成化学

開催日：2023年4月22日（土）

オーガナイザー：岩淵 好治（東北大薬）

講師：吉戒 直彦（東北大） 超原子価ヨウ素化合物の新しい反応と合成

畠山 琢次（京大） タンデムボラ Friedel-Crafts 反応を伴とした次世代有機 EL 材料の開発

大嶋 孝志（九大薬） 官能基標的触媒による化学選択性の制御

内藤 幹彦（東大） タンパク質分解を誘導する化合物

田中 克典（東工大） 生体内合成化学治療

2024

第 35 回

生物応答と分子機能に挑戦する有機合成：四半世紀を経て

開催日：2024年5月18日（土）

オーガナイザー：寺田 眞浩（東北大理）

講師：星本 陽一（阪大） 分子触媒の新手：フラストレーションを制御する機能の探求

正岡 重行（阪大） 金属錯体で創る光合成反応触媒

甲村 長利（産総研） 新規有機材料開発から製造プロセス革新まで～四半世紀にわたる私の研究変遷～

生越 友樹（京大） 日本発の環状ホスト分子 [Pillar[n]arene]：発見から分子空間化学への展開

藤本ゆかり（慶大） 自然免疫受容体発見から四半世紀：微生物由来活性分子の有機化学

松永 茂樹（京大） キラル分子触媒の設計と機能探索：25年の変遷

2025

第 36 回

有機合成化学の多様な可能性

開催日：2025年5月10日（土）

オーガナイザー：永次 史（東北大多元研）

講師：野木 馨介（中外製薬） 中分子の製薬研究を通して化学を追究する

大宮 寛久（京大） ラジカルが拓く新触媒・新反応・新機能

神谷 真子（科学大） 生命科学を切り拓くバイオイメージングプローブの創製

伊藤 肇（北大） メカノケミカル反応：有機合成のイノベーション

長澤 和夫（農工大） グアニジンアルカロイドを起点とする合成化学

和田 猛（東理大） 革新的次世代核酸医薬の創製

万有福岡シンポジウム

組織委員

有澤 美枝子	九州大学大学院農学研究院
王子田 彰夫	九州大学大学院薬学研究院
大石 徹	九州大学大学院理学研究院
大嶋 孝志	九州大学大学院薬学研究院
新藤 充	九州大学先端物質化学研究所
徳永 信	九州大学大学院理学研究院
友岡 克彦	九州大学先端物質化学研究所
平井 剛	九州大学大学院薬学研究院



敬称略
50音順

歴代組織委員

稲永 純二	香月 勲	金政 修司	桑野 良一	佐々木 成貴
末宗 洋	永島 英夫	久枝 良雄	古田 弘幸	界外 哲二
鈴木 國夫	田中 誠一	間瀬 俊明		

任期終了につき所属等の記載は省略

※敬称略/所属機関は開催時

1991

第1回

先端的合成化学－超精密合成への挑戦

開催日：1991年6月1日（土）

オーガナイザー：香月 勲（九大理）

講師：兼松 顯（九大）	アレン素子の活用による立体選択的炭素分子骨格の構築とその展開
金政 修司（九大）	1,3-双極性環状付加反応の立体制御
中村 栄一（東工大）	熱的 [3+2] 付加環化反応 “6πゲーム”
新開 一朗（メルク社）	不斉合成の設計と展開
玉尾 皓平（京大）	多官能性有機ケイ素化合物を用いる有機合成
丹羽 治樹（名大）	植物神経毒アニサチンの全合成
山村 庄亮（慶應大）	天然物合成：発想と展開

1992

第2回

最先端の化学－発見と展開

開催日：1992年5月9日（土）

オーガナイザー：酒井 浄（九大薬）

講師：古賀 憲司（東大）	キラリリチウムアミドを用いる不斉反応
平間 正博（東北大）	ネオカルジノスタチン複合体の分子認識と新しいDNA切断分子
西沢 麦夫（徳島文理）	α-シクロアワオドリンの創製
鈴木 啓介（慶應大）	アリールC-グリコシド系抗生物質の合成研究
長岡 博人（東京薬大）	環開裂反応を用いる天然物合成
竹下 齋（九大）	光環状付加反応による5員環誘導体のワンポット合成－有機光化学へのひとつのこだわり

1993

第3回

精密分子設計の方法論と標的化合物へのアプローチ

開催日：1993年5月14日（金）

オーガナイザー：竹下 齋（九大機能研）

講師：香月 勲（九大）	不斉反応場の設計と触媒的不斉合成法の開発
植村 元一（阪市大）	アレーンクロム錯体の特性を利用した有機合成
酒井 浄（九大）	不斉環化反応とその応用
新田 信（早大）	ビニルイミノホスホランを用いる含窒素複素環化合物の新規合成法
山本 嘉則（東北大）	有機金属を用いるヘミプレベトキシシン B の合成研究
入江 寛（長崎大）	トリメチルアルミニウムによるエポキシドの立体選択的開裂反応を利用したアンサマイシン系化合物の合成研究

1994

第4回

最先端の化学 II – 働く分子の創造と応用

開催日：1994年5月27日(金)

オーガナイザー：香月 島 (九大理)

- 講師：大川 尚士 (九大) 金属集積分子の設計と機能化
 青山 安宏 (長岡技科大) 糖の選択的捕捉をめざして
 林 民生 (北大) 不斉単座ホスフィン配位子 MOP
 柴崎 正勝 (東大) 触媒的不斉炭素-炭素結合生成反応の開発と生物活性物質合成への応用
 森島 甫 (萬有) 経口レニン阻害剤の開発
 村井 章夫 (北大) ラクトンエノールトリフレートを經由する天然物合成

1995

第5回

右と左の分子の世界 不斉空間の構築と超精密合成への挑戦

開催日：1995年5月12日(金)

オーガナイザー：兼松 顕 (九大薬)

- 講師：國枝 武久 (熊大) 高性能不斉補助剤の開発
 野依 良治 (名大) 化学的不斉増殖 (Chemical Multiplication of Chirality) – Stereoselective Organic Synthesis via Dynamic Kinetic Resolution
 砂本 順三 (京大) 細胞膜上で発現される精密分子認識のモデル化
 西郷 和彦 (東大) 人工不斉助剤 – デザイン、合成、光学分割、そして応用 –
 富岡 清 (阪大) 不斉空間の設計と有機金属反応剤の不斉化
 黒田 玲子 (東大) 分子レベルでみた右の世界・左の世界

1996

第6回

最先端の化学 – 発見と展開 III

開催日：1996年5月24日(金)

オーガナイザー：金政 修司 (九大機能研)

- 講師：稲永 純二 (九大) 希土類錯体反応剤および触媒の開発と利用
 田丸 良直 (長崎大) 遷移金属を触媒として用いる効率的な炭素-窒素結合形成反応の開発
 三上 幸一 (東工大) 不斉触媒の自己組織化：どこまで“賢く”なれるのか？
 奈良坂紘一 (東大) 新しい反応剤の探索：レニウム化合物
 大嶋幸一郎 (京大) マンガン触媒を用いる新しい有機合成 その発見と展開
 向山 光昭 (東理大) 有機合成化学の新しい可能性

1997

第7回

生体コミュニケーションへの化学的アプローチ

開催日：1997年5月23日(金)

オーガナイザー：青山 安宏 (九大有化セ)

- 講師：西野 憲和 (九大) *De novo* 設計による人工酵素システムの創製
 志津里芳一 (海バ研) 海洋生物付着とマリンバイオテクノロジー
 竜田 邦明 (早大) 有用な生理活性物質の全合成と分子設計
 中原 義昭 (東海大) 糖蛋白質の化学合成をめざして
 西村紳一郎 (北大) 複合糖質の機能とクラスター効果：生物有機化学的アプローチを中心に
 神奈木玲児 (愛知がんセ) 細胞接着活性糖鎖の構造、機能および発現制御機構

1998

第8回

最先端の化学 – 発見と展開 IV

開催日：1998年5月22日(金)

オーガナイザー：稲津 孝彦 (九大理)

- 講師：森 美和子 (北大) 分子状窒素を利用したヘテロ環の合成
 山口 雅彦 (東北大) 不飽和化合物を直接カップリングさせる新しい有機反応
 柳澤 章 (名大) キラルジホスフィン・銀錯体を用いる触媒的不斉反応の開発
 R.P.Volante (メルク社) PARACYCLOPHANE New Planar-Chiral Bisphosphine Ligands for Asymmetric Catalysis
 末宗 洋 (九大) ルイス酸とジオールとの組み合わせによる不斉反応の開発 簡便な不斉反応をめざして
 橘 和夫 (東大) 海産毒の化学構造から細胞機能解明への展開 – 細胞膜での挙動解明を中心に

1999

第9回

最先端の化学—発見と展開 V

開催日：1999年5月29日(土)

オーガナイザー：末宗 洋 (九大薬)

- 講師：古賀 登 (九大) 光応答型分子性強磁性体を目指して
 橋本 俊一 (北大) ロジウム(II)錯体を用いる不斉触媒反応
 丸岡 啓二 (北大) 二点配位型光学活性チタン触媒を用いる実用的不斉合成
 北 泰行 (阪大) 抗腫瘍活性抗生物質フレデリカマイシン A の全合成
 T.R.Verhoeven (メルク社) Recent Advances in the Syntheses of Chemotherapeutic Agents for the Treatment of AIDS
 磯部 稔 (名大) 生物有機化学的手法によるタンパク質の構造と機能解析

2000

10周年記念

最先端の化学—21世紀の有機合成を目指して—

開催日：2000年5月17日(水)

オーガナイザー：香月 島 (九大理)

- 講師：野依 良治 (名大) 力量ある有機合成にむけて
 入江 亮 (九大) 光学活性な金属サレン錯体を用いる触媒的不斉合成反応の開発
 新海 征治 (九大) 超分子系における糖質センシングとそのアロステリック情報発信
 柴崎 正勝 (東大) 多点制御型不斉触媒：設計と展開
 大久保 満 (萬有) インドロカルバゾール系抗癌剤の開発
 向山 光昭 (東理大) 若き有機合成化学者に

2001

第11回

21世紀の有機合成化学

開催日：2001年5月18日(金)

オーガナイザー：永島 英夫 (九大機能研)

- 講師：上村 大輔 (名大) 未解明生物現象の化学
 加藤 修雄 (九大) 化学合成と生合成の連携による生理活性テルペノイド誘導体の創製
 石塚 忠男 (熊本大) やさしい不斉合成—右と左の区別のしかた—
 Kimoon Kim (POSTEC) A Homochiral Metal-Organic Porous Material for Enantioselective Separation and Catalysis
 E.J.Grabowski (Merck) Practical Enantioselective Syntheses: Addition of Lithium Acetylides to Prochiral Imines and Ketones Mediated by Chiral Lithium Aminoalkoxides
 高橋 孝志 (東工大) コンビナトリアル合成における天然物ライブラリーの構築
 村橋 俊一 (阪大) 分子触媒プロセスの開拓

2002

第12回

合成有機化学の新潮流—何を創るか どう創るか—

開催日：2002年5月17日(金)

オーガナイザー：稲永 純二 (九大有機セ)

- 講師：佐藤 美洋 (北大) Rh 触媒による新しい環化反応の開発
 北爪 智哉 (東工大) 反応場としてのイオン性液体の可能性
 吉田 潤一 (京大) カチオンプール法とカチオンフロー法有機カチオンを用いる合成化学の新展開
 間瀬 俊明 (万有) プロセス化学の醍醐味
 大船 泰史 (阪市大) 不斉ストレッカープロセスの開発と生理活性アミノ酸類の全合成
 宮浦 憲夫 (北大) 有機ホウ素化合物を用いる分子触媒反応
 香月 島 (九大) 酸化から酸素酸化へ

2003

第13回

夢多き有機合成化学

開催日：2003年5月16日(金)

オーガナイザー：末宗 洋 (九大薬)

- 講師：木村 正成 (長崎大) 遷移金属触媒と有機亜鉛、有機ホウ素を用いた高選択的有機合成反応の開発
 林 民生 (京大) ロジウム触媒不斉炭素-炭素結合形成反応
 新藤 充 (徳島大) カルバニオンのルネッサンス—イノラートによる新オレフィン化反応
 大嶽 憲一 (万有) ムスカリン M3 受容体拮抗剤の創製を目指して
 奈良坂 紘一 (東大) オキシム類を用いるアミノ化反応
 畑山 範 (長崎大) 不斉 Baylis-Hillman 反応の開発と展開
 中田 忠 (理研) 海洋産多環状エーテル系天然物の全合成

2004

第14回

有機合成で迫る生物機能

開催日：2004年5月14日（金）

オーガナイザー：金政 修司（九大先導研）

- 講師：大石 徹（阪大） 機能解明を指向した標識化天然物（分子プローブ）の合成研究
 加藤 伸二（万有） 医薬候補品の効率的製造プロセスの開発
 佐々木茂貴（九大） ゲノム標的化学の新しい展開
 渡辺 芳人（名大） ヘム酵素を中心とする有機金属酵素の創製戦略
 小林 四郎（京大） 酵素触媒重合 新しい高分子合成手法
 福山 透（東大） ニトロベンゼンスルホンアミドを用いた天然物合成

2005

15周年記念

有機合成が拓く明日の科学

開催日：2005年5月14日（土）

オーガナイザー：香月 島（九大理）

- 講師：井上 将行（東北大） 神経細胞に作用する天然有機化合物の全合成
 小林 修（東大） 真に有効かつパワフルな有機合成を目指して
 丸岡 啓二（京大） 次世代型キラル有機分子触媒のデザインと実践的不斉合成
 藤田 誠（東大） 自己組織化分子システム：ナノ構造をつくる、ナノ空間をつくる
 Yongkui Sun (Merck) Unlock the Potential of Asymmetric Hydrogenation at Merck
 入江 正浩（九大） ジアリアルエテンのフォトクロミズム 単結晶から単一分子へ

2006

第16回

戦略的「もの創り」の有機合成

開催日：2006年5月27日（土）

オーガナイザー：永島 英夫（九大先導研）・古田 弘幸（九大工）

- 講師：中村 栄一（東大） Organic Synthesis: The Key Science for the Future 明日を開く有機合成
 山口 雅彦（東北大） 有機ヘテロ元素化合物の遷移金属触媒合成
 山口 茂弘（名大） ホウ素を鍵にした機能物質の合成化学
 袖岡 幹子（理研） パラジウムエノラートを鍵とする不斉触媒反応
 David M.Tschaen (Merck) The Stereoselective Synthesis of New Drug Candidates
 山本 尚（シカゴ大） Metal and Non-metal Catalysis for Asymmetric Synthesis - Ligand Design for New Reactivity and Higher Selectivity

2007

第17回

ケミカルバイオロジーを支える有機合成化学

開催日：2007年5月12日（土）

オーガナイザー：佐々木 茂貴（九大薬）・古田 弘幸（九大工）

- 講師：上田 実（東北大） 植物の「運動」と「記憶」を制御する生理活性天然物のケミカルバイオロジー
 谷野 圭持（北大） オーダーメイドな炭素環構築法を用いる天然物の全合成
 中村 浩之（学習院大） ホウ素を基軸とした創薬アプローチ
 金井 求（東大） 不斉四置換炭素の触媒的構築 ～ソフトメタルーハードアニオン共役不斉触媒の基礎概念～
 Cheng-yi Chen (Merck) Practical Asymmetric Syntheses of Complex Drug Targets
 磯部 稔（名大） 有機合成化学を支えるケムバイオケムー全合成から活性発現分子機構解明に向けてー

2008

第18回

環境に優しい有機合成研究のフロンティア

開催日：2008年5月10日（土）

オーガナイザー：稲永 純二（九大先導研）・久枝 良雄（九大工）

- 講師：鈴木 啓介（東工大） ハイブリッド天然物に学ぶ
 伊丹健一郎（名大） 不飽和有機化合物の触媒的直接変換法の開拓と応用
 石原 一彰（名大） 酸・塩基複合化学を基盤とする触媒設計戦略：「硬い分子性触媒」から「変幻自在な柔らかい動的錯体触媒」へ
 侯 召民（理研） 高性能希土類触媒の開発と精密重合・機能分子合成への展開
 伊藤 孝浩（Merck） パラジウム触媒を用いる炭素ーイオウ結合形成とその応用
 福住 俊一（阪大） 生体に学ぶ電子移動触媒反応系の構築とエネルギー変換と有機合成への応用

2009

第19回

最先端の化学 発見と展開 VI

開催日：2009年5月23日(土)

オーガナイザー：末宗 洋 (九大薬)・古賀 登 (九大薬)

- 講師：永島 英夫 (九大) 遷移金属とケイ素の相乗効果が開く新しい触媒的有機合成の化学
内山 真伸 (理研) アート錯体で切り拓く新構造・新反応・新機能・新材料～実験と理論からのアプローチ～
林 雄二郎 (東理大) 有機触媒からタミフルの3ポット合成へ
佐々木 誠 (東北大) 鈴木-宮浦反応を活用した海洋天然物の全合成
伊藤 幸成 (理研) 糖鎖生物学との融合をめざす合成研究

2010

20周年記念

最新の有機合成化学が発信する新しい「もの創り」のパラダイム

開催日：2010年5月22日(土)

オーガナイザー：永島 英夫 (九大先導研)・香月 昶 (九大理)

- 講師：平間 正博 (東北大) シガテラ中毒への化学の挑戦
香月 昶 (九大) 酸素酸化にプロトン、電子移動システムは不可欠か？
K.B.Sharpley (Scripps) In situ Click Chemistry and Artificial Antibodies
西川 俊夫 (名大) テトロドトキシンの合成-古くて新しい天然物の合成-
岩淵 好治 (東北大) オキソアンモニウムイオンの触媒機能開発と応用
吉戒 直彦 (NTU) 鉄触媒による炭素-水素結合活性化を経るクロスカップリング反応
中尾 佳亮 (京大) 協働金属触媒による炭素-炭素結合形成付加反応
青山 安宏 (同志社大) 生体イメージングの新技术開発-混雑系の有機化学に向けて-

2011

第21回

進化する機能性分子

開催日：2011年5月21日(土)

オーガナイザー：古田 弘幸 (九大工)・大嶋 孝志 (九大薬)

講師：ノーベル賞受賞記念 GCOE 特別セッション

- 鈴木 章 (北大) ビデオメッセージ
辻 二郎 (東工大)、永島 英夫 (九大)
パラジウム触媒とクロスカップリング反応の魅力
鈴木 繁昭 (クラレ)、辻 哲郎 (宇部興産)、後藤 泰行 (JNC)、曾我 真一 (東ソー)
松永 茂樹 (東大) 複核金属触媒の協奏的機能を活用した精密有機合成
Dionicio R. Siegel (テキサス大) Synthesis and Study of Regenerative Natural Products
山子 茂 (京大) 有機合成に先導される新材料の創製
大須賀篤弘 (京大) メビウス芳香族性を示す環拡張ポルフィリンの化学
山本 嘉則 (東北大) 分子触媒からナノ構造マテリアル触媒へ

2012

第22回

新しい発想による有機合成、有機合成からの新しい発想

開催日：2012年5月19日(土)

オーガナイザー：桑野 良一 (九大理)・友岡 克彦 (九大先導研)

- 講師：中谷 和彦 (阪大) 小分子による核酸構造の制御
松尾 豊 (東大) 有機薄膜太陽電池に用いる有機半導体の設計と合成
伊藤 肇 (北大) 直接エナンチオ収束反応による光学活性アリルホウ素化合物の合成
吉田 潤一 (京大) 空間で時間を制御する合成化学
檜山爲次郎 (中央大) ポストクロスカップリング時代の炭素-炭素結合形成反応 -安定結合をいかに活性化するか？-

2013

第23回

有機合成で創り出す、明るい未来、夢

開催日：2013年6月1日(土)

オーガナイザー：佐々木茂貴(九大薬)・大嶋孝志(九大薬)

- 講師：福山透(名大) 閉環メタセシス反応を利用した天然物合成研究
寺田真浩(東北大) キラルプレンステッド酸触媒による不斉合成
和田猛(東理大) 有機合成で創り出す核酸医薬への新しいアプローチ
畑山範(長崎大) アルカロイド合成の新戦略：その発想と展開
西出宏之(早大) 有機物で創るやわらか電池

2014

第24回

グリーンサステナブルケミストリーを指向した有機合成—有機合成が世界を救う

開催日：2014年6月7日(土)

オーガナイザー：久枝良雄(九大工)・古田弘幸(九大工)

- 講師：真島和志(阪大) 多核金属錯体の示す特異な触媒機能
浦口大輔(名大) キラル有機イオン対触媒の創製と機能創出
小林修(東大) 水が拓く有機合成化学のニューワールド
大野弘幸(東農工大) イオン液体の異常な溶液特性と最近の話題
春田正毅(首都大) 金ナノ粒子触媒によるシンプルケミストリー

2015

第25回記念

有機合成化学の発見と展開

開催日：2015年5月16日(土)

オーガナイザー：友岡克彦(九大先導研)・新藤充(九大先導研)

- 講師：金政修司(九大) 万有福岡シンポジウム 25年の節目に捧げる感謝の詩
山本尚(中部大) 触媒的不斉酸化反応
杉野目道紀(京大) 次世代触媒的不斉合成を目指したキラルらせん高分子触媒の開発
安田修祥(Merck) Scientific Heritage of Merck Research Laboratories
藤田誠(東大) 結晶スポンジ法の新展開
柴崎正勝(微化研) 協奏機能不斉触媒・最近の進歩

2016

第26回

生命機能に挑戦する有機合成化学

開催日：2016年4月23日(土)

オーガナイザー：大石徹(九大理)・徳永信(九大理)

- 講師：Hee-Yoon Lee (KAIST) Development of radical based synthetic strategies for the total synthesis of natural products and Posttranslational modification of proteins.
袖岡幹子(理研) 生命機能解明をめざしたプローブ分子の創製
田中健(東工大) 芳香環構築による高歪み芳香族化合物の合成
石川勇人(熊本大) 有機合成におけるバイオインスパイアード反応と有機触媒反応
菅裕明(東大) 特殊ペプチド創薬イノベーション

2017

第27回

革新的新薬・新物質の創製～今こそ有機化学の力を結集せよ～

開催日：2017年6月3日(土)

オーガナイザー：大嶋孝志(九大薬)・王子田彰夫(九大薬)

- 講師：金井求(東大) 低分子から生体高分子までを標的とする触媒反応開発
生越友樹(金沢大) 柱型環状分子 Pillar[n]arene の創成と超分子材料への展開
大江浩一(京大) ニトレン前駆体を利用した新複素環合成法の開発
上杉志成(京大) 細胞を操る合成化合物
深瀬浩一(阪大) 有機合成を基盤とした糖鎖の機能解析と免疫調節への応用

2018

第28回

躍動する機能性有機分子～この有機分子の力を見よ～

開催日：2018年5月12日(土)

オーガナイザー：古田 弘幸(九大工)・安田 琢磨(九大フロンティア)

- 講師：石橋 正己(千葉大) 生物活性天然機能性有機分子の探索
浜地 格(京大) 分子夾雑系のタンパク質有機化学
前田 大光(立命館大) イオンペアリング π 電子系集合体の化学
福島 孝典(東工大) シンプルなものにこそ力がある – ありふれた分子へのひと工夫が可能にする化学技術 –
安達千波矢(九大) 励起子機構の精密制御による高性能有機発光デバイスの最先端
丸岡 啓二(京大) 力量ある機能性有機分子触媒の創製と活用

2019

第29回

有機分子・有機合成反応を育む

開催日：2019年5月25日(土)

オーガナイザー：新藤 充(九大先導研)・國信洋一郎(九大先導研)

- 講師：茶谷 直人(阪大) 炭素-水素結合変換反応における配向基と反応機構
依光 英樹(京大) 高エネルギースルホニウムカチオンが拓く有機合成
伊丹健一郎(名大) 新しい炭素のカタチを創る
難波 康祐(徳島大) 全合成が拓く天然有機分子の育成
長野 哲雄(東大) バイオイメージングプローブの開発研究 – 研究の“きっかけ”から現在の成果まで –

2020

30周年記念

持続可能な社会を支える有機合成化学

開催日：2020年10月24日(土)

オーガナイザー：徳永 信(九大理)・内田 竜也(九大基幹)

- 講師：平野 康次(阪大) 極性転換の拡張に基づく新規結合形成手法の開拓
松下 敏之(宇部興産) 宇部興産における研究開発事例の紹介
野崎 京子(東大) 次世代原料の利用を目指す後周期遷移金属触媒の開発
松本 和弘(産業技術総合研究所) シリコーンの精密合成に向けて
市川 聡(北大) 創薬リード開発を目指した生物活性天然物の変換研究
福岡 淳(北大) 固体触媒による鮮度保持・生物活性物質合成技術

2021

第31回

有機合成化学の変革～未踏の森に飛び込もう～

開催日：2021年6月4日(金) / 5日(土)

オーガナイザー：大嶋 孝志(九大薬)

- 講師：野依 良治(科技研) 化学を学ぶ若者よ、境界を超えよう
井上 将行(東大) ラジカル反応による複雑分子構築の単純化
梶原 康宏(阪大) N型糖鎖の機能解明にむけた糖タンパク質精密合成
山口潤一郎(早大) 高難度有機反応の開発と医薬業関連企業との共同研究
岩淵 好治(東北大) ニトロキシルラジカル-遷移金属協奏触媒による分子状酸素の活性化と精密分子変換

2022

第32回

有機合成化学の多様性：独創的研究が拓く科学と技術

開催日：2022年6月4日(土)

オーガナイザー：友岡 克彦(九大先導研)

- 講師：長澤 和夫(農工大) グアニジナルカロイド類の合成と機能創出
坂本 昌巳(千葉大) 有機結晶を利用したキララル物質創成
笹森 貴裕(筑大) 高周期14族元素低配位化合物による小分子活性化反応
村田 道雄(阪大) 生体膜と分子集合体の化学
秋山 隆彦(学習院) キラルリン酸を用いた触媒反応の新展開

2023

第33回

エクセレント有機分子の設計、合成、応用

開催日：2023年6月3日（土）

オーガナイザー：桑野 良一（九大理）

- 講師：久保 孝史（阪大） 結合と非結合の狭間に備わる特異な性質の解明
- 山次 健三（千葉大） エピゲノムへの合成的介入を可能にする化学触媒の開発
- 山東 信介（東大） 有機化学を用いた生体機能性ペプチドのデザインと合成
- 佐藤 美洋（北大） 二酸化炭素を C1 ユニットとして用いたカルボキシル化反応
- 大井 貴史（名大） 光駆動ラジカル反応の触媒的制御

2024

第34回

Beyond 有機合成

開催日：2024年5月25日（土）

オーガナイザー：王子田 彰夫（九大薬）

- 講師：大野 浩章（京大） 反応開発を基盤とする天然物合成と創薬展開
- 田中 克典（東工大） 生体内合成化学治療
- 杉安 和憲（京大） 超分子ポリマーの精密合成
- 浦野 泰照（東大） ケミカルメディスン ～化学に基づく新たな医療技術創製～
- 永次 史（東北大） 細胞内有機化学を目指した人工分子の設計・合成及び機能評価

2025

第35回

未来に羽ばたく有機合成のパワー！

開催日：2025年6月7日（土）

オーガナイザー：大石 徹（九大理）

- 講師：大栗 博毅（東大） 天然物の骨格多様化合成による新機能創出を目指して
- 伊藤 傑（横国大） メカノクロミック発光性有機分子の設計と合成
- 有澤 美枝子（九大） 生体親和性有機ヘテロ元素化合物の分子設計・合成・生物活性
- 大森 建（科学大） 天然物合成における試行錯誤 ～複雑な構造を読み解く～
- 菅 誠治（岡大） 有機電解合成の新展開：効率化と深化を指向して

名古屋メダルセミナー (1995年～2026年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>名古屋メダル組織委員会の選考により選ばれたゴールドメダル、シルバーメダル受賞者による受賞講演が行われる。</p> <p>ゴールドメダルは国際的に偉大な業績をあげられている有機化学者を、シルバーメダルは本分野において大きなインパクトを与えた日本人研究者を表彰。</p>			
組織委員	Chair	大井 貴史	名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所	
	President	山本 尚	中部大学分子性触媒研究センター	
	Honorary President	野依 良治	名古屋大学特別教授	
	Advisor	磯部 稔	名古屋大学名誉教授	
	Advisor	北村 雅人	名古屋大学名誉教授	
	Advisor	鈴木 國夫	元公益財団法人 MSD 生命科学財団	
		石原 一彰	名古屋大学大学院工学研究科	
		魚住 泰広	自然科学研究機構分子科学研究所	
		上垣外 正己	名古屋大学大学院工学研究科	
		坂井 健男	名城大学薬学部	
		忍久保 洋	名古屋大学大学院工学研究科	
		柴田 哲男	名古屋工業大学大学院工学研究科	
		中川 秀彦	名古屋市立大学大学院薬学研究科	
		西川 俊夫	名古屋大学大学院生命農学研究科	
		山口 茂弘	名古屋大学大学院理学研究科	
歴代組織委員	伊丹 健一郎	伊藤 健兒	上村 大輔	江口 昇次
	岡本 佳男	小田嶋 和徳	塩入 孝之	融 健
	西山 久雄	樋口 恒彦	福山 透	藤田 誠
	宮田 直樹	森 裕二	八島 栄次	山下 誠
	山田 静之	田中 誠一	深見 竹広	

任期終了につき所属等の記載は省略

Gold Medal

※敬称略/所属機関は受賞時

受賞年	氏名	所属機関	研究テーマ
1995	Yoshito Kishi	Harvard University, USA	Natural Product Synthesis
1996	W. Clark Still	Columbia University, USA	Synthetic Receptors for Peptides
1997	Robert H. Grubbs	California Institute of Technology, USA	Synthesis of Materials and Molecules Using Ruthenium Metathesis Catalysts
1998	Henri B. Kagan	University of Paris-Sud, France	Asymmetric Synthesis -Past, Present and Future

1999	Samuel J. Danishefsky	Columbia University, USA	(i) On the Power of Chemical Synthesis (ii) The Prospects for a Fully Synthetic Anti-Cancer Vaccine
2000	Manfred T. Reetz	Max-Planck-Institute, Germany	(i) New Concepts in the Area of Asymmetric Catalysis (ii) Evolution in the Test Tube as a Means to Create Enantioselective Enzymes
2001	Kyriacos C. Nicolaou	The Scripps Research Institute, USA	(i) Total Synthesis in Perspective (ii) The CP-Molecule Synthetic Labyrinth
2002	Dieter Seebach	ETH Zürich, Switzerland	(i) From Tartaric Acid to TADDOL and Other Diphenylmethanol Derivatives for Enantioselective Syntheses and Beyond (ii) From Poly(β -hydroxybutyrates) (PHB) to β -Peptides Consisting of Homologated Proteinogenic Amino Acids -Chemical and Biological Investigations into a New World
2003	David A. Evans	Harvard University, USA	(i) Molecular Complexity: Studies in Natural Products (ii) Molecular Complexity: Studies in Asymmetric Catalysis
2004	J. Fraser Stoddart	University of California, Los Angeles, USA	The Nature of Mechanical Bond
2005	Koji Nakanishi	Columbia University, USA	(i) Ginkgolides and Bilobalide (ii) Bioorganic Studies on Age-Related Macular Degeneration
2006	Steven V. Ley	University of Cambridge, UK	(i) Natural Product Synthesis: A Stimulus for (ii) New Tools for Molecule Makers
2007	Larry E. Overman	University of California, Irvine, USA	(i) Intramolecular Heck Reaction in Natural Products Total Synthesis (ii) Recent Studies in Asymmetric Synthesis
2008	Barry M. Trost	Stanford University, USA	(i) Self Assembly of Dinuclear Main Group Catalysts for Asymmetric Synthesis (ii) Cycloadditions via TMM-Pd Intermediates: New Strategies for Total Synthesis and Asymmetric Induction
2009	Jean M. J. Fréchet	University of California, Berkeley, USA	(i) Designing Macromolecules for Chemo- and Immunotherapy (ii) Functional Macromolecules from Catalysis to Organic Electronics
2011	Eric N. Jacobsen	Harvard University, USA	(i) The Hydrolytic Kinetic Resolution Reaction (ii) Asymmetric Catalysis with Chiral Hydrogen-Bond Donors
2012	Paul Knochel	Ludwig-Maximilians-Universität, Germany	(i) Lewis Acid Triggered Reactions of Organometallics (ii) Recent Advances in Cross-Couplings
2013	Ben L. Feringa	University of Groningen, Nederland	(i) Exploring Chiral Space in Asymmetric Catalysis (ii) Dynamic Molecular Systems, from switches to motors
2014	John F. Hartwig	University of California, Berkeley, USA	(i) Regioselective Functionalization of Alkyl and Aryl C-H Bonds (ii) Fluoroalkylation and Fluorination
2015	Stuart Schreiber	Broad Institute and Harvard University, USA	(i) Chemistry towards novel mechanism-of-action (nMoA) compounds in therapeutics discovery (ii) Chemistry and human biology towards cancer therapeutics discovery
2016	Stephen Buchwald	Massachusetts Institute of Technology, USA	(i) Palladium-Catalyzed Carbon-Heteroatom Bond-Forming Reactions (ii) Cu-Catalyzed Asymmetric Hydrofunctionalization Processes in Organic Synthesis

名古屋メダルセミナー (1995年～2026年)

2017	E. W. "Bert" Meijer	Eindhoven University of Technology, Nederland	(i) From Groningen to Eindhoven – a personal journey (ii) The non-covalent synthesis of functional supramolecular systems (iii) The amplification of supramolecular chirality
2018	David W. C. MacMillan	Princeton University, USA	(i) Becoming a chemist and organocatalysis (ii) Photoredox catalysis, fundamentals and early discoveries (iii) Metallophotoredox and bioconjugation
2020	Carolyn R. Bertozzi	Stanford University, USA	(i) Therapeutic opportunities in glycoscience (ii) Targeted degradation of extracellular proteins with lysosome targeting chimeras (LYTACs)
2024	Alois Fürstner	Max-Planck-Institut für Kohlenforschung, Germany	(i) Formative Encounters with Catalysis (ii) A New Reactivity Paradigm: trans-Hydrogenation, gem-Hydrogenation & trans-Hydrometalation of Alkynes (iii) Adventures with Metal-Carbene Chemistry
2025	Erick M. Carreira	ETH Zurich, Switzerland	(i) Advances in HAT Catalysis for Olefin Functionalization (ii) Advances in Asymmetric Catalysis with [Ir] and [Ru] for Synthesis (iii) New Strategies and Tactics for Synthesis: Merging Total Synthesis and Methodology"

Special Award

※敬称略/所属機関は受賞時

2006	Her Royal Highness Princess Chulabhorn Mahidol	Recent Investigation of Cytotoxic Natural Products from Thai Plants
------	--	---

Silver Medal

※敬称略/所属機関は受賞時

開催年	氏名	所属機関	研究テーマ
1999	Keisuke Suzuki	Tokyo Institute of Technology	Synthetic Studies on Hybrid Natural Products-Toward Ravidomycin and Pradimicins
2000	Takuzo Aida	The University of Tokyo	Novel Nanostructured Polymeric Materials
2001	Eiichi Nakamura	The University of Tokyo	Synthetic Organic Chemistry of Carbon Cluster Complexes
2002	Shu Kobayashi	The University of Tokyo	Toward Truly Efficient and Powerful Organic Synthesis
2003	Makoto Fujita	The University of Tokyo	Molecular Self-Assembly through Coordination
2004	Keiji Maruoka	Kyoto University	Chiral Designer Phase Transfer Catalysts for Practical Asymmetric Synthesis
2005	Michinori Suginome	Kyoto University	New Boron-and Silicon-Based Reactions for Organic Synthesis
2006	Jun-ichi Yoshida	Kyoto University	Flash Chemistry: Fast Chemical Synthesis in Microsystems
2007	Mikiko Sodeoka	RIKEN	Bioactive Molecules : Methodology, Synthesis, and Chemical Biology
2008	Masahiro Murakami	Kyoto University	Carbon-Carbon Bond Forming and Cleaving Reactions by Rhodium Catalysis
2009	Kyoko Nozaki	The University of Tokyo	Ligand Design for Metal-catalyzed Polymerization of Polar Monomers
2011	Keiji Tanino	Hokkaido University	Design, Tactics, and Findings in Natural Product Synthesis

2012	Masahiro Terada	Tohoku University	Enantioselective Catalysis by Chiral Brønsted Acids and Bases
	Takahiko Akiyama	Gakushuin University	Control of Stereochemistry by Chiral Brønsted Acid Catalyst
2013	Naoto Chatani	Osaka University	New Chelation-Assisted Transformation of C-H Bonds
2014	Itaru Hamachi	Kyoto University	Protein organic chemistry under live cell conditions
2015	Zhaomin Hou	RIKEN	Rare Earth and Group 4 Metal Complexes for Novel Chemical Transformations
2016	Masaya Sawamura	Hokkaido University	Ligand Design for Efficient Organic Synthesis
2017	Hiroaki Suga	The University of Tokyo	Revolutionizing the discovery process of bioactive peptides
2018	Chihaya Adachi	Kyushu University	Advanced Molecular Design in Organic Semiconductors: Towards New Generation of OLEDs and Organic Lasers
2020	Motomu Kanai	The University of Tokyo	Synthetic perturbation of biomolecular structure dynamism with chemical catalysis
2024	Masayuki Inoue	The University of Tokyo	Total Synthesis of Highly Oxygenated Natural Products
2025	Hajime Ito	Hokkaido University	Emerging Mechanochemical Strategies for Organic Synthesis: Challenges and Prospects



Gold Medal & Silver Medal

Chemist Award BCA & Lectureship Award MBLA

(2004年～2025年)

敬称略
50音順

趣 旨	<p>日本の有機合成化学分野における若手研究者の独創性を喚起し、我が国の優秀な人材を育成することを旨として設立された賞である。有機合成化学分野において優れた業績をあげ今後の発展が期待される40歳未満の若手研究者を表彰。MBLA受賞者は、万有シンポジウムでの授賞式ならびに受賞講演を行うとともに、海外研究機関を巡る講演ツアーを実施。</p>			
選考委員	<p>石原 一彰 井上 将行 岩淵 好治 小林 修 澤村 正也 柴崎 正勝 新谷 亮 中尾 佳亮 ◎丸岡 啓二 ◎山本 尚 ◎選考委員長</p>	<p>名古屋大学大学院工学研究科 東京大学大学院薬学系研究科 東北大学大学院薬学研究科 東京大学大学院理学系研究科 北海道大学大学院理学研究院 公益財団法人微生物化学研究会 大阪大学大学院基礎工学研究科 京都大学大学院工学研究科 京都大学大学院薬学研究科 中部大学分子性触媒研究センター</p>		
歴代選考委員	<p>磯部 稔 金政 修司 永島 英夫 林 民生 山口 雅彦</p>	<p>稲永 純二 北 泰行 中村 栄一 平間 正博 山本 嘉則</p>	<p>大島 幸一郎 鈴木 啓介 奈良坂 紘一 宮浦 憲夫</p>	<p>香月 昺 袖岡 幹子 橋本 俊一 宮下 正昭</p>

任期終了につき所属等の記載は省略

Lectureship Award MBLA

※敬称略 / 所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
MBLA2004	井上 将行	東北大学 大学院理学研究科	神経細胞に作用する天然有機化合物の全合成
MBLA2005	金井 求	東京大学 大学院薬学系研究科	触媒的不斉炭素-炭素結合形成反応の創製と応用：四置換炭素のキラリティー制御
MBLA2006	寺尾 潤	大阪大学 大学院工学研究科	アニオン性遷移金属錯体を触媒活性種とする炭素-炭素及び炭素-ケイ素結合形成反応の新方法論
MBLA2007	伊丹 健一郎	名古屋大学 物質科学国際研究センター	オレフィンや芳香族化合物の触媒的直接化学変換に基づく機能性物質合成
MBLA2008	大森 建	東京工業大学 大学院理工学研究科	多環構造をモチーフとする生理活性天然物の全合成研究
MBLA2009	中尾 佳亮	京都大学 大学院工学研究科	協働金属触媒による炭素-炭素結合形成付加反応
MBLA2010	松永 茂樹	東京大学 大学院薬学系研究科	多点配位性キラルリガンドに基づく多核協奏機能不斉触媒の開発
MBLA2011	新谷 亮	京都大学 大学院理学研究科	遷移金属触媒による環状有機化合物の高選択的合成法の開発
MBLA2012	鷹巣 守	大阪大学 大学院工学研究科	不活性シグマ結合の触媒的変換反応の開発
MBLA2013	浦口 大輔	名古屋大学 大学院工学研究科	反応性イオン種の制御を志向したキラル有機イオン対触媒の創製と応用
MBLA2014	鷹谷 絢	東京工業大学 大学院理工学研究科	ケイ素配位子の動的挙動を鍵とする不飽和炭化水素の新分子変換反応の開発
MBLA2015	前田 理	北海道大学 大学院理学研究院	有機反応の系統的な理解と設計へ向けた反応経路自動探索法の開発
MBLA2016	生越 友樹	金沢大学 理工研究域物質化学系	超分子集合体を形成する柱型環状分子 Pillar[n]arene の合成
MBLA2017	熊谷 直哉	微生物化学研究会 微生物化学研究所	アミド化学の新展開
MBLA2018	深澤 愛子	京都大学 高等研究院物質・細胞統合システム拠点	第3周期典型元素の特性を生かした新奇 π 電子系の創製と機能開拓
MBLA2019	平野 康次	大阪大学 大学院工学研究科	極性転換の拡張に基づく新規結合形成手法の開拓
MBLA2020	大松 亨介	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所	イオン性分子の活用にもとづく高難度触媒反応
MBLA2021	南保 正和	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所	スルホニル基を基軸とした逐次的分子変換反応の開発
MBLA2022	山次 健三	東京大学 大学院薬学系研究科	エピゲノムへの合成的介入を可能にする化学触媒の開発
MBLA2023	星本 陽一	大阪大学 大学院工学研究科	分子間フラストレーションの精密制御で実現する典型元素触媒反応の深化
MBLA2024	久保田 浩司	北海道大学 大学院工学研究院	メカノケミカル法を活用した固体有機合成化学の開拓と展開
MBLA2025	三ツ沼 治信	東京大学 大学院薬学系研究科	sp ³ 炭素-水素結合官能基化反応を実現する触媒システムの創製

Chemist Award BCA & Lectureship Award MBLA

(2004年～2025年)

Chemist Award BCA

※敬称略/所属機関は応募時

年度	氏名	所属機関	研究テーマ
BCA2009	坂倉 彰	名古屋大学 エコトピア科学研究所	酸・塩基複合塩型触媒の精密設計を基盤とした高選択的合成法の開拓
	辻 勇人	東京大学 大学院理学系研究科	炭素環およびヘテロ環形成反応の開発と応用
	中尾 佳亮	京都大学 大学院工学研究科	協働金属触媒による炭素-炭素結合形成付加反応
	松永 茂樹	東京大学 大学院薬学系研究科	多点配位性キラルリガンドに基づく多彩な不斉反応場構築と複核協奏機能不斉触媒の開発
	山下 恭弘	東京大学 大学院理学系研究科	前周期遷移金属を活用する新規金属触媒および非金属触媒の開発研究
BCA2010	大栗 博毅	北海道大学 総合化学院 生物機能化学講座	天然物類似低分子群の迅速合成と構造多様性創出の新戦略
	國信 洋一郎	岡山大学 大学院自然科学研究科	レニウムおよびマンガン触媒を用いる高効率炭素-炭素結合形成反応の開発
	中村 達	東北大学 大学院理学研究科	σ 結合の切断を伴う π 酸性金属触媒反応の開発
	西村 貴洋	京都大学 大学院理学研究科	触媒的不斉共役アルキニル化およびアリール化反応
	山下 誠	東京大学 大学院工学系研究科	新規アニオン性ホウ素求核種の創製と応用
BCA2011	川崎 常臣	東京理科大学 総合研究機構	炭素および酸素同位体キラル化合物が引き起こす不斉合成反応と不斉自己触媒を用いた高感度不斉認識
	新谷 亮	京都大学 大学院理学研究科	遷移金属触媒による環状有機化合物の高選択的合成法の開発
	波多野 学	名古屋大学 大学院工学研究科	酸・塩基協奏作用を鍵とする高次機能塩触媒の創製
BCA2012	浦口 大輔	名古屋大学 大学院工学研究科	反応性イオン種の制御を志向したキラル有機イオン対触媒の創製と応用
	熊谷 直哉	微生物化学研究会 微生物化学研究所	協奏機能型不斉触媒の開発と医薬合成への応用
	鷹巣 守	大阪大学 大学院工学研究科	不活性シグマ結合の触媒的変換反応の開発
	羽村 季之	関西学院大学 理工学部	高ひずみ分子を用いた反応開発と応用
	松尾 豊	東京大学 大学院理学系研究科	機能分子の創製のためのフラレン誘導体の合成化学の研究
BCA2013	大野 浩章	京都大学 大学院薬学研究科	高効率な素反応の連続化を基軸とする分子構築法の開発と創薬リードの創出
	倉橋 拓也	京都大学 大学院工学研究科	メタラサイクル活性中間体の創製と触媒反応への応用
	土肥 寿文	立命館大学 薬学部	超原子価ヨウ素種を触媒とする新規合成法の開発
	三浦 智也	京都大学 大学院工学研究科	末端アルキンを起点とする高効率分子変換反応の開発
	山口 潤一郎	名古屋大学 大学院理学研究科	分子直接連結反応による生物活性分子の合成
BCA2014	井川 和宣	九州大学 先端物質化学研究所	新規有機ケイ素分子の創製とその応用
	イリエシュラウレアン	東京大学 大学院理学系研究科	鉄触媒を用いた炭素-水素結合活性化反応開発の研究
	大宮 寛久	北海道大学 大学院理学研究院	銅触媒の機能化に基づく高選択的有機合成反応の開発
	河内 卓彌	慶應義塾大学 理工学部	新規物質活性化法を駆使した革新的な触媒的官能基変換法の開発

	鷹谷 絢	東京工業大学 大学院理工学研究科	ケイ素配位子の動的挙動を鍵とする不飽和炭化水素の新分子変換反応の開発
BCA2015	内田 竜也	九州大学 基幹教育院	環境適応性を指向した新規不斉酸化反応の開発
	UYANIK MUHAMMET	名古屋大学 大学院工学研究科	ヨウ素酸化触媒システムの開発
	大橋 理人	大阪大学 大学院工学研究科	遷移金属活性種を活用したポリフルオロ化合物の自在変換法の創出
	五月女 宣裕	理化学研究所 袖岡有機合成化学研究室	鎖状有機触媒の精密機能制御に基づく動的な不斉触媒反応
	前田 理	北海道大学 大学院理学研究院	有機反応の系統的な理解と設計へ向けた反応経路自動探索法の開発
	前田 大光	立命館大学 薬学部	超分子集合体を形成するイオン応答性 π 電子系の合成
BCA2016	石川 勇人	熊本大学 大学院先端科学研究部	バイオインスパイアード反応および有機分子触媒反応を鍵工程とする生物活性化合物の全合成
	生越 友樹	金沢大学 理工研究域物質化学系	超分子集合体を形成する柱型環状分子 Pillar[n]arene の合成
	相馬 洋平	東京大学 大学院薬学系研究科	アミロイドタンパク質に対する革新的凝集阻害戦略の開発
	劔 隼人	大阪大学 大学院基礎工学研究科	Salt-free 還元法を駆使した高活性触媒反応の開発
	橋本 卓也	京都大学 大学院理学研究科	極性・ラジカル反応を制御する新しい触媒化学の開発
	美多 剛	北海道大学 大学院薬学研究院	二酸化炭素を用いた炭素-炭素結合生成を伴うカルボン酸誘導体の新規合成法の開発
	森 啓二	東京農工大学 大学院工学研究院	ヒドリド転位が拓く炭素-水素結合変換型環化反応の開発
BCA2017	下川 淳	名古屋大学 大学院創薬科学研究科	多能性中間体と新反応開発が拓く網羅的天然物合成研究
	滝田 良	理化学研究所 環境資源科学研究センター	芳香族化合物の未開拓な化学に挑戦する：新機能・新物性・新反応性を切り拓く化学
	塚野 千尋	京都大学 大学院薬学研究科	複雑さに特異な非対称性および不安定性を内包する生物活性天然物の全合成
	畠山 琢次	関西学院大学 理工学部	タンデムヘテロ Friedel-Crafts 反応の開発を鍵とした新材料化学
	平野 圭一	東京大学 大学院薬学系研究科	アート錯体化を基盤とした新規ヘテロ元素導入反応
BCA2018	石田 直樹	京都大学 大学院工学研究科	光と金属を活用する炭素-炭素単結合・炭素-水素結合の変換
	岩崎 孝紀	東京大学 大学院工学系研究科	複合金属錯体の特性を利用した触媒的炭素骨格構築反応の開発
	生長 幸之助	東京大学 大学院薬学系研究科	有機ラジカルの設計に基づく高化学選択的反応
	原野 幸治	東京大学 総括プロジェクト機構	高分解能電子顕微鏡を駆使した機能性有機化学の展開
	深澤 愛子	名古屋大学 大学院理学研究科	第3周期典型元素の特性を生かした新奇 π 電子系の創製と機能開拓
	宮本 和範	東京大学 大学院薬学系研究科	高周期超原子価ハロゲン化合物の化学特性を活用した新反応・新中間体・新理論の開発
BCA2019	安藤 吉勇	東京工業大学 理学院	キノン類の酸化還元を活用した天然物合成
	王 超	東京大学 大学院薬学系研究科	実験と理論の協奏で切り拓く高度分子変換反応の開発
	谷口 透	北海道大学 大学院先端生命科学研究院	キララ分光学による溶液分子構造解析が拓く有機化学

Chemist Award BCA & Lectureship Award MBLA

(2004年～2025年)

BCA2020	長友 優典	東京大学 大学院薬学系研究科	α -ヘテロ炭素ラジカルを活用した有機分子構築法の開発と高酸化度天然物の全合成
	平野 康次	大阪大学 大学院工学研究科	極性転換の拡張に基づく新規結合形成手法の開拓
	大松 亨介	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所	イオン性分子の活用にもとづく高難度触媒反応
	近藤 梓	東北大学 大学院理学研究科	有機超強塩基によるアニオンの触媒の発生を鍵とする分子変換反応の開発
	高石 和人	岡山大学 大学院自然科学研究科	精密立体制御に基づく円偏光発光色素の開発
BCA2021	村上 慧	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所	芳香族アミン合成に関わる遷移金属触媒反応の開発
	岩井 智弘	東京大学 大学院総合文化研究科	金属錯体反応場の空間設計に基づく効率的分子変換
	瀬川 泰知	分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域	湾曲した芳香族炭化水素の合成と性質解明
	南保 正和	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所	スルホニル基を基軸とした逐次的分子変換反応の開発
BCA2022	村井 征史	名古屋大学 大学院理学研究科	6,7 族金属カルベン種の特性を活かした高化学選択的な炭素-炭素結合形成反応の開発
	Shang Rui	東京大学 理学部	鉄触媒反応を基軸とする有機合成と機能性材料への応用
	西本 能弘	大阪大学 大学院工学研究科	典型金属の特性を活用した高難度有機合成反応の開発
	野田 秀俊	微生物化学研究会 微生物化学研究所	理論と実験の協働で拓く高難度分子変換：環境調和型ナイトレン生成法の開拓と反応性制御
	矢崎 亮	九州大学 大学院薬学研究院	アミノ酸とカルボン酸を用いた触媒反応が拓く新規分子創出
BCA2023	山次 健三	東京大学 大学院薬学系研究科	エピゲノムへの合成的介入を可能にする化学触媒の開発
	伊藤 英人	名古屋大学 大学院理学研究科	芳香環縮環連結法の開拓
	小西 彬仁	大阪大学 大学院工学研究科	金属種の特性を活かした非ベンゼン骨格構築と性質解明
	星本 陽一	大阪大学 大学院工学研究科	分子間フラストレーションの精密制御で実現する典型元素触媒反応の深化
BCA2024	吉野 達彦	北海道大学 大学院薬学研究院	高い求電子性を有する触媒・分子の創出と制御に基づく有機化学反応
	伊藤 寛晃	東京大学 大学院薬学系研究科	固相戦略が拓くペプチド系複雑天然物の全合成と機能応用への展開
	楠本 周平	東京都立大学 理学部	シクロペンタジエノン金属錯体の金属-配位子協働を基軸とする結合の不均等切断・形成
	久保田 浩司	北海道大学 大学院工学研究院	メカノケミカル法を活用した固相有機合成化学の開拓と展開
BCA2025	原田 慎吾	千葉大学 大学院薬学研究院	銀触媒系を基盤とする高化学選択的・エナンチオ選択的な有機合成反応
	浅子 壮美	理化学研究所 環境資源科学研究センター	分子認識と活性化による多様な資源の精密変換
	北之園 拓	東京大学 大学院理学系研究科	有機溶媒中では得られない水中ならではの有機合成化学
	服部 倫弘	中部大学 先端研究センター	アミノ酸保護基の活用および未使用で進行する革新的ペプチド伸長反応開発
	三ツ沼 治信	東京大学 大学院薬学系研究科	sp ³ 炭素-水素結合官能基化反応を実現する触媒システムの創製

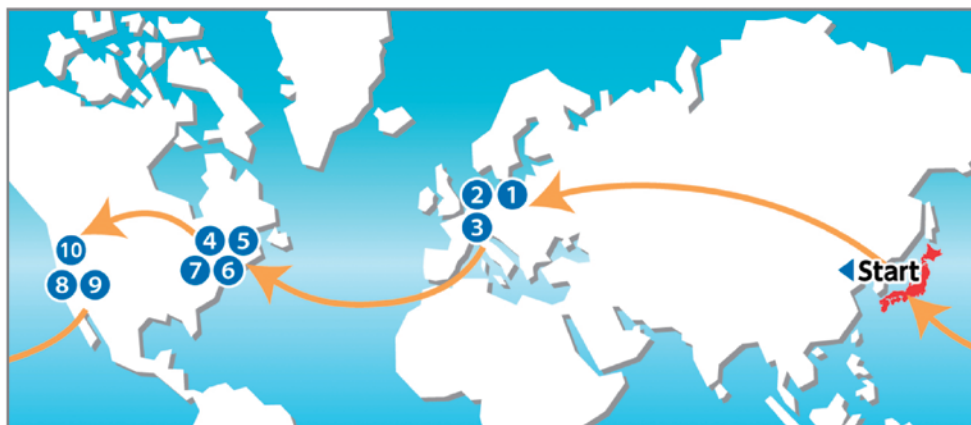


BCA



MBLA

MBLA受賞者には、海外著名大学及び研究機関をめぐる講演ツアーが計画されます。




(Universities/Research Institutes)

- ① LMU Munich
- ② Max-Planck Institute for Coal Research
- ③ ETH Zurich
- ④ Princeton University
- ⑤ Merck Research Laboratories
- ⑥ MIT
- ⑦ Harvard University
- ⑧ Caltech
- ⑨ University of California Berkeley
- ⑩ Stanford University

(Host)

- Dr. Oliver Trapp
- Dr. Benjamin List
- Dr. Erick M. Carreira
- Dr. Helma Wennemers
- Dr. David W.C. MacMillan
- Dr. LC Campeau
- Dr. Rick L. Danheiser
- Dr. Eric Jacobsen
- Dr. Gregory C. Fu
- Dr. F. Dean Toste
- Dr. Noah Zachary Burns

趣 旨	日本の有機合成化学が今後も世界をリードし続けるため“真のリーダーを早期から養成する”ことが不可欠であるとの認識の下に、「大津会議」を開始。優秀で志の高い若手研究者が全国から集まり、相互に多様な刺激を与え合い、有機化学分野の知識・技術を基盤とした専門性に更に磨きをかける。広い視野の元で画期的なビジョンを創造する力、専門領域を超えダイナミックに研究を展開する力といった、日本の科学界全体をリードする資質を養成。		
組織委員	柴崎 正勝 公益財団法人微生物化学研究会 ◎丸岡 啓二 京都大学大学院薬学研究科 山本 尚 中部大学分子性触媒研究センター ◎組織委員長		
歴代組織委員	依光 英樹 鈴木 國夫	任期終了につき所属等の記載は省略	

会員

期 (年)	氏 名 (会員番号順)			
第1期生 (2010年)	伊藤 英人 田中 亮 上木 佑介 永縄 友規	溝口 玄樹 藤間 達哉 大町 遼 林 一広	齋藤 望 長谷川 康晴 阿野 勇介 藤田 友紀	藤原 栄人 松本 有正 岩井 智弘 吉原 大輔
第2期生 (2011年)	水野 彰 喜来 直裕 堀部 貴大 村上 慧	一ノ瀬 亘 坪郷 哲 齊藤 輝彦 大川原 徹	笹野 裕介 藤田 大士 橋本 士雄磨 小熊 卓也	木村 康明 河合 洋幸 星本 陽一
第3期生 (2012年)	川守田 創一郎 楠本 周平 家田 直弥 山岡 信貴	花田 良輔 田原 淳士 仲辻 秀文 百合野 大雅	戸田 泰徳 中島 一成 岩本 貴寛 高嶋 一平	山本 浩司 森田 昌樹 八幡 健三 森 崇理
第4期生 (2013年)	長尾 一哲 荒巻 吉孝 堤 亮祐 坂本 龍	星谷 尚亨 池本 晃喜 西山 義剛 長江 春樹	鹿又 喬平 安川 知宏 武藤 慶 諸藤 達也	松野 太輔 吉野 達彦 川本 拓治 澁谷 亮三
第5期生 (2014年)	大澤 歩 中野 遼 赤井 勇斗 仲江 朋史 森崎 一宏	宮川 雅道 松原 立明 岩田 隆幸 長田 浩一	市塚 知宏 吉岡 翔太 川又 優 西井 祐二	北之園 拓 天池 一真 土井 良平 野木 馨介
第6期生 (2015年)	久保田 浩司 高橋 京佑 大島 寛也 杉山 公二	石川 敬章 中嶋 龍 林 裕樹 今吉 亜由美	長澤 翔太 増田 光一郎 八木 亜樹子 中村 斐有	栗山 翔吾 山本 久美子 黒田 悠介 福井 識人

期 (年)	氏 名 (会員番号順)			
第7期生 (2016年)	村上 遼 鈴木 弘嗣 藤川 鷹王 内藤 順也	梅原 厚志 鳥海 尚之 太田 庸介 増田 侑亮	秋山 みどり 中島 誠也 清水 大貴 小嶺 敬太	小島 正寛 安藤 祐一郎 鳥越 尊 平田 剛輝
第8期生 (2017年)	岩本 紘明 松並 明日香 青田 雄介 木下 拓也 中武 大貴	岡村 俊孝 山下 博子 大井 翔太 中室 貴幸	永澤 彩 寄立 麻琴 大木 暁登 東田 皓介	齋藤 由樹 吉村 柁彦 加茂 翔伍 安井 基博
第9期生 (2018年)	陳 昱究 谷藤 涼 加藤 健太 河島 拓矢	芳井 朝美 藤野 遥 山田 康平 櫻井 舜也	梶野 英俊 楊 沢コン 加藤 研一 松本 晃	長野 正展 吉田 拓未 川北 健人 苅田 讓
第10期生 (2019年)	秋山 颯太 仲谷 学 二宮 良 田中 津久志	越野 晴太郎 中島 翼 本間 千裕 田主 陽	鈴木 亮人 芦田 慶太 松岡 純平	高田 悠里 齊藤 颯 安井 孝介
第11期生 (2020年)	小澤 友 一色 遼大 東 拓也 井上 まりこ	高野 秀明 大井 未来 大村 修平 平尾 宏太郎	林 和寿 金井田 將裕 前島 咲 藤本 隼斗	浅輪 泰允 島川 典 松岡 和 黒尾 明弘
第12期生 (2021年)	瀬尾 珠恵 福永 隼也 安川 直樹 野村 幸汰 梅野 圭太郎	田上 拓磨 宮岸 拓路 有川 忍 藤井 郁哉 山田 あかね	道場 貴大 榊原 陽太 加藤 夏己 山口 亞由太 山崎 賢	平田 翼 鈴木 隆平 長野 倫 長野 秀嗣 山本 雅納
第13期生 (2022年)	高橋 陸朗 梅寺 倅平 久田 智也 関 凜 清川 慎介	張本 尚 栗原 崇人 正田 浩一朗 山内 泰宏	小池 太智 竹内 碧 山根 三奈 七條 慶太	中根 啓太 野上 純太郎 上田 彩果 西依 隆一
第14期生 (2023年)	安藤 廉平 武政 雄大 和山 稔明 前田 文平	神名 航 野崎 多実子 山田 圭悟 村上 翔	会田 和広 福間 翔太 井芹 建太	秋吉 美里 光本 泰知 橋本 大輝
第15期生 (2024年)	近藤 恵祐 中原 輝 森田 悠斗 奥野 研	平田 裕己 橋床 亜伊瑠 遠山 祥史 小川 博栄	今井 恭祐 松山 剛大 小島 有貴 奥 直樹	田上 湖都 萬代 遼 安澤 樹一
第16期生 (2025年)	小菅 周斗 チェン タツクン 島田 大地 尾崎 友哉	波多野 裕太郎 豊邊 萌 木之下 拓海	佐藤 悠 守屋 瑛人 後藤 大和	白水 俊丞 井本 大貴 西野 荘大

KYOTO Rising-Star Lectureship Award

(2020年～2025年)

敬称略
50音順

趣 旨	優秀な海外若手研究者を表彰し日本に招聘する事により、日本の若手研究者との交流を推進し国際的研究ネットワークの構築を支援。日本の若手研究者の活性化と将来にわたる日本の有機化学の発展に寄与する。		
選考委員	大井 貴史	名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所	
	金井 求	東京大学大学院薬学系研究科	
	田中 健	東京科学大学物質理工学院	
	鳶巣 守	大阪大学大学院工学研究科	
	◎ 丸岡 啓二	京都大学大学院薬学研究科	
	◎選考委員長		
歴代選考委員	生越 専介		任期終了につき所属等の記載は省略

敬称略

開催年	氏名	所属機関	受賞講演タイトル
2020	David Sarlah	Department of Chemistry, University of Illinois at Urbana-Champaign, USA	Photoenzymatic Catalysis-Using Light To Reveal New Enzyme Functions
2021	Josep Cornella	Department of Chemistry, Max-Planck-Institut für Kohlenforschung, Germany	Bismuth Redox Catalysis
2022	Da-Gang Yu	College of Chemistry, Sichuan University, China	CO ₂ Utilization in Organic Synthesis
2023	Song Lin	Cornell University, USA	Amping Up Organic Synthesis with Electrochemistry
	Todd K. Hyster	Princeton University, USA	Photoenzymatic Catalysis - Using Light to Reveal New Enzyme Functions
2024	Mark Daniel Levin	University of Chicago, USA	Replacing Atoms
	Chang Guo	University of Science and Technology of China, China	Electricity-Enhanced Asymmetric Radical Reaction
2025	Ming Joo Koh	National University of Singapore, Singapore	Simplifying Synthesis through Photochemical Editing
	Zachary Wickens	University of Wisconsin-Madison, USA	Selective Synthesis using Light and Electricity



Suzuki Kunio Symposium

敬称略 / 所属は開催時

趣 旨	<p>万有シンポジウム（札幌、仙台、福岡シンポジウムおよび名古屋メダルセミナー）を創設し、長年に亘りこの活動を第一線で常に支え続けてきた鈴木國夫氏（元万有製薬株 取締役）の有機合成化学分野への貢献を記念し、山本尚教授（シカゴ大学）、柴崎正勝教授（東京大学）が鈴木氏の業績に謝意を表し企画されたシンポジウムである。</p>
プログラム	<p>◇ 開催日：2008年9月26日（金）</p> <p>◇ 会場：東京大学 一条ホール</p> <p>◇ Organizer：山本 尚（シカゴ大）、柴崎 正勝（東大薬）</p> <p>◇ 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Justin Du Bois (Stanford Univ.) [The Allure of the Guanidinium Toxins as Targets for Chemical Synthesis] ・ 柴崎 正勝（東大） [Recent Progress in Asymmetric Two-Center Catalysis] ・ 魚住 泰広（分子研） [Development of Heterogeneous Aquacatalytic Systems toward Ideal Organic Synthesis] ・ Antonio Togni (ETH) [Fluorination and Trifluoromethylation Reactions: Mechanistic and Synthetic Aspects] ・ 山本 尚（シカゴ大） [Design of Metal and Non-metal Catalysts for Organic Synthesis] <p>◇ 挨拶 野依 良治（理研）、向山 光昭（北里研）</p>

Lectureship Award MBLA 10周年記念特別講演会

敬称略 / 所属は開催時

趣 旨	<p>Lectureship Award MBLA は受賞者の欧米一流研究機関を巡る講演ツアーを通して、日本の優秀な若手の研究者を世界的に visible にすると同時に、海外トップ研究者との強固なネットワーク形成を推進してきた。10年を機に行う本講演会は、最先端の知見に触れるのみならず、研究者の国際的視野と人材育成の重要性を再確認する機会である。</p>
プログラム	<p>◇ 開催日：2015年3月29日（日）</p> <p>◇ 会場：日本大学理工学部 船橋キャンパス（日本化学会第95春季年会内）</p> <p>◇ 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浦口 大輔（名大） [Catalysis of Chiral Aminophosphonium Salts] ・ 鳶巢 守（阪大） [Catalytic Transformations of Strong σ-Bonds: Recent Findings] ・ 新谷 亮（東大） [Catalytic Asymmetric Synthesis of Silicon-Stereogenic Organosilanes] ・ 松永 茂樹（東大） [C-C Bond-Forming Reactions under Proton-Transfer Process-from Asymmetric Catalysis to C-H Functionalization-] ・ 中尾 佳亮（京大） [Cross-Coupling Reactions by Cooperative Metal Catalysis] ・ 大森 建（東工大） [Control of Atropisomerism, Enabling Efficient Synthetic Access to Natural Products] ・ 伊丹 健一郎（名大） [Catalysis for Carbon Materials and Plant/Animal Biology] ・ 寺尾 潤（京大） [Synthesis of Functionalized Insulated Molecular Wire Directed toward Molecular Electronics] ・ 金井 求（東大） [Artificial Epigenetics for Catalysis Medicine] ・ 井上 将行（東大） [Radical-Based Approach for Synthesis of Complex Natural Products]

四半世紀記念万有シンポジウム 一万有シンポジウムの総括と発展一

敬称略 / 所属は開催時

趣 旨	四半世紀を超えて有機合成化学分野の支援を継続し、多くの研究者育成に貢献した公益財団法人MSD生命科学財団の功績、さらには万有シンポジウム活動の意義について改めて考える機会として、実行委員会の発案により企画されたシンポジウムである。
実行委員	○藤田 誠 (東大)、◎中村 栄一 (東大)、井上 将行 (東大)、内山 真伸 (東大)、小林 修 (東大)、鈴木 啓介 (東工大) ◎：発起人代表、○：実行委員代表
顧 問	野依 良治 (JST)、鈴木 章 (北大)、根岸 英一 (バドュー大)、向山 光昭 (北里大)、山本 尚 (中部大)、柴崎 正勝 (微化研)、玉尾 皓平 (理研)、村井 眞二 (阪大)
プログラム	◇ 開催日：2016年12月3日(土) ◇ 会場：東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール ◇ 主催：四半世紀万有シンポジウム実行委員会 ・ 徳山 英利 (東北大) [Total Synthesis of Dimeric Indole Alkaloids via Late-Stage Chemoselective Oxidation] ・ 伊丹 健一郎 (名大) [Exploring the power of molecules by rapid synthesis catalysts] ・ 相田 卓三 (東大) [Toward Upper Hierarchical Levels] ・ 山本 尚 (中部大) [Substrate-Controlled Organic Transformation and Further] ・ 大村 智 (北里大) [Discovery of Microbial Products with Specific Biological Targets] ◇ 挨拶：野依 良治、鈴木 章、根岸 英一、藤田 誠、中村 栄一 ほか

Lectureship Award MBLA20周年記念特別講演会

敬称略 / 所属は開催時

趣 旨	Lectureship Award MBLA 設立 20 年を記念し、約 10 年ぶりに MBLA 受賞者による講演会を実施。受賞者が英語で行う講演は、最先端研究の紹介だけでなく、国際社会に通用する研究者の資質を示すものであり、グローバル人材の育成及び化学の国際競争力強化に寄与する機会である。
プログラム	◇ 開催日：2024年3月19日(火) ◇ 会場：日本大学理工学部 船橋キャンパス (日本化学会第104春季年会内) ◇ 講演 ・ 山次 健三 (千葉大) [A Catalyst for Epigenome Sensing and Regulation] ・ 南保 正和 (名大) [Radical-based Transformations through Reductive Carbon-Sulfonyl Bond Activation] ・ 大松 亨介 (名大) [Photocatalytic Reactivity of Zwitterions] ・ 平野 康次 (阪大) [Extended Umpolung: Aromatic, Nitrogen, Phosphorus, and Beyond] ・ 深澤 愛子 (京大) [Exploring Novel Nonbenzenoid Hydrocarbons toward Unusual Yet Stable Optoelectronic Materials] ・ 熊谷 直哉 (慶大) [New Research Playground after MBLA] ・ 生越 友樹 (京大) [Supramolecular Assemblies and Systems Based on Pillar-Shaped Macrocyclic Compounds "Pillar[n]arenes"] ・ 前田 理 (北大) [Reactivity prediction based on quantum chemical calculations] ・ 鷹谷 絢 (東工大) [Exploration of New Molecular Catalysis and Reactivity] ・ 山本 尚 (中部大) 特別講演「破壊的イノベーション」

大津会議15周年特別講演会 ～15年における成長の軌跡～

敬称略 / 所属は開催時

趣 旨	<p>国際社会に通用する卓越したリーダー型研究者の育成を目指し、優秀な博士課程学生が討論し切磋琢磨する場として大津会議が設立された。設立 15 年を機に、30 代後半となり各自のフィールドを確立し活躍する大津会議フェローが講演。大津会議の成果を振り返るとともに次世代啓発の機会である。</p>
プログラム	<p>◇ 開催日：2025 年 3 月 28 日（金）</p> <p>◇ 会場：関西大学 千里山キャンパス（日本化学会第 105 春季年会内）</p> <p>◇ 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤 英人（名大） 「方法論開発が拓くナノカーボン合成の新展開」 ・齋藤 望（PwC コンサル） 「産官学連携の取組と重要性、アカデミア出身コンサルとして関わる面白さ」 ・岩井 智弘（東大） 「分子を超えた触媒デザインと機能創出」 ・星本 陽一（阪大） 「分子を活用したガス精製への新たな挑戦」 ・村上 慧（関学） 「窒素化合物の反応化学 ～今、そして未来へ～」 ・楠本 周平（都立大） 「炭素の電子状態の逆転と反応性」 ・百合野 大雅（北大） 「シアニドの『逆転』導入法の開拓」 ・長尾 一哲（京大） 「有機電子供与・受容体の機能化に基づく有機合成」 ・池本 晃喜（東大） 「フェニンナノカーボン分子の化学：分野横断型発想と展開」 ・武藤 慶（名大） 「触媒的脱芳香族化を鍵とする有機合成」

Lectureship Award MBLA10 周年記念特別講演会

四半世紀記念万有シンポジウム



事業概要

その他

薬理・生命科学セミナー／製剤研究フォーラム／創薬工学シンポジウム
環太平洋学生キャンプ

薬理・生命科学セミナー (1998年～2006年)

敬称略

趣 旨	薬理学・生命科学を志す若手研究者に対し「最先端研究でありながら、若い研究者にも理解しやすいセミナー」を目指し、『若手研究者のための生命科学セミナー』を開始。「分子レベルから生体に」というスローガンのもとに、9回にわたり第一線の研究者によるセミナーを開催。セミナー参加者（延べ2000人以上）には、薬理学・生命科学の研究の魅力、そして部品だけでなく生体の行動や機能に興味をもつ事の大切さを啓蒙。			
歴代組織委員	赤池 昭紀 桂木 猛 二木 鋭雄	井樋 慶一 唐木 英明 三上 章允	稲垣 千代子 神庭 重信	尾仲 達史 玉置 憲一

終了プログラムにつき所属等の記載は省略

製剤研究フォーラム (1999年～2006年)

敬称略

趣 旨	製剤と薬物動態領域の発展を目指し、製剤研究分野と薬物動態研究分野の融合を目指した特異なフォーラムとして開始。優秀な若手研究者を表彰する「万有薬剤学奨励賞」や優秀なポスター発表者（学生）の表彰を行い、次世代研究者の育成にも貢献。			
歴代組織委員	杉山 雄一 真弓 忠範	辻 彰 山下 伸二	永井 恒司	橋田 充

終了プログラムにつき所属等の記載は省略

創薬工学シンポジウム (2001年～2006年)

敬称略

趣 旨	製剤と薬物動態領域の発展を目指し、製剤研究分野と薬物動態研究分野の融合を目指した特異なフォーラムとして開始。優秀な若手研究者を表彰する「万有薬剤学奨励賞」や優秀なポスター発表者（学生）の表彰を行い、次世代研究者の育成にも貢献。 2006年（延べ参加者約1700名）をもってフォーラムは終了したが、フォーラムの意思を引き継ぎ、日本薬剤学会との協力により、製剤・薬物動態分野の若手研究者育成を目指す「日本薬剤学会大学院生主催シンポジウム (SNPEE-Student Network for Pharmaceutics Education and Evolution)」を支援。			
歴代組織委員	荒殿 誠 篠原 邦夫 山本 恵司	上ノ山 周 寺部 茂 綿野 哲	川島 嘉明 寺前 紀夫	後藤 雅宏 長棟 輝行

終了プログラムにつき所属等の記載は省略

環太平洋学生キャンプ (1998年～2015年)

趣 旨	環太平洋学生キャンプはわが国で初めての組織的教育キャンプである「全日本学生キャンプ」(1951年、読売新聞社が創設)の伝統と実績のなかからスタート。中学生・高校生がキャンプを通し、相互理解と関心を深める体験を得るため、特定非営利活動法人(NPO)環太平洋学生キャンプ、日本テレビ放送網株式会社が主催し、弊財団の他、各社の後援・協賛とボランティアスタッフによって運営・実施。
-----	--

公益財団法人MSD生命科学財団 活動記録

発行日 2026年3月

発行 〒102-8667

東京都千代田区九段北一丁目13番12号 北の丸スクエア

電話：03-6272-1098

FAX：03-6238-9128

URL：<https://www.msd-life-science-foundation.or.jp/>

印刷 株式会社 あさひ印刷

〒710-0826 岡山県倉敷市老松町 2-8-24

TEL：086-422-2900

FAX：086-422-2901



公益財団法人 MSD 生命科学財団

〒102-866 東京都千代田区九段北一丁目13番12号 北の丸スクエア

TEL.03-6272-1098

FAX.03-6238-9128

<http://www.msd-life-science-foundation.or.jp>